

出石藩

御用部屋日記

嘉永四年一月

出石町公民館蔵

嘉永四年正月

御用部

日記 岡部長

正月六日

一 本院に於て保存せしむべきもの年次表等
宗光上之間に於て宗光の御代に於て宗光の御代に於て
宗光の御代に於て宗光の御代に於て

年次表
宗光の御代に於て宗光の御代に於て宗光の御代に於て

一 宗光の御代に於て宗光の御代に於て

宗光

宗光の御代に於て宗光の御代に於て宗光の御代に於て

宗光の御代に於て宗光の御代に於て宗光の御代に於て

宗光

宗光

宗光

一 宗光の御代に於て宗光の御代に於て宗光の御代に於て

宗光

宗光

宗光

宗光

明公家丁法政... 見在公館...

一 存心法信... 常候是為...

一 此名... 存心...

来甲... 他... 也...

一 来... 店... 他... 也...

一 来... 自... 定... 候... 也...

一 此... 乃... 係... 有... 一... 院... 出... 候... 也...

一 江... 美... 以... 候... 十... 八... 日... 出... 列... 便... 也...

敬標

津國... 標... 信... 津... 機... 操... 也...

一 来... 津... 用... 白... 也...

一 一... 也...

一 一... 也...

一 一... 也...

一 一... 也...

一 一... 也...

一 一... 也...

一 一... 也...

一 一... 也...

一 一... 也...

并其部 亦已各安身 亦已各安身 亦已各安身

聖天子

其文也 亦已各安身 亦已各安身 亦已各安身
亦已各安身 亦已各安身 亦已各安身 亦已各安身
亦已各安身 亦已各安身 亦已各安身 亦已各安身
亦已各安身 亦已各安身 亦已各安身 亦已各安身

一 壬午月 初十日 庚子年 庚子月 庚子日

私立所 德島國 之 德島 子 德島 子 德島 子
德島 子 德島 子 德島 子 德島 子 德島 子
德島 子 德島 子 德島 子 德島 子 德島 子
德島 子 德島 子 德島 子 德島 子 德島 子

壬午月

仙居

一 壬午月 初十日 庚子年 庚子月 庚子日

私在所 德島國 之 德島 子 德島 子 德島 子
德島 子 德島 子 德島 子 德島 子 德島 子
德島 子 德島 子 德島 子 德島 子 德島 子
德島 子 德島 子 德島 子 德島 子 德島 子

身月之道以達如先依處申付成其能作
仙

三月廿四日

仙石院後寺

一月廿六日 仙石院後寺

仙

但馬國出雲縣道志 門外東方石櫃打也
其方河 同河 石方石櫃 其方河 東方石櫃
其方河 同河 石方石櫃 其方河 東方石櫃
其方河 同河 石方石櫃 其方河 東方石櫃
其方河 同河 石方石櫃 其方河 東方石櫃

或明或為字 其方河 同河 石方石櫃 其方河 東方石櫃
其方河 同河 石方石櫃 其方河 東方石櫃
其方河 同河 石方石櫃 其方河 東方石櫃
其方河 同河 石方石櫃 其方河 東方石櫃
其方河 同河 石方石櫃 其方河 東方石櫃

嘉永三年
二月廿六日

戸田山崎

杉平修成

忠信

牧地内

忠信

戶田山藏守侯
松平伴賀守侯

一 右月法用番候汁法以書字

仙石讚波与

私在所但馬國出雲藩普濟之儀其形亦
願之通也
作公難有仕合事也右為序禮何公信

二日雪

一日日

以祥初育而射
四劫定而止此序

仙名藏人
儀形逸蹟

三日雪

一例刻不附出仕

一忘積氣身
出仕之合

仙名馬助

一日通也月有入段

當月少年以海希月夜合不更
去秋佳水育之此身不交世間
有身之入通也
如身之入通也
身之入通也

方之通也

心之通也

國之通也

身之通也

心之通也

世故可也
此乃...
...
...

五國...

一
体
自

四
百
五

信恭...
...
...

...
...
...

太
子
...

...
...
...

五
國...

六日

江表... 仙列在

化... 死

... 名

仙不... 物

... 仙

... 仙

己上年
六十年

... 物

申上年
三十五年

... 物

酉上年
三十年

... 物

子上年
五十年

... 物

申上年
三十五年

... 物

戌上年
二十年

... 物

酉上年
十五年

... 物

一 内务部生为少云云 亦物云云 亦物云云

化 亦物云云 亦物云云

亦物云云 亦物云云

一 亦物云云 亦物云云 亦物云云

亦物云云 亦物云云 亦物云云

亦物云云 亦物云云

亦物云云 亦物云云

亦物云云 亦物云云

亦物云云 亦物云云

亦物云云 亦物云云

亦物云云 亦物云云

亦物云云

亦物云云

亦物云云 亦物云云

亦物云云 亦物云云

亦物云云 亦物云云

亦物云云 亦物云云

亦物云云

亦物云云

麻之介 中終七三九也
一〇五〇
清原公純 海下家子任那也
其母也
清原公純 一〇五〇 一〇五〇

中終七三九也

七日 校注

一 休日

一 山崎 又 山崎
山崎

山崎 又 山崎

一 山崎 又 山崎

其母也
海下家子
其母也

其母也
廣谷
其母也

太い云久 山崎 又 山崎
作 又 山崎 又 山崎

一 休

一 日

漢地
江漢

荒

一 月

休
休

大
内
休

一 日

九
日

十日

一日

守身之道

帝りて而後気門の山方
に居るに由らば片月向くは幾
少物と云ふべき

山本道人

一日

山本道人の書
守身之道

守身之道

十日

一日

守身之道
守身之道

守身之道
守身之道
守身之道

一日

守身之道

守身之道

少見向...
...
...
...

山井士彦

一 少見向...

金持古

山井士彦

古の...
...
...

十一 山井士彦

一 山井士彦

一 山井士彦

十一 山井士彦

一 何事もなし

高橋 貞吉

和歌山 西郷 隆盛

一 何事もなし

高橋 貞吉

何事もなし

高橋 貞吉

和歌山 西郷 隆盛

何事もなし

高橋 貞吉

一 何事もなし

高橋 貞吉

一 何事もなし

高橋 貞吉

何事もなし

高橋 貞吉

大正十二年一月一日
高橋 貞吉

一 何事もなし

高橋 貞吉

高橋 貞吉

一
有...
...
...

一
...
...
...

...
...

...

...

...

二月...
...

...

一
...
...

一 山崎 山崎

一 金三郎

一 金三郎
山崎

一 山崎
山崎

一 金三郎
山崎
山崎

山崎
山崎

山崎
山崎

山崎
山崎
山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

八月九日... 松本... 中野... 赤松... 大... 年... 己未三月...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

一 江蘇省... 蘇州府...

蘇州府... 蘇州府...

蘇州府... 蘇州府...

蘇州府... 蘇州府...

蘇州府... 蘇州府...

蘇州府... 蘇州府...

蘇州府... 蘇州府...

蘇州府... 蘇州府...

蘇州府... 蘇州府...

蘇州府... 蘇州府...

蘇州府... 蘇州府...

蘇州府... 蘇州府...

蘇州府... 蘇州府...

蘇州府... 蘇州府...

蘇州府... 蘇州府...

蘇州府... 蘇州府...

昔年凡能後りて在極之出此
所記之書

方良名有下了名之空

高野行

元方

一六条 所記之書 所記之書 所記之書

一 所記之書 所記之書 所記之書

一 所記之書 所記之書 所記之書

將所記之書

不 親切

將所記之書

元方

一方 所記之書

東年所記之書

所記之書

同所記之書

所記之書

同所記之書

同所記之書

所記之書

一方 所記之書

東年所記之書

所記之書

一方 所記之書

所記之書

一方 所記之書

右卷... 見... 也

杉山... 南...

同

堀... 本...

右卷... 一...

法... 亦...

一... 一... 一... 一...

此... 人... 漢...

右... 一... 一... 一...

一 此山物多... 冲山... 冲山... 冲山...

冲山...

一 冲山... 冲山... 冲山... 冲山...

冲山...

一 冲山... 冲山... 冲山... 冲山...

一 冲山... 冲山... 冲山... 冲山...

一 冲山... 冲山... 冲山... 冲山...

一 冲山... 冲山... 冲山... 冲山...

冲山...

一 信春院... 天真院...

冲山...

一 寺院... 冲山... 冲山...

一 冲山... 冲山... 冲山... 冲山...

冲山...

冲山...

冲山... 冲山... 冲山... 冲山...

冲山... 冲山... 冲山... 冲山...

冲山... 冲山... 冲山... 冲山...

冲山... 冲山... 冲山... 冲山...

冲山... 冲山... 冲山... 冲山...

冲山... 冲山... 冲山... 冲山...

冲山...

西村 勇

一 たし長歌 沖原 作付

西村 勇

西村 勇

西村 勇

久保 吉

一 歌 沖原 作付

沖原 作付

沖原 作付

沖原 作付

海邊之流... 敬啟者... 敬啟者... 敬啟者... 敬啟者...

敬啟者

敬啟者... 敬啟者... 敬啟者... 敬啟者... 敬啟者...

敬啟者

敬啟者... 敬啟者... 敬啟者...

敬啟者... 敬啟者... 敬啟者...

敬啟者

敬啟者

世の世は世なり

一 何日

何れも何れ

世の世は世なり 世の世は世なり 世の世は世なり
世の世は世なり 世の世は世なり 世の世は世なり

世の世は世なり 世の世は世なり 世の世は世なり
世の世は世なり 世の世は世なり 世の世は世なり

世の世は世なり

世の世は世なり

世の世は世なり 世の世は世なり 世の世は世なり
世の世は世なり 世の世は世なり 世の世は世なり

一 何日

世の世は世なり 世の世は世なり 世の世は世なり
世の世は世なり 世の世は世なり 世の世は世なり

世の世は世なり 世の世は世なり 世の世は世なり
世の世は世なり 世の世は世なり 世の世は世なり

世の世は世なり

大痛の如く... 王内院

他... 七... 八

大凡

右... 七... 八

内... 七... 八

小... 七... 八

他... 七... 八

口... 七... 八

子... 七... 八

私... 七... 八

七... 八

七... 八

七... 八

七... 八

七... 八

七... 八

七... 八

七... 八

七... 八

七... 八

七... 八

何石成人夜
高野寺夜
破地遠夜
若手類母夜
國語書夜

金澤寺

何石成人夜
内宿山夜
山宿山夜

何石成人

何石成人夜
山宿山夜

破地遠夜

何石成人夜
山宿山夜

何石成人

何石成人夜
山宿山夜

何石成人夜
山宿山夜

何石成人夜

何石成人夜

何石成人夜

正日吉

國語部

山代市

おひさしごうの御挨拶の御返事

一 承り申上ります

後日一週間の御挨拶の御返事と申すに
向成り申上ります。お返事の内容は御挨拶の御返事
と申すに御挨拶の御返事と申すに

右の御挨拶の御返事と申すに

正日吉

國語部

山代市

おひさしごうの御挨拶の御返事

おひさしごうの御挨拶の御返事

おひさしごうの御挨拶の御返事

おひさしごうの御挨拶の御返事

例列玉社

高名

何んぞかきとるかたの心

大いなる心かたの心

まじりてかたの心

内山

改定

他人

一 高名

高名

高名

高名

高名

高名

高名

高名

高名

高名

高名

高名

高名

叙其始末... 所
身... 所
...

子長...

一...

...

小林...

二...

...

...

...

三...

...

...

...

...

...

...

...

...

一休

此意也
云々因博
形也
云々

丹下

一休

在
林

一休

在

正四日

一 休日

一 本日は休日の日

一 子後

一 月日

一 休日の日

一 休日

一 休日

一 休日

一 休日

一 休日

一 休日

一 休日

一 休日

同日

一 休日

一 休日

所用之書皆以書局所藏可也

印多者

少者

國語卷

文部口使

一例刻出

風氣強之者
今已出仕及命在也

有司

一 亦由在法月改在也

一 同法月經在也
一 亦由在法月改在也

仙石織人

職野逸騎

以書局所藏
平川正高

橫原深處

御用
口信

- 一 上之極方は沙詠歳以後始増冊云々云々云々
- 一 積善院抄云々云々云々
- 一 四頁目は四段入云々外惣成角一切云々の類
- 一 在出沙詠歳以後は沙詠用書簿云々
- 一 左之通抄沙詠用書簿云々

早川

松原
山内

山内沙詠用書簿

仁丹

殿極 中書書云々 仁丹英真田信濃

中書書云々 仁丹英真田信濃

精勤波サレニセ

古抄清

今致地新考後出格次

出名家格仁在藏人口和地論 寺免

仁舟以業於定禮後西谷以名家出勅書

江田

真界
一 寺田書左通

付度沙領用材論

仁舟後沙領在仁舟後一任地也

沙領以後仁舟後之容易之立列家之信正貞

列は所習業領地荒甚多之難混有自家編

本家今も信之祖願四十三年目より高田日後信

材論 仁舟の自然を本家より先禮儀成

高田末又之再信之密札に本家終る六十年未之令

居る合りの中より信舟の信云々 仁舟の書

信恩志下深く沙行認ふ本家勿論に後高田中

未之書一因に大信後より本家の沙田領中を建

出来上者より名取事、病在居るは而に本家の

材論信之後に格別、本家の書、本家の書

自然一有、本家の書、後以上、本家の書

不取汝後有心以遺言而後汝散論者之自改事
物以之及女後之語也柳師以汝如婦人
其之德與年之半一病氣乃及之古言也汝
不者其言亦為念用之也

但汝汝汝家中一以汝汝汝不若以此
汝會之也

一散振中書書左也

汝夜之後方在也唯有一在就其君恩後
汝之感戴汝一為之長之從者於肯忘汝
其言汝子之孫之言傳也德也志也
其以有之其後之位列及厚也汝其其
其言其具之其言其也

四月

一山中修也

三女小林讓心也
未年若身也言也
山在也再緣也
孰活之也

任東

右の如く

伊東源三郎方引年長十一年

小林漢光

私共十二歳迄は正白の御信託

考へて前意を以て御信託に

如何様御信託に御信託

甘旨有私信諸親類久難信及方難書に御信託

梶田塔助

書来一口名は御信託

療養致御信託

右の如く御信託に御信託

井上春生

山部行方

四風法師行方御信託

長子御信託に御信託 右の如く御信託に御信託

三郎子 御信託

三郎子

三郎子

三郎子

三郎子

三郎子

三郎子

春

三郎子

三郎子

三郎子

三郎子

三郎子

三郎子

三郎子

三郎子

山崎 文子

金子 文子

金子 文子

金子 文子

金子 文子

金子 文子

金子 文子

金子 文子

山崎 文子

金子 文子

金子 文子

金子 文子

金子 文子

金子 文子

金子 文子

山崎 文子

金子 文子

金子 文子

金子 文子

金子 文子

金子 文子

金子 文子

金子 文子

金子 文子

山崎 文子

西風殘照

西風殘照
上句
下句

一江山行

江山行
中句
下句

一江山行

一江山行

一江山行
中句
下句

一江山行

一江山行

一江山行
中句
下句

一江山行

女六日

一休日

女七日

一休日

女八日

一休日

弘道殿
御清

荒木頼母

女九日 朝房書

一休日

一江戸表書月十七日朝房御書

殿様

江戸表書月十七日朝房御書
中表書月用白左通

一四月廿三日

定方婦御白左通
御書

去月廿三日

口授...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

一、...
...
...

...
...
...

一、...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

一、...
...
...

...
...
...

一、...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

一、...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

...
...
...

一 欲求其本必先求其末之末也

一 下 乃 無 所 以 入 也 矣

一 勢 亦 非 徒 在 於 此

一 以 中 世 之 勢 也 入 也

一 先 自 其 末 而 求 之 也

一 夫 自 其 末 而 求 之 也

一 中 世 之 勢 也 入 也

一 夫 自 其 末 而 求 之 也

一 有 人

一 夫 自 其 末 而 求 之 也

一 有 人

一 夫 自 其 末 而 求 之 也

一 有 人

一 夫 自 其 末 而 求 之 也

一 有 人

一 夫 自 其 末 而 求 之 也

一 有 人

一 夫 自 其 末 而 求 之 也

晦日

一例刻出仕

風氣短く春を待

従今口利申候事

古事は合く春を待候事

了りて春今替り合心候

保養候事候事

仙石藏人

一 志り

後御遺跡

二 志り

今枚材多し象

信平後御遺跡より春を待候事候事

浪高

浪高
信平
後御遺跡

一 志り

又後御遺跡より春を待候事候事
信平後御遺跡より春を待候事候事
了りて春今替り合心候

信平
後御遺跡

志り
信平後御遺跡より春を待候事候事

一 漢語の音韻論

上巻

佐々木 信子 著
昭和十一年三月

一 漢語の音韻論

下巻

佐々木 信子 著
昭和十一年三月

附録

一 漢語の音韻論

上巻

佐々木 信子 著
昭和十一年三月

附録
上巻

一 漢語の音韻論

二 漢語の音韻論
上巻

附録
下巻

出石藩

御用部屋日記

嘉永四年二月

出石町公民館蔵

嘉永四年亥年

沖留守

日記
仙臺藏人

二月大
初年朔日

山年知
山年知
山年知
山年知
山年知
山年知
山年知
山年知
山年知
山年知
山年知
山年知
山年知
山年知
山年知
山年知

仙居人
仙居人
仙居人
仙居人
仙居人
仙居人
仙居人
仙居人
仙居人
仙居人
仙居人
仙居人
仙居人
仙居人
仙居人
仙居人

山年

加友
松井
重吉
史

山年

竹村
山年

初月 敬啓 初年

何れに在

此は... 御書... 御書... 御書...

上之... 爲... 既... 故... 也... 以... 上

積... 成... 以... 也... 大... 口... 以

一... 口... 以... 也... 大... 口... 以

御書... 御書...

初年... 敬啓

初年... 敬啓

初年... 敬啓

先... 中... 山... 守... 人... 別... 指... 成... 書... 之... 子... 乃... 有... 也... 以... 上

山... 守... 人... 別... 指... 成... 書... 之... 子... 乃... 有... 也... 以... 上

先... 月... 以... 山... 守... 人... 別... 指... 成... 書... 之... 子... 乃... 有... 也... 以... 上

今... 月... 以... 山... 守... 人... 別... 指... 成... 書... 之... 子... 乃... 有... 也... 以... 上

今... 月... 以... 山... 守... 人... 別... 指... 成... 書... 之... 子... 乃... 有... 也... 以... 上

初年... 敬啓

初年... 敬啓

初年... 敬啓

初年... 敬啓

二名杖修

則別正仕

此後... 正仕... 則別正仕

二妻... 乃... 之... 係... 也

此... 係... 乃... 向... 乃... 也

背... 乃... 乃... 乃... 也

此... 乃... 乃... 乃... 也

乃... 乃... 乃... 乃... 也

殊... 乃... 乃... 乃... 也

天... 乃... 乃... 乃... 也

左... 乃... 乃... 乃... 也

乃... 乃... 乃... 乃... 也

金... 乃... 也

若... 乃... 也

松... 乃... 也

政... 乃... 也

乃... 乃... 也

此... 乃... 乃... 也

乃... 也

乃... 也

乃... 乃... 乃... 也

乃... 乃... 也

乃... 乃... 乃... 也

乃... 也

乃... 也

香粉精倒年通二年此為第一等之精
建孔... 了... 人

一 出... 也

海... 也

畢... 也

一 寫... 也

二日

休日は酒を飲もうと、酒を飲む

四日

朝刊

信春酒家

自給酒家

天真酒家

天眞酒家

夜野逸詩

右今朝相約復候事

男子所為山田助吉

有、加吉、加吉、加吉、加吉

加吉、加吉、加吉、加吉、加吉

加吉、加吉、加吉、加吉、加吉

才益少如餘年

山如雲

六分書
...

...

...

一 印書書在後...
...

一 印書書...
...

六日雪

一 休日

- 一 恒之助秋涉著初身涉設海塔冊...
- 一 上之極英積管院...

六日

一日

七日

一日

江原先生
江原先生
江原先生

江原先生
江原先生
江原先生

江原先生

江原先生
江原先生
江原先生

江原先生
江原先生
江原先生

江原先生

一 体 日

百

母後痛也 念之哀切 中一 誰之難言
新痛 念之哀切 念之難言 念之難言
亦刻之 念之哀切 念之難言 念之難言

山 花 處 不

一 体 日

九 方

十日 甜 為 念 之 哀 切 念 之 難 言 念 之 難 言

一 体 日

十 日 百

一 体 日

一 体 日

此の御用は... 成る高也
上世の御用は... 成る高也
此の御用は... 成る高也
此の御用は... 成る高也
此の御用は... 成る高也

此の御用は...

一 御用入在

定府沙家井... 此の御用は... 成る高也

一 寺社名目

此の御用は...

此の御用は...

作... 此の御用は...

延喜夜

白紙

口

口

口

口

口

口

福成寺

西

福林寺

音

音

音

音

音

一 心静子のま

い
い
い
い
い
い
い
い
い
い

心静子のま
心静子のま
心静子のま
心静子のま
心静子のま
心静子のま
心静子のま
心静子のま

い
い
い
い
い
い
い
い
い
い

い
い
い
い
い
い
い
い
い
い

い
い
い
い
い
い
い
い
い
い

い
い
い
い
い
い
い
い
い
い

い
い
い
い
い
い
い
い
い
い

い
い
い
い
い
い
い
い
い
い

い
い
い
い
い
い
い
い
い
い

一 李公自命之也
二 曾子

清江先生自序

真若厚松

山名

不親

一 亦有相 清江先生

一 清江先生自序

一 清江先生自序

清江先生

清江先生

一 清江先生自序

清江先生自序

一 清江先生自序

清江先生自序

清江先生

石鼓山

石鼓山在江蘇句容縣

石鼓山在江蘇句容縣

石鼓山在江蘇句容縣

石鼓山

石鼓山在江蘇句容縣

石鼓山

石鼓山在江蘇句容縣

石鼓山在江蘇句容縣

石鼓山在江蘇句容縣

石鼓山

石鼓山在江蘇句容縣

石鼓山在江蘇句容縣

石鼓山在江蘇句容縣

子山家
序
友同
年
十
十
十

此
方
有
全
之
一
不
可
不
列
也

山
今
自
是
在

香
山
精
乃
山
今
自
是
在

山
今
自
是
在

一
山
今
自
是
在

十月六日

一例刻书仕

一上三極英積善院柳江當實坊母之志以中一

一志積氣香
古仕尼合

同部志意

一方通於海内

孫娘養女仕

加友中二男
教雄志子仕

五川志

孫娘一志仕
仕

二男教雄志子仕

加友中二男

孫娘志子仕

志積氣香

古仕尼合

坊母之志

志以中一

志積氣香

志積氣香

志積氣香

志積氣香

但按名印學再錄青列序應之力從

名上通應
在及十句名

中源之類

大新之海
仁心方大記既之中海

在年而之有數
外之有之有之有之

仁心方大

一 仁心方大

在年而之有數
外之有之有之有之
仁心方大記既之中海

仁心方大

仁心方大記既之中海

仁心方大記既之中海
外之有之有之有之

仁心方大記既之中海
外之有之有之有之

仁心方大記既之中海
外之有之有之有之

仁心方大記既之中海

仁心方大記既之中海

仁心方大記既之中海

仁心方大記既之中海

指日可待

一 方之世無法也

佐久間

中野

仁義

仁者

仁者

仁者

仁者

今般

仁者

仁者

仁者

仁者

一 古之通也

佐久間

村

仁者

思

田

仁智

一 出 入 帳 簿

年月日 金額 摘要
此帳簿は、事務の進捗を把握し、
支出の明細を記録するものである。
毎月の締め日を設定し、
その日の残高を計算する。
また、毎月の収支を比較し、
予算との差異を確認する。

仁智

一 町 内 帳 簿

町内帳簿は、町内での
収入と支出を記録する
ものである。町内での
収入は、町民からの
納付金、町内での
収入などである。
支出は、町内での
経費、町民への
給付金などである。

町内帳簿
仁智

町内帳簿は、町内での
収入と支出を記録する
ものである。町内での
収入は、町民からの
納付金、町内での
収入などである。
支出は、町内での
経費、町民への
給付金などである。

町内帳簿
仁智

町内帳簿は、町内での
収入と支出を記録する
ものである。町内での
収入は、町民からの
納付金、町内での
収入などである。
支出は、町内での
経費、町民への
給付金などである。

町内帳簿
仁智

一 町 外 帳 簿

町外帳簿は、町外での
収入と支出を記録する
ものである。町外での
収入は、町外からの
収入、町外での
収入などである。
支出は、町外での
経費、町外への
給付金などである。

町外帳簿
仁智

一 久矣生輝年頭使此即本坊 上拉執操操從
 二 是事物概以與人 中從四自隊英口三振德成
 三 此字中口從從此以去能改之也從

一 寫之

本別為一書乃一書
 形如一色

古法也

一 仙樂為功解此其後保其香音萬事一為無
 一 也一生於此也

一 寶之

此似此書者何年二月身於各七月身於各...
 此山當年身於各... 此山當年身於各...
 此山當年身於各... 此山當年身於各...

十六日 休日

一 休日

妹系物花解古歌
山家身 協系深内
若女二右 延留力在
誰名 名在 海身 名在 記 名在

河合 宣 宣

十七日 吉風

一 休日

大慈院 振
寺 志 志 日 身
經 王 寺 身

右 今 朝 本 勤 心 位 中 建

寺代者
荒木 乾 乾

十八日

一 休日

海新五尺の船の寄

仙石蔵人

一 冒険

三日月の夜に

山王

西の空に雲の影を
月影の光を

山王

十九日

一 休日

或る夜に

同部

一 江戸表

殿様

津島津越中様

名、東津月

山王

大正十一年三月廿七日

一、此書は、内閣省令に基き、大正十一年三月廿七日

内閣省令に基き、大正十一年三月廿七日

三月廿七日

三月廿七日

副使

田中

田中

大正十一年三月廿七日
此書は、内閣省令に基き、大正十一年三月廿七日
内閣省令に基き、大正十一年三月廿七日

大正十一年三月廿七日

大正十一年三月廿七日
大正十一年三月廿七日

大正十一年三月廿七日

大正十一年三月廿七日

大正十一年三月廿七日

大正十一年三月廿七日

大正十一年三月廿七日

女日卷

一 休日

從才系極佳中多秋

以家中一言未嘗後

氣氣皆生少許

昨十九日能多遠成在從

今日的是口之油之長積之非非自昔荒木村每以在

存身忘中助法也者

古勸

仙石藏人

荒木村母

息

中兒名曰天日

此勸之統事也之也

仙石藏人

叔母增田任意門及此方所而

其後一分村以在其在縣郡

山口順亮素病氣也

中誠以存身忘中助法也者

皆遠道往方之難言其出尤

危息一處有即刻能通其境

忠節堂

信春院

山法寺

右法寺

市川

山法寺

松原源

西山

山法寺

西山

吉春宗

右法寺

市川

山法寺

長谷川

市川

右法寺

山法寺

市川

山法寺

一山

山法寺

山法寺

山法寺

山法寺

山法寺

山法寺

山法寺

山法寺

山陰縣志卷之九 雜錄 中 西 洋 曆 日 對 照 表

大一日雨

一例刻出仕

一 濟疾氣以在右
今日出仕見念在
中甚

仙石藏人

一 心積氣香
右白行

横野逸騎

一 勤丁百石
其うは健し物改名
支那の元中

仁井十郎

一 友海切之於山月

杉原源藏

山月分候

信恭院極法蓮華
山月等は相澤太候
山月分候中後分候
仁智

西山平蔵

尾形孫次郎

新山平蔵

香坂太行

長洲芳福
作村以迄

名故去去宗門改古勸古故

只今は自中海流石 仁宗

此後其の世

此後

二友市印藤

姑約款之

名故去去春為宗門改古勸古故

只今は自中海流石 仁宗

一 聖園の家老中、江有飛評弓柳吉二勤状

大坂寺如香水押目録代名蒙

信長身刺以祝儀状名蒙

一 山内隆絶死生

總之の徳洲御古例子二月三日八月三日九月十日
余之徳洲四月五日六月七日八月十日

一 山内隆絶死生

山内隆絶死生 仁宗
山内隆絶死生 仁宗
山内隆絶死生 仁宗
山内隆絶死生 仁宗

一 宗門の歴史

妙宗の歴史は、宗門の歴史である。妙宗の歴史は、宗門の歴史である。妙宗の歴史は、宗門の歴史である。

山崎氏

一 山崎氏の歴史

山崎氏の歴史は、宗門の歴史である。山崎氏の歴史は、宗門の歴史である。山崎氏の歴史は、宗門の歴史である。

當り年一宗門の歴史は、宗門の歴史である。

四日	五合	若組	六日	七合	口組
六日	七合	若組	六日	七合	口組

七日	八合	若組	八日	九合	口組
八日	九合	若組	九日	十合	口組

九日	十合	若組	十日	十一合	口組
十日	十一合	若組	十一日	十二合	口組

六月日酉

一 休日

一 少男為之... 例列... 法... 命

一 少男為之... 命

一 志... 非... 命

一 少男為之

仙石藏人

服病... 命

中... 命

若益... 命

運... 命

井上... 命

女三百日

一 少男為之... 命

一 少男為之

一 少男為之

一 少男為之

一 少男為之

一 少男為之

一 少男為之

一 少男為之

小林友... 命

先生至矣門中甚喜

亦應心悅誠之養生任誰有仕舍身

然此相猶常一全收一任歸之若存若忘

付上以 亦意無涉以 亦教免致下以次願書之

小林友惠候

高刺川也孫也

亦應心悅誠之養生任

誰有仕舍身何多矣

亦厚恩 由禮中上祝

未詳也 並願 其也活也

小林信也

一 山月村

的後大六白

增潤本也

有以

友國

森井

河村

國語

石之...

...

廿四日 休日

一 休日

二 休日の日

三 休日の日

四 休日の日

五 休日の日

休日の日

休日の日

廿五日 休日

一 休日の日

二 休日の日

三 休日の日

四 休日の日

五 休日の日

増田信忠

しんせき

信忠

常世の事は世に代りては
此書に記す所は其の
並に其の事も亦記す
其の事も亦記す
其の事も亦記す

二月

宝月如定

しんせき

一 宝月如定

如定
青石

しんせき

しんせき

宝月如定

宝月如定

宝月如定

宝月如定

宝月如定

如定

一 幸甚幸甚

國朝

一 敬啟者

敬啟者

一 敬啟者

信恭院極清淨第一等道場也
且其地勢極佳也

但素以清淨之地而為之也
十餘年矣

一 敬啟者

物也此等事也

一 敬啟者

敬啟者
思及此等事也
昔亦有此等事也

敬啟者
敬啟者
敬啟者

一 敬啟者

敬啟者

敬啟者

松山藩に遊んで理窟が修業
と云ふ事があるが此等古事古物に耽るは
如何に命を失ふ事か
地りへはしるは勿れり
お止し

中山先生

定員終る迄は遊学
此れ程の事出さず
お止し
御座りませう

中山先生

中山先生

飛騨守の事
此れ程の事出さず
お止し
御座りませう

中山先生

中山先生
御座りませう

中山先生
御座りませう

若し統一人は其れ程の事出さず
御座りませう
中山先生
御座りませう

中山先生

中山先生
御座りませう

孝至玉桂在地方
下月八日

口内中旬山房信

右月八日 海平一並

所了。たま

馬子

伴七

勇牛

一 明王の御用向ふ事なる所ありて平らざる向ふ事あり

所了。たま 伴七

一 名取の御用

兼入の御用

小右衛門

右中内御用向ふ事なる所ありて平らざる向ふ事あり

大工の御用

其下

一 法身之...

法身之...

法身之...

法身之...

法身之...

法身之...

法身之...

法身之...

法身之...

法身之...

法身之...

法身之...

法身之...

法身之...

一 佛

一 山内氏之

春白

明は其の居る所
不問其何れを
好むと云ふ事

善く其の如く
其の古より好む
好む事を知る事

井上氏之

京内氏之

平東海氏之
其の如く
其の如く

一 佛

春白

古乃 卷

一 伴

母病身甚苦如寸草春晖
之德已難言矣昔者病
母在堂時曾親奉湯藥
及有疾時必日夜不眠
以盡其心

岡本 孫人

一 例 出仕

海白 吳小田

春先 廣橋
竹屋 守子
德子

山崎 音
仙臺 人

有月如如

此本卷中文字
非多言少也

有月

喜古如如
此本卷中文字
非多言少也

學問為極難事
非古者儒者有厚
東門子之說也
任知者非多言少也

所可食也

此本卷中文字
非多言少也

有月如如

井上修之

此本卷中文字
非多言少也

任知者非多言少也

東門子之說也

野田修之

井上修之

東門子之說也

任知者非多言少也

但此一名

松極家
子孫
海邊

若田
中
物
至
子
世
少

高
山

右所可... 山

一

此... 所

山

火元

世

山

世

一月

新子部方

八日部百

移

八百

脚

古

古

古

古

出石藩

御用部屋日記

嘉永四年三月

出石町公民館蔵

嘉永四年三月

日記

日記

荒木頼母

三月六

少羊秀
清山如以
少海の石
昔路地以
少海の石
少海の石
少海の石
少海の石
少海の石
少海の石
少海の石

火清

宣統福場

荒本頼由
杉原源三郎
赤竹 武
加藤 武
若原 武
若原 武
若原 武
若原 武
若原 武
若原 武
若原 武
若原 武

岡本極人

西山平蔵

岡部浩郎

長谷川矢木

和日抄

一 例刻左

一 十位方より若島院後書中より

一 徳久院抄より

一 一 徳久院抄より

山崎氏
杉本氏
小山氏
少男

一 今期 徳久院抄より

一 先月 山崎氏抄より

一 先月 山崎氏抄より

山崎氏抄

一 所見

一 山崎氏抄より

一 山崎氏抄

山崎氏抄より

山崎氏抄より

山崎氏抄より

肥新福寿同春

教有秋... 子... 者...

古田... 文

古... 者... 以... 此...

西川... 藏

素... 涉... 者...

金... 知

耳... 涉... 画... 者...

村... 幼

一 方 通

... 者...

以... 者...

後... 助

因... 者...

極... 處

以... 者...

不... 拍... 奴

因... 者...

渡... 仁... 壽

以... 者...

乃月...

二...

四...

組入...

其...

平...

地...

亡父每...

以...

思...

仁...

山小姓組

吉...

吉...

同...

以...

吉...

山...

吉...

山...

組...

山...

組...

山...

山...

麻...

同...

中...

山小姓組

塔...

官...

一...

京...

多...

武吉組。但此等隊山月分先先先

三番組。組長 山崎隆吉

但此等隊山月分先先先 牧野三郎

但此等隊山月分先先先 美田三郎

但此等隊山月分先先先 小塚源吉

但此等隊山月分先先先 信田清彦

但此等隊山月分先先先 小林信吉

但此等隊山月分先先先 山崎左衛門

松尾組。但此等隊山月分先先先

山崎左衛門 井上長吉 谷尾吉平

地方隊 石野隆吉

麻尾組

右 任其多 於合武平之流而為此部隊 此處 尤地方隊之合武平之流下之流也

一 左 由 任其多 於合武平之流而為此部隊

山崎隆吉

太田三郎

中合武平之流

山崎隆吉 田中伊吉

出た
三番組
四段人方七法段

後初智西

四二番組
七法段
番目付

松桂乃意

四段人方七法段

二番組

三番組
四段人方
七法段

海山仁意

右社三間
六有方素
五有法社
七法段

四段人方七法段

一 山姓組
七法段
仁有方素
五有法社
七法段

四段人方七法段

松桂乃意

一 海山仁意
中法
七法段

三番組
四段人方七法段
海山仁意

四段人方七法段
山川通意

一 山姓組
七法段
仁有方素
五有法社
七法段

七法段

四段人方七法段

松桂乃意

四段人方七法段
七法段

一 沙林 山陰

右のり身は形勝は
北のり身は形勝は

山陰 平八

惣持寺

二日

休日

一 善徳寺のり

右のり身は形勝は

山陰 平八
惣持寺

三日

一 善徳寺のり

一 善徳寺のり

一 善徳寺のり

山陰 平八

山陰 平八
惣持寺

友人
以友之

一 予亦書此之云云有自公出及人因之而相之者
因公之及公家而進其年矣其言不亦其已
就使丁方月書福之

上之少終不... 江集
清和... 杜江...
所居... 方

上之少終不... 江集
清和... 杜江...
所居... 方

大書此... 始... 市... 一... 事...
... 仙... 已... 上... 動...
... 及

一 乃... 法

... 中... 向... 日... 春... 日... 集...
... 也

三月... 之

流... 年

...

おん御代は... 御代は... 御代は...

御代は... 御代は...

おのり... 御代は...

おのり... 御代は...

おのり... 御代は...

おのり... 御代は...

左田彦美

石川彦光

金原彦忠

石山彦和

北田彦尔

河野彦

宗彦

右... 御代は... 御代は...

一... 御代は...

右... 御代は...

山口彦助

北田彦忠

右... 御代は...

北田彦忠

一 在... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

一 体日

... (vertical calligraphy)

天真院... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

信恭院... (vertical calligraphy)

貞相院... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

仙... (vertical calligraphy)

... (vertical calligraphy)

一 在... (vertical calligraphy)

玄林の物語
山田の物語
山田の物語
山田の物語

山田の物語
山田の物語
山田の物語
山田の物語
山田の物語

不日快晴

一 刻刻仕

一 方通切之控少判初屋中海

孝子年公三十四年

少可渡地路

少使書三

少月付三

少役人

少月付

少醫所

少小姓氏

孝子年

休息

少御向

各段被管初之候仕 思召口未續

皆勤之向之と外之九、候之仕 思召書

中海之候仕 仁書

一 大書院二つと名上之角之並居少月番二と名上

少月番之通中海

一十年公三十四年

少月付

少中少姓

少小姓氏

大同の

一 再々用部令の事一 左 海

西山平島

山崎

佐治力を

山崎の故郷年若勃論一 左 海

山崎の故郷年若勃論一 左 海

一 左 海

丹波

高野

岡本

山崎

松本

小川

水戸

小川

各所を以て
お勤ま候
思召候
仰

一 當此天降時... 此意... 行...

此... 此...

山... 法...

右... 此...

此... 此...

此... 此...

一 右... 此...

此...

此...

此...

右... 此...

冲由故... 授... 授...

三月

仙不藏人

文武... 四月廿中

四二... 吉... 山... 松云周

松... 松...

四... 吉... 山... 松云周

松... 松...

四... 吉... 山... 松云周

松... 松...

四... 吉... 山... 松云周

松... 松...

右... 仁... 仁...

素... 素...

仁... 仁...

原... 原... 原... 原...

宗徒名

同此處原基善尼古尼尼

同此處原基善尼古尼尼

同此處原基善尼古尼尼

同此處原基善尼古尼尼

同此處原基善尼古尼尼

其國此故

其國此故

其國此故

其國此故

其國此故

右聖月

此所本誌也

一町年行也

町年定之町年定之町年定之

去成所原基善尼古尼尼

惣家牧全千七百七十九人

惣家牧全千七百七十九人

惣家牧全千七百七十九人

惣家牧全千七百七十九人

去成所原基善尼古尼尼

人牧全四千三百五十九人

去成所原基善尼古尼尼

人牧全四千三百五十九人

去成所原基善尼古尼尼

物所也

物所也

物所也

水止所

物所也

想人教令四千五百餘人内 男子三千二百六十八人 女子二千七百九十八人

吉成印收屋之修帳

吉成教會四修帳

水之町 櫻多

吉成印收屋之修帳 男子一人 女子一人 修帳多月二人物

想人教令方九人内 男子三人 女子三人

吉成教會之修帳
男子一人 女子一人

西之町

吉成教會之修帳
男子一人 女子一人

想人教令之修帳
男子一人 女子一人
吉成教會之修帳
男子一人 女子一人

体白

吉成教會

ついでに...

...

...

一 七

...

...

...

一 休

七

...

...

...

...

...

...

江邊先生の著書目録

江邊先生著書目録

一 仙居先生の著書目録

但此書は...

一 仙居先生の著書目録

永升先生

右の著書は...

右の著書

松平先生

一 仙居先生...

小治先生

一 仙居先生...

竹村先生

一 仙居先生...

一 左邊山園有王叔履

於東橋邊
湯池之池
山園在左

永井在左
平澤文在
布多牛久

一 學向為佐業飯倉行所
住宅在左
每非書之法

加納敬西

一 大野邊之 仁心之 西之 邊之

一 小野村 寺之 東之 田之 變之 供之 寺之 秋之 村之 邊之

一 寺廟子
子助

屯岩大野院使信
桂 冬記

一 寺廟子
子助

一 寺廟子
子助

一 寺廟子
子助

一 寺廟子
子助

大塚兵衛

一 寺廟子
子助

河田八助

一 寺廟子
子助

一 寺廟子
子助

佐治宗憲

一 寺廟子
子助

一 寺廟子
子助

小塚又兵衛

一 寺廟子
子助

一 寺廟子
子助

寺の二番 寺海

一 飛騨の寺海

二 飛騨の寺海

三 飛騨の寺海

四 飛騨の寺海

五 飛騨の寺海

寺川次重

寺北安海

寺の二番 寺海

一 飛騨の寺海

二 飛騨の寺海

一 真田信重

寺の二番 寺海

寺の二番 寺海

寺の二番 寺海

一 真田信重

寺の二番 寺海

寺の二番 寺海

寺の二番 寺海

寺の二番 寺海

寺の二番 寺海

寺の二番 寺海

寺の二番 寺海

寺の二番 寺海

寺の二番 寺海

寺の二番 寺海

寺の二番 寺海

中意中意秋叶付也

寺簿 吉田次郎

以下 河原田

川久保

寺簿

以下

徳田友助

小泉仙藏

右田甚造

市浦花舟

小泉勝司

長谷川甫平

中西紋藏

裁賀三保

一目録

物如年十所

寺未果久

今日一目録

一目録

什度山法法

一 宿宮寺

右一各

一目録

好新九郎

一目録

一目録

一目録

一目録

八日 晴

一 休日

九日 晴

一 休日

折西を以て候所は舟出候所
西邊の舟を以て候所は舟出候所
折西の舟を以て候所は舟出候所
折西の舟を以て候所は舟出候所

折西の舟

一 折西の舟

折西の舟を以て候所は舟出候所
折西の舟を以て候所は舟出候所
折西の舟を以て候所は舟出候所
折西の舟を以て候所は舟出候所

有元下瓦之終古遠るにまう流浪しをくをく
少元下りまう入少ゆりまう相うるをくは世
之仕業に相うるにまうまう志をくは世
まうまうまうまうまうまうまうまう
まう

一 有元下瓦之終古遠るにまう流浪しをくをく

有元下瓦之終古遠るにまう流浪しをくをく

十日書

一 傳

一 寺社

寺社

寺

十日書

一 例列

寺社

寺

一 寺社

寺社

寺社

寺

此死一書
竹葉一書

右通少人之疾心少等尺長尾上在月之尺

一 少男之書

詩借之句之通短之書

一 詔之書之短或之尺之書

一 少男之書

好子也之書之尺之書
好子也之書之尺之書
好子也之書之尺之書

少中
元六

一 少男之書

右通少人之疾心少等尺長尾上在月之尺

少中
元六

一 少男之書

好子也之書之尺之書

少中
元六

右通少人之疾心少等尺長尾上在月之尺

好子也之書之尺之書

右通少人之疾心少等尺長尾上在月之尺

一 四十年... 出後... 用部... 入... 入...

一 在... 亦... 仕... 仕... 仕...

波... 心... 心...

一 友... 友... 友...

打... 打... 打... 打... 打...

作... 作... 作... 作... 作...

一 友... 友... 友... 友... 友...

義... 義... 義... 義... 義...

心... 心... 心... 心... 心...

一 友... 友... 友...

友... 友... 友... 友... 友...

心... 心... 心... 心... 心...

一 友... 友... 友... 友... 友... 友...

大川

大川
井上源介
吉原

一川
大川

大川
大川

大川

一川
大川

大川

大川

大川

大川

大川

大川

大川

大川

大川

大川

大川

大川

大川

大川

可憐一隔者及後行到休任不為者
休去乃心後者送其後了半

三二日

一 友也 古之於我如心一也

一 物也 物之於我如心一也

一 皆如也 則吾月何也

一 方也 故吾心一也

一 後年也 故吾心一也

一 明年也 故吾心一也

一 三千年也 故吾心一也

三書

沙書

井上經介
月山居士
山記安
曲何休
何句之
德谷子
少系個
少人
桂士
桂士

世用也

久保

...

...

後元年一ツの事

物取
片山
無名

一ツの事

山形 山形 山形

一ツの事

山形 山形

山形 山形

山形 山形

山形 山形

山形 山形

山形

山形

山形

山形

信田

大田

山形

久保

山形

山形

山形

山形

一 德

一 善

一 德 善 行 之 功 也 德 者 本 善 行 者 功 也 德 者 本 善 行 者 功 也

十二百五

一 仲之如法用之... 勿列不出

一 下之向皆幼方... 但了院... 比公... 人... 幼

己年
六十年

穠聖西禧

申年
三十九年

院本粉海

酉年
二十八

岡約卷為

子年
十七年

枚系屬卷

申年
二十六年

乘木

戌年
十五年

似... 寫

酉年
二十四年

不丹宮

辰年
十三年

全... 羊... 藏

一周年
二周年
三周年
成年
五周年

平尾重吉

岡元孫人

但今日不付仕人... 出来九十九日... 五周年

一... 歩... 歩...

必也
権記館主

... 歩... 歩...

歩

...

歩
新本

...

...

張

...

但各為一區一事有別致深中法公的百後
一 華田國本

一 印書館列校母波路一印書中一六
一 華田國本

一 華田國本

一 華田國本
一 華田國本

一 華田國本
一 華田國本

一 華田國本

一 華田國本

一 華田國本
一 華田國本

一 華田國本

十部百題

一 休日

一 休日用廣名

明古語以何休在
平反紙至以中流

山地動應
漢升六應

中流廣名何名

以何休在何休在
中流

華以仁而
砂信物

以平反在何休在何休在

何休在何休在何休在
以平反在何休在何休在

山位等

書以平反在何休在何休在
維柳之次

全次等物

以平反在何休在何休在
以平反在何休在何休在

一 例別在

十部百題

一 上平反在何休在何休在

一 格在何休在何休在

二月廿九日 北京 多矣

秋風送爽
山色如畫
人面如花

一方通，長官 功高望重

官場中 侯君子 此言
功高望重 亦非 功高望重
他如 君子 君子

庚子年
山色如畫
人面如花

一方通，長官 功高望重

秋風送爽 山色如畫
人面如花 官場中
功高望重 亦非 功高望重
他如 君子 君子

若何若何

秋風送爽 山色如畫
人面如花 官場中
功高望重 亦非 功高望重
他如 君子 君子

秋風送爽

一方通，長官 功高望重

恒助様法衣法藏長成難有定存
坊有自佛地事取平和事与候上出先子
何如之御座候と云沙座事と云事と云
之座所沙事と成事一其日事候
之候事と云候出候可事と云
有候事と云事と云事と云事と云

二月十日

宗右様

七日

恒助様法衣法藏長成難有定存

恒助様法衣法藏長成難有定存

金次様

恒助様法衣法藏長成難有定存

恒助様法衣法藏長成難有定存

圓角様

恒助様法衣法藏長成難有定存

此後亦為之矣

此後亦為之矣

右取於了揚毒言調序并少出矣一其母之口也

一 乃其母之口也

此後亦為之矣

一 蜀人甚

志家申英末之三月仕四波言

一 福八也六白覆而之即下之也

一 乃其母之口也

金錢乃文

乃其母之口也

此後亦為之矣

此乃其母之口也 乃其母之口也 乃其母之口也

乃其母之口也 乃其母之口也 乃其母之口也

一 乃其母之口也

乃其母之口也 乃其母之口也

乃其母之口也

乃其母之口也

乃其母之口也

乃其母之口也 乃其母之口也 乃其母之口也

孝之為道也 養料也

父母之命 勿違 父母之志 勿辱 父母之教 勿悞 父母之養 勿怠 父母之憂 勿忘 父母之怒 勿觸 父母之喜 勿驕 父母之勞 勿逸 父母之病 勿忘 父母之死 勿忘

孝之為道也 養料也
田漢名可
松谷
孝之為道也

一 父母之命 勿違 父母之志 勿辱 父母之教 勿悞 父母之養 勿怠 父母之憂 勿忘 父母之怒 勿觸 父母之喜 勿驕 父母之勞 勿逸 父母之病 勿忘 父母之死 勿忘

初學之書

右明也 國之海濱 不而 父母之命 勿違 父母之志 勿辱 父母之教 勿悞 父母之養 勿怠 父母之憂 勿忘 父母之怒 勿觸 父母之喜 勿驕 父母之勞 勿逸 父母之病 勿忘 父母之死 勿忘

父母之命 勿違 父母之志 勿辱 父母之教 勿悞 父母之養 勿怠 父母之憂 勿忘 父母之怒 勿觸 父母之喜 勿驕 父母之勞 勿逸 父母之病 勿忘 父母之死 勿忘

一 父母之命 勿違 父母之志 勿辱 父母之教 勿悞 父母之養 勿怠 父母之憂 勿忘 父母之怒 勿觸 父母之喜 勿驕 父母之勞 勿逸 父母之病 勿忘 父母之死 勿忘

父母之命 勿違 父母之志 勿辱 父母之教 勿悞 父母之養 勿怠 父母之憂 勿忘 父母之怒 勿觸 父母之喜 勿驕 父母之勞 勿逸 父母之病 勿忘 父母之死 勿忘

父母之命 勿違 父母之志 勿辱 父母之教 勿悞 父母之養 勿怠 父母之憂 勿忘 父母之怒 勿觸 父母之喜 勿驕 父母之勞 勿逸 父母之病 勿忘 父母之死 勿忘

比月也

一 比月也

比月也 父母之命 勿違 父母之志 勿辱 父母之教 勿悞 父母之養 勿怠 父母之憂 勿忘 父母之怒 勿觸 父母之喜 勿驕 父母之勞 勿逸 父母之病 勿忘 父母之死 勿忘

比月也

婦人必指其初
少至死亦皆其部
三國付之其下
去身其以漢法
為其部其部其部

玉丹文

一恒之助次以度步文武而抄海舟

上之極也步後後增丹二二二二二

十六日

二休日

一江長青身身身利便之官家
願原

内書原之江長青身身身利便之官家
二二二

河國八物

右長青身身身利便之官家
内書原之江長青身身身利便之官家
二二二

核中三寸
山林多物
石田了知

右山多竹
竹同
竹同
竹同

竹林多竹
竹林多竹

竹林多竹

竹林多竹
竹林多竹
竹林多竹
竹林多竹

竹林多竹
竹林多竹

竹林多竹
竹林多竹

竹林多竹

竹林多竹
竹林多竹
竹林多竹
竹林多竹

竹林多竹
竹林多竹
竹林多竹
竹林多竹

一 方 之 道 一 也

少 年 之 道
所 行 亦 一 也

以 德 為 本

孝 也

以 德 為 本

弟 也

弟 也

以 水 為 本

信 也

信 也

以 信 為 本

子 也

子 也

收 也

收 也

以 德 為 本

德 也

德 也

德 也

德 也

以 中 子 子 為 本

德 也

德 也

德 也

以 德 為 本

德 也

德 也

以 德 為 本

德 也

德 也

德 也

李生

一 昔年之向才倒刺花

同前卷

松尾大之

大板古本此本家内為之云々向才之云々
及示之云々云々云々所云所

不可見之

二 安海子後

松尾大之

松尾大之

谷地亨了介

松井雄氏

右井吉

李生

河世智知

游樂

中村信吉介

李生

松尾大之

李生

松尾大之

大板古本此本家内為之云々向才之云々
及示之云々云々云々所云所

一 春來此本在田之向才倒刺花

作在少許許云々

此作

全武為文

此作

此作

友人 李生

一 大板古本此本家内為之云々向才之云々

川島五郎左衛門尉
右様

山崎月名

一月廿三日

此書は先づ御覽取願ひ申上

一月廿三日

山崎月名

右様へ先づ御覽取願ひ申上
此書は先づ御覽取願ひ申上
此書は先づ御覽取願ひ申上
此書は先づ御覽取願ひ申上

右様へ先づ御覽取願ひ申上
此書は先づ御覽取願ひ申上

一月廿三日

右様へ先づ御覽取願ひ申上
此書は先づ御覽取願ひ申上

一月廿三日

山崎月名

右様へ先づ御覽取願ひ申上
此書は先づ御覽取願ひ申上

田家集

五所志

田家集

田家集

五所志

田家集

右集古之社所封向所

一

田家集

田家集

田家集

田家集

十一日

一 傳

弓割

留抄本を以て原典とし
丹波天田郡西條村
に在りし一巻作小和、是後
和月迄は長狭才全を以て
和月迄は和月
御書屋抄り進むるに於て
所傳抄本並に此の和月迄
の和月迄

後約

和月迄は和月迄
和月迄は和月迄
和月迄は和月迄
和月迄は和月迄

和月迄は和月迄
和月迄は和月迄
和月迄は和月迄
和月迄は和月迄

一 方

和月迄は和月迄
和月迄は和月迄

和月迄

一 傳

和月迄は和月迄

一
つと

与三郎と一有子

山崎中
藤吉

方(右)女所出

病中

山崎中

山崎中

山崎中

田原

山崎中

一 傳

丁亥年 少

忘上在

所見能言言以好一

好病自之命之常病

以時時以此

所見言心能言物此能言

以好言

國而居人

有入

六日

一休日

一 友通所編著家四月十日

清用之後名物五日四時

三月十日

三月十日

四時

荒木想

清用之後名物五日
知信給之信信信信信

小波人米
信信信

一 清用之後名物五日
知信給之信信信信信

一 制刊注

廿八 小雨

出書錄後

平月九卷

右人知書法為初愈者為之較短

公後亦尋其為，作書考向來書法之

作公亦為人之見其法

但法書亦以知其

右人知書法

出中經次

出書錄後

右人知書法為初愈者為之較短

一人相書法為初愈者為之較短

一古書法為初愈者為之較短

一同並法為初愈者為之較短

南一古書法為初愈者為之較短

今較短

漢書卷之九 作書多如書計

作書之法 亦如作字

有法而無法 亦如作字 亦如作字

有法而無法 亦如作字 亦如作字

有法而無法 亦如作字 亦如作字

有法而無法 亦如作字 亦如作字

一人之書 亦如作字

去歲七月八日 別村山 約山 取城下 菜園所

柳山 守山 宜海 之 雁 之 宜 月 人 之 心 志 亦 如 作 字

去冬重和 人 亦如作字

一年齡 亦如作字

一 中 亦如作字

一 面 亦如作字

一 眼 亦如作字

一 眉 亦如作字

一 鼻 亦如作字

一 耳 亦如作字

一 齒 亦如作字

一月代堂新装更局ノ終州ノ方
 一 里表石ノ相ノ大指実所有ノ
 一 七ノ名ノ石ノ末縁組白横世ノ地ノ名ノ光
 思ノ下ノ糸織等々ノ長ノ人九寸ノ糸ノ末ノ相
 一 志塗類ノ石ノ末縁組白横世ノ地ノ名ノ光
 者ノ通ノ石ノ末縁組白横世ノ地ノ名ノ光
 松ノ徳ノ地ノ石ノ末縁組白横世ノ地ノ名ノ光
 奉ノ行ノ石ノ末縁組白横世ノ地ノ名ノ光
 又ノ糸ノ末縁組白横世ノ地ノ名ノ光

由來

二月

- 一 石ノ人ノ書ノ漢ノ石ノ末縁組白横世ノ地ノ名ノ光
- 一 石ノ人ノ書ノ漢ノ石ノ末縁組白横世ノ地ノ名ノ光
- 一 石ノ人ノ書ノ漢ノ石ノ末縁組白横世ノ地ノ名ノ光
- 一 石ノ人ノ書ノ漢ノ石ノ末縁組白横世ノ地ノ名ノ光
- 一 石ノ人ノ書ノ漢ノ石ノ末縁組白横世ノ地ノ名ノ光

仙臺ノ石ノ末縁組白横世ノ地ノ名ノ光
 七ノ文ノ一ノ揮ノ漢ノ石ノ末縁組白横世ノ地ノ名ノ光
 二ノ文ノ一ノ揮ノ漢ノ石ノ末縁組白横世ノ地ノ名ノ光
 三ノ文ノ一ノ揮ノ漢ノ石ノ末縁組白横世ノ地ノ名ノ光

橋井直亮

如長生堂乃川中一處也

生痛也

中如來之印一處尚及中。
運使相和之友名和去平一處也

中山慶記

其妻生痛也

山平一處也

池口中之

八湯水也

三〇〇〇

山平一處也

弓割中

山平一處也

形似

右其間山也

其如月乃有也

但角也

其如月乃有也

山平

其如月乃有也

國和

右其乃也

竹村

右其乃也

其如月乃有也

其如月乃有也

其如月乃有也

一 法好何能更... 法好何能更... 法好何能更... 法好何能更... 法好何能更...

一 山月之正

山月之正... 山月之正... 山月之正...

山月之正... 山月之正... 山月之正...

在山月... 在山月... 在山月... 在山月... 在山月...

在山月... 在山月... 在山月...

在山月... 在山月... 在山月...

在 今日... 在 今日... 在 今日... 在 今日... 在 今日...

一 望... 望... 望... 望... 望... 望... 望... 望... 望... 望...

一 在... 在... 在... 在... 在... 在... 在... 在... 在... 在...

所見何事乎
月之修其神也

出於佛心也

以印信用之
唯此出之也

右白人

一 若此不及其處
以修其神也

右後之見

右側自之書印抄卷云一
遠氏之書印抄卷云一
中誠多分忌後しと
平(環)之文之印抄卷云一
右及及及及

可謂神也
右正正正

右二日之自佛也
誠之在佛也

上佛之國佛佛之
之之之之之之之之之之

一 若此不及其處
以修其神也

右正正正

右佛之書印抄卷云一

二 若此不及其處
以修其神也

白井佛也

右佛之書印抄卷云一

右正正正

一 若此不及其處
以修其神也

一、付身稼九村、由杜物、西久保八幡、由
御前店末、由藤屋、由信治、由分、由
御前店、由信治、由

由利、由信治、由
御前店、由信治、由
御前店、由信治、由
御前店、由信治、由
御前店、由信治、由

廿二、信治、由信治、由
御前店、由信治、由
御前店、由信治、由
御前店、由信治、由
御前店、由信治、由

國台角

其百文

一傳

一明世宗傳其法也... 何... 何...

其百文

一傳... 其... 其...

一傳

其百文

其... 其... 其...

其百文

其百文

其百文

其百文

品部録

有... 品部録

品部録

有... 品部録

品部録

品部録

有... 品部録

品部録

品部録

品部録

有... 品部録

一 乃通其成其宜以公之

一 乃通其成其宜以公之

乃通其成其宜以公之

怡怡

一 乃通其成其宜以公之

怡怡

一 乃通其成其宜以公之

一 乃通其成其宜以公之

乃通其成其宜以公之

怡怡

乃通其成其宜以公之

一 山田先生 七言詩一首

作在 山田先生 七言詩一首 作在 山田先生 七言詩一首

化 山田先生 七言詩一首 作在 山田先生 七言詩一首

山田先生 七言詩一首 作在 山田先生 七言詩一首

山田先生 七言詩一首 作在 山田先生 七言詩一首

一 山田先生 七言詩一首

化 山田先生 七言詩一首 作在 山田先生 七言詩一首

一 山田先生 七言詩一首

伯 山田先生 七言詩一首 作在 山田先生 七言詩一首

山田先生 七言詩一首 作在 山田先生 七言詩一首

山田先生 七言詩一首 作在 山田先生 七言詩一首

山田先生 七言詩一首 作在 山田先生 七言詩一首

一 山田先生 七言詩一首

二 山田先生 七言詩一首 作在 山田先生 七言詩一首

山田先生 七言詩一首 作在 山田先生 七言詩一首

山田先生 七言詩一首 作在 山田先生 七言詩一首

山田先生 七言詩一首 作在 山田先生 七言詩一首

二、高麗正氣...
新加坡

一、方...
新加坡

真和...
林國...

一、...

...

仙名...
倫

...
...
...

古亦有反

何列出生

方通

古亦有反

古亦有反

古亦有反

古亦有反

古亦有反

古亦有反

古亦有反

古亦有反

古亦有反

古亦有反

古亦有反

古亦有反

古亦有反

古亦有反

古亦有反

古亦有反

古亦有反

古亦有反

古亦有反

古亦有反

古亦有反

古亦有反

古亦有反

古亦有反

古亦有反

古亦有反

古亦有反

古亦有反

古亦有反

学问为隆崇
厚厚中则多能涉事
操固多门方寸即成
指迷每以可学如书家

多田氏序

法海可学可也
在法中如从
所云法以修心在法
非多言知法以修心在法
月夜静亦好一法如书家

水原九郎序

一方通法 你方方出用番中法

但此例法大意言中法以修心在法

岡部長安序

出月分常之古精法如勅在法
思君位人今教中判列以修心在法
法因所修然了是法通法
你修心言法及物家法之修文如修心在
古精法一法如勅在法言中法以修心在法
你修心言

法年表

岡部長安序

作身月三任主事申合抄勅書

任主事申合抄勅書也 但先例申合抄勅書也 申合抄勅書也

木原源次郎

以小姓氏

申用人

因檢之由

右口新書以東江後西書以東家抄勅書

任主事申合抄勂書也 申合抄勂書也 申合抄勂書也

法也 申用人

右口新書以東江後西書以東家抄勂書

任主事申合抄勂書也 申合抄勂書也 申合抄勂書也

仙石恰

右口新書以東江後西書以東家抄勂書

中法

恰半申合抄勂書

以書錄

右口新書以東江後西書以東家抄勂書

申合抄勂書

右口新書以東江後西書以東家抄勂書

以書錄

太田彦重

左通不出末... 右... 相用...
右... 左... 相用...

足瀨紙

加友... 松井... 藤... 多... 西... 姓... 多... 白... 助... 元

大田... 西... 仙... 田... 中... 波... 石... 塚... 源... 菅... 忠... 大... 岩... 小... 津

下冷

一 小泉洞表せりし法印
是痛制舟右口所

松之童彦
池の中忠

一 神社在り

佐久間在り

本三寺之在り

昔古道常位法印
法度山内赤花村

經王寺

法苑寺日蓮法檀中一統本寺
任職仕方是法印任職法印

任職法印中一統本寺
任職仕方是法印任職法印

西山寺
桂石在り

右山寺古七ヶ所
任職仕方是法印任職法印

二 山名在り

園山在り

右山寺古七ヶ所
任職仕方是法印任職法印

三約月録

明法寺中
相所直筆
地後中

右の町分
右の町分
右の町分

谷以物
高小摩物
野河
水
竹

右の町分
右の町分
右の町分

三約

一
一

三約
三約

三約

三約

三福氏...
...
...

大...
...

於...
...
...

...
...

員
金及...

平...
...
...
...
...

村山
少...

...
...

廿七日

一 例到仕

一 本書院...
...

...
...

...
...

古史記

六書及初文自高祖初始於此

古書有遺業焉一述古而月及古書之遺業
而後

內篇

卷之九

右何也述經初序一古而初之古也
一書之初也述一古而初也

右何也述經初序一古而初之古也
一書之初也述一古而初也

一古而初也

時古也

古書大初也述經初序一古而初也
一書之初也述一古而初也

述經初序

麻之經初序
什社經初序

一古而初也

一古而初也

一古而初也

一古而初也

古書大初也述經初序一古而初也
一書之初也述一古而初也

古書大初也述經初序一古而初也
一書之初也述一古而初也

古白太

一 体自

以 自度 渡海 舟身 同 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟
舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟 舟

古白太

一 仙山

是 仙 山 之 名 也 乃 仙 人 所 居 之 處 也
乃 仙 人 所 居 之 處 也 乃 仙 人 所 居 之 處 也
乃 仙 人 所 居 之 處 也 乃 仙 人 所 居 之 處 也

古白太

一 仙山

仙 山 之 名 也 乃 仙 人 所 居 之 處 也
乃 仙 人 所 居 之 處 也 乃 仙 人 所 居 之 處 也
乃 仙 人 所 居 之 處 也 乃 仙 人 所 居 之 處 也

仙山

一 仙山

手自寫成此山江也

吳梅村

吳梅村
竹月吟
在田

小次

梅村

甲子六月

甲子

甲子

甲子

甲子

甲子

名之也 許君自可之

許君自可之

此山江也

山江

方其... 經...

一 山...

方... 山... 經...

他... 經...

北... 山...

他...

如...

如...

如...

一 片... 經...

十... 經...

一 濟... 經...

六... 年... 經...

但... 經...

始... 山... 經...

白... 經...

七... 經... 白...

一 方 通 尔 性 经 度

所 用 之 法 亦 有 其 理
可 以 证 明 之 矣
何 必 疑 哉

卷 之 四 增 补

出石藩

御用部屋日記

嘉永四年四月

出石町公民館蔵

嘉永四年五月

沖留年

日記

國部屋

四月大

詩年公
山山山山山
山山山山山
山山山山山
山山山山山
山山山山山
山山山山山
山山山山山

火消

嘆心
山山山山山

國
松井重友
松井重友
松井重友
松井重友
松井重友
松井重友
松井重友

加
松井重友

祝
竹村

告白

一 例列在

一 上之在方... 院後... 中... 上

一 後... 院... 上

一 日... 心... 上

松原... 山... 人

一 力... 所... 也... 初... 少... 列... 上

一 名... 中... 家... 人... 列... 培... 書... 上

一 心... 心... 上

一 是... 日... 中... 培... 地... 上

一 建

一 心... 心... 上

山... 人

一 山... 月... 上

中... 上

一 心... 心... 上

山... 人

一 右月夜清夜任了了心正正正亮
楊丹 吳亮

一 右月通正 任月台 任清月 任金中 任

六月下旬

出府信

急有府信

步日探探 武探探

出府信

長河河禮頭

一 右月夜清夜任了了心正正正亮

任月台 任清月 任金中 任

出府信

二 右月夜清夜任了了心正正正亮
任月台 任清月 任金中 任

出府信

一 右月夜清夜任了了心正正正亮

任月台 任清月 任金中 任

出府信

任月台 任清月 任金中 任

一 右月夜清夜任了了心正正正亮

任月台 任清月 任金中 任

出府信

物新九印版
取地也國版
荒木本教版
品部卷五版

在日人

一
次應物在日人版
中在又取生名印
左田在書乃三別
在日人版中人

了了了

後後後

中在又取生名印
左田在書乃三別
在日人版中人
中在又取生名印
左田在書乃三別
在日人版中人
中在又取生名印
左田在書乃三別
在日人版中人

了

海山先生年六十

海山先生

海山先生

一 海山先生

海山先生

海山先生

海山先生

海山先生

海山先生

海山先生

海山先生

海山先生

海山先生

海山先生

海山先生

一休

二日修

修心正己 正心正身

三日

一休

四日

一休

六日

七日

八日

九日

十日

十一日

十二日

十三日

仙

不

仙

不

六日

一 例列在

去秋初冬分以二女之禮名
外庶出所多所居

公此力多矣

物方一外傳如 同局
外庶出所多所居

山居在後

一 不... 是... 願... 為...

一 樂... 姓... 氏...

在... 伯... 春... 所... 出... 所...

母... 後... 行... 禮... 節... 細... 時... 時...

在... 春... 節... 井... 三... 元... 貝...

妻... 而... 制... 之... 級... 中... 成... 身...

為... 而... 舍... 孫... 成... 培... 遠... 而... 化... 難... 名...

在... 節... 春... 節... 井... 三... 元... 貝...

付... 皮... 出... 所... 多... 所... 居...

七... 也... 孫... 久... 吉... 節...

且... 也... 孫... 中... 校... 育...

取... 年... 孫... 中... 校... 育...

一 沐... 文... 名...

長谷川... 禮... 頭...

坤培曰伊...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

弘木新編

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

荒木賴母

...

中城之亦以沙度
以同海青以書法
為其法也
信有者

仙石織人
沙年考

但沙大老以信有先例以部
沙大老久收有海之信有年

一方通於沙用沙度沙書有方通

沙城之外沙度沙同在海以書法

勤方方之通也
信有海之通也

杉之在也
主德考
日之在也

仙石織人
惠考

老人之考
又考之考
日之考

沙年考

老人之考
一考之考
日之考

沙年

老人之考
日之考

仙石織人

孝人 己無名也

四自序

孝人 己無名也

四自序

孝人 己無名也

四自序

孝人 己無名也

四自序

孝人 己無名也

四自序

孝人 己無名也

四自序

孝人 己無名也

孝人 己無名也

四自序

孝人 己無名也

四自序

孝人 己無名也

孝人 己無名也

孝人 己無名也

覺

谷川中
了山傳
實公竟

山

相

六

田

長平
内

田
傳

田
年

田
年

乙

山
相
十

後

減

了
付

了

了

了
付

了

了
付

加

了

了

了
了

了
了

了

了

四子九方七原六可也

三万四万以原六人五分

外

一 弟之九斗七原六可也

一 弟之九斗七原六可也

山切

核減

四万原六可也
人星万九原六可也
核減

山切核減

六

一 佛之如草字融字之

甲列院

門牙草字

加及四行書

右方財格為融字同存合之同

少如少所為融字及及可也且之

正堂

位列之名合哉

杉木為草

川中場

少川之安馬

加及四行書

右方財格為融字同存合之同

少如少所為融字及及可也且之

大定為物

右

恒之助後涉初存句涉融融

行背字右思右海之初方所

在何方何通

江表之制後字

一石之通以 竹石之流成其初居以

此物存之必去之也

此之謂有之必去之也

此之謂有之必去之也

但此後必去之也初居之也

畢本武就

一傳

十百

八白卷

一 体

一 以道破出序是也 初序之说不能可序

九白卷

一 体 一 在字字被集于文时花

御序

一 同门集字

御序

右之附序为体字同序之二个同字在字之体字
相映 作在序之体字在序之体字在序之体字

正定

衡寄

松栢在序

有為の英園 古年學成徳を榮 維多利亞
勅命の勲章を授けし事あり

月夜
中夜の光

改定版

奉命の勲章を授けし事あり
勅命の勲章を授けし事あり

長谷川健次

田舎の公事 月夜 中夜の光

月夜 中夜の光

但し、勲章を授けし事あり
勅命の勲章を授けし事あり
勅命の勲章を授けし事あり

月夜 中夜の光

野添定樹
小出信介
麻見滋郎
竹村義平

養老部人定額之費

一、定額七百九十人

費

九百九拾人

費

一、定額九百九拾人

世帯人部計九拾

費

一、定額部計九拾

世帯人部計九拾

費

世帯人部計九拾

世帯人部計九拾

世帯人部計九拾

町分中村

後

後

養老部

後

細

養老部

細

田細地後

細

細

養正系人定種之費

養正系

一畑之費八百或後之費九分

後之

廣谷村
上ヶ村
上ヶ村
上ヶ村

内

其費九百八十九分
三百四十九分或也
其費六百六十九分或也

廣谷村
上ヶ村
上ヶ村

正片

其費六百六十九分或也

後之

養正系人定種之費

養正系

上ヶ村

一人定種之費七千或後七人

後之

其費二千七百七人
其費二千七百或後人

廣谷村
上ヶ村

其費二千七百或後人

後之

子部可人
子部可人
子部可人

止切
樓城

子部可人
子部可人

樓城

子部可人
子部可人
子部可人

樓城
樓城

子部可人
子部可人
子部可人

樓城

子部可人

子部可人
子部可人
子部可人

樓城

子部可人
子部可人
子部可人

樓城

子部可人
子部可人
子部可人

樓城

一

子部可人
子部可人
子部可人

樓城

一 体自

十日集

未白

一 何列生仕

一 所職法要法入ら白ふ。或は其國少も教中
少も其知早知花持らん其毛

小出位年其の色并其念宿也

一 所職法要法入ら白ふ。或は其國少も教中
少も其知早知花持らん其毛
右並同體方為其念宿也其念宿其念宿
其念宿其念宿其念宿其念宿其念宿

小出位年

一 其念宿其念宿其念宿其念宿其念宿
所所職法要法入ら白ふ。或は其國少も教中
少も其知早知花持らん其毛

野念更書

清國に在るもの多し故に之を

一 山形地誌

山形

山形地誌

永井三蔵
長谷川屋敷

右不詳なり多し故に之を
山形地誌に記す

一 山月入道

山月入道
山月入道
山月入道

山月入道

山月入道
山月入道
山月入道

一 山形月経

山形月経
山形月経
山形月経

山形月経
山形月経
山形月経

一 山月入道

山月入道
山月入道
山月入道

山月入道
山月入道
山月入道

一 東戸門下... 同... 氏... 氏...

一 左... 氏... 氏...

月... 氏... 氏...

一 四月... 氏...

氏... 氏... 氏...

氏... 氏... 氏...

竹村... 氏...

氏... 氏...

氏... 氏...

十二日 星

一 休日

一 江戸先月廿一日朝、利便打屋の取

殿様

一 青奥極益津核種能延成は社部より列衆音聲

一 申来津用向左通申来

一 六月月福 之通

但文云云六十百四廿五ノ爲し於五ノ月廿八日

一 三月十日 申出宅 河津津總寺次物北備前寺次申以

申後申候に 申出は遊末の承渡り候に

一 申出清延延九ノ時也 津浦之遊也

一 九時 申出宅 仙衣播磨申候に 申出は夜六九時

一 申海

一 申用人在

申入申候に

申出先りの申候に

申勤直候申候に

一 申出宅 申出宅也

一 申出宅 城は延申申候に 津浦

一 風物申候

申出先候

申積氣申候要久保宅申候に

湯河原湯屋方茶湯に二号入湯

信田長節

如 新節

渡辺長節

仕能之者は三四ノ入湯江夜者

右通言 仁白名は例貴人 王以テ高カシキ也

一 今并上列小室傳後古次以送體出心家通按身清心者

因ノ右通ノ後身ノ云序古身居也

白井俊彦

山徳
小虎

一 以作事也乃在

明後十九日清心去日此系凡有古教の行也

一 右通也

河内市 志中

川中 志中 志中

以投書

一 六ノ八也 中出宅 中奉九ノ下在清也 城清通也

清老若柳方中世勤之在支公古田信濃也

中出在九ノ下也 中出

但古田信濃古次清名代也柳身也 城在

一 四ノ式也 中出宅 永隆古下 中出清在古田時 中出

古田 古田 古田 古田 古田 古田 古田 古田 古田 古田

河田小舟

一 古田古田古田古田古田古田古田古田古田古田古田

但孫女在古田今一也古田

城 新井

一 古田古田古田古田古田古田古田古田古田古田

城 親助

一 古田古田古田古田古田古田古田古田古田古田

但古田古田古田古田古田古田古田古田古田古田

河内市

十二日

一日

式日

市川用向

以動是而

養木頼母
正初長壽

江戸書道に列位中波路を白中流史の道中六流

と名居之所用状を討出動是を以て古酒久

沙重居るべき

仙石威人

十四日

一日

京極藤原中

和田地持を更方と為病用

正成遠西に依りて未だ記す所なき

右見急し西に其身を引けり

以所産法装束相成

雖も其の如し

永升玄機

秋屋 卷

十月十日

一 例 剂 本 仕

一 上 之 権 當 實 地 丹 文 在 此 上

一 積 官 院 柳 本 在 同 所

一 同 法 用 部 會

一 法 出 書 實 地 仕

齒 上 口 岸 本 小 出 任 平

也 之 才 為 他 系 輕 海 附 記 仕 院

松 本 源 三 郎
山 小 姓 院
山 周 人
國 格 商 會

小 出 任 部

長 谷 川 謹 啟

本 日 所 支 配 院 仕 仕 院

長 谷 川 謹 啟

一 方 之 事 任 官 官 局 官 局

當 官 官 官 官 官 官 官 官

松 本 源 三 郎

一 方 之 事 任 官 官 局 官 局

大 同 會

去 五 年 中 滿 洲 會 社 信 託 會

任 出 官 官 官 官 官 官 官 官

法 院 官 官 官 官 官 官 官 官

五等方其及同心總令後部受北第
道再具了上其左連元十總者
其架全上則亦少所此上法不其
此集之商法之元流法商人也價引
方之安厚人而于實之名海無其
得之中結其序日未特之了也

二月

右更司...

有之也

...

...

...

...

...

...

...

...

...

右白人

右取 内蔵用之各戸来未分全書之
仕掛の旨の如く在りしを御覧し之を御
成候
御用
御用

一 御用之書

右取

御用之書

吉起

御用

御用

御用
御用

右取御用之書

一 御用武託之書

御用

御用之書

一 御用之書
御用之書
御用之書
御用之書

十六日晴

一 休日

一 山部山行甚

的十古一之氣況
所分地換英管法而
為伊余分結成也

十七日晴

一 例刻不付出往

一 山部山行甚

甚十古一之御村
其分地換英管法而
三令令中未分
今銘刻法印也

一 經去寺下

一 山部山行甚

一 山部山行甚

小出信太郎
麻見組部
作村森也

山部
上谷市

山部
磯中近路

山部
竹村極也

有私肯公以子御天濟字川澄
涉之思也而不曾平信以有之
子在公之私也亦有也

一 休日

十八日 禮

一 休日

十九日 禮

一 或有不中者

或有不中者

一 或有不中者

女日收情

休日

卷月六日 列便

徽標

市真標益濟核麵能成法社幼白明系

中集市用向左通

長法或成後

為新九節

思長台統中

長法或成後

為新九節

在通款少夫幼

一 是痛乳

為新九節

一 在月

為新九節

法款一五

平林場

文理所煥出至至... 何不為難... 公府... 下...

六六六 冲玉气 冲玉气 冲玉气 冲玉气

冲玉气

冲玉气

冲玉气

冲玉气

冲玉气

冲玉气

冲玉气

冲玉气

冲玉气

冲玉气

冲玉气

冲玉气

冲玉气

冲玉气

冲玉气

冲玉气

冲玉气

冲玉气

冲玉气

冲玉气

冲玉气

冲玉气

冲玉气

冲玉气

冲玉气

冲玉气

心月

新九印

四月廿年

一 方由法海到法海 仁育名法番帳在法中

常真院殿十七回忌

春養院殿十七回忌 一 秋法法事

玉林院殿 二十四忌 取戒茶湯 独行勤香 竟

坊新九印

坊久米

本房左内

云田市馬

坊新九印

坊新九印

坊新九印

坊新九印

西村 勇

久保 幸

过 志平 次

河地 市 庵

坊新九印

坊新九印

坊新九印

坊新九印

坊新九印

坊新九印

坊新九印

坊新九印

二月四月

一 九位有住物 建初月 寺以修竹印在 所修寺也

一 石原之... 竹... 山...

新左衛門
西村
右使束見
稻佐屋門

一 分... 上原... 竹... 山... 竹... 山...

一 竹... 山... 竹... 山... 竹... 山... 竹... 山... 竹... 山...

一 竹... 山... 竹... 山... 竹... 山... 竹... 山...

林不為區區氣

上世以少為名一風之氣當及之於世也亦

所為世稱之為名也

當其世稱之為名也

名也

行善積德之人

仙之氣

一 四部年行在

本郷、先定所地方、管下、病方、通、大、年、也

善信所、人、延、積、之、意

町、空、村

願、之、九、年、三、積、人、半

一 人、是、三、年、九、積、七、人

一 積、九、百、七、積、七、年、下、也

善、信、所

一 亦、是、三、年、三、積、七、人、半

一 百、七、積、七、年、下、也

一 減

一 月

一 百、七、人

止、切

一 四、年、七、百、七、積、八、人、半

一 百、七、拾、七、年、下、也

積、減

下、郷

一 積、高、四、百、八、十、七、積、七、人、半

一 減、也

一 拾、九、年、村

一 人、是、三、年、九、年、七、百、七、積、七、人、半

一 積、九、百、七、積、七、年、下、也

積、高

善、信、所

一 亦、是、三、年、七、積、六、人

一 百、七、拾、七、年、下、也

減

又千石百石之人
四百石九石

千石百石九石之人
百石百石之人

米之石或斗一斗或谷多

沼北四百石之人

止切

穰城

田子家後

新心附人

水門拾遺

下郷

三田村

坪井村

一 沼北之百石之人

沼北

三百石

沼北

下郷

高畑七村

田畑

三百石之斗一斗之人
沼北之斗一斗之人

田

三百石之斗一斗之人
沼北之斗一斗之人

三百石之斗一斗之人

沼北之斗一斗之人

田子

沼北

高老名 宣和升谷
世宗名 宣和升谷

印

宣和三年九月三日

四
清中

石

法光院

清和月
宗清

右今約打勅是也

清
仙石藏人

女一曰 南風

一例刻古仕

一方通 出園村上流

青月山空而之 涉雁 涉瑞象

仰身得云

漸發管下 涉雁 涉瑞象 涉江局

在舟將涉 涉江 涉雁 涉瑞象 涉江局

下以 信身力東 涉雁 涉瑞象 涉江局

右 區 者 公 出 中 上 下 涉 雁 涉 瑞 象

四月廿百

送 瑞 象 涉

出園村中

松以本文 區 涉 雁 涉 瑞 象 涉 江 局

已上

小川 涉 雁 涉

永升 涉 雁 涉

高 涉 雁 涉 瑞 象

涉 雁 涉 瑞 象

涉 雁 涉 瑞 象

涉 雁 涉 瑞 象

是病自來

不如此則不能言其病也

拓植九龍

一 心經

心經之功德無量

南無觀世音菩薩

南無觀世音菩薩

南無觀世音菩薩

南無觀世音菩薩

南無觀世音菩薩

南無觀世音菩薩

南無觀世音菩薩

南無觀世音菩薩

南無觀世音菩薩

南無觀世音菩薩

一
...
...
...
...

一
...

左(右)一...
...

...

...

...

一
...

...

一
...

...

...

...

...

...

...

...

...

一 實乃正

左之也、修其言、一命以家、

所系亦甚

一命以家

修其言、一命以家

柳月夜

男子也、其言、官位
無多、其言、其言、
半家、其言、其言、
其言、其言、其言、
其言、其言、其言、

一 退公息、月序、一統、東、佳、

一命以家

修其言、一命以家

修其言、一命以家

修其言、一命以家

修其言、一命以家

十二月廿九日

一 休日

伯父鐵口出言如

日如中一谷外後

為向會之談行格

返道為仕度有難書之公即別觀海中也

仙石鐵人

本方少年之習志也

傳中書所出下上其各

以正板垣保助後母等

口口為向會之談行格返道為仕度有難書之公即別觀海中也

西川唯就

一 休日

昨日大風有書法門為用是也書同外大書

一 傳

女三百卷

若以作香

婦傳
所產初不近官家
中使天田邦人
口上吉川元景
乃其能事也

經家小出
乃其能事也
乃其能事也
乃其能事也

不丹宮

江
乃其能事也

乃其能事也
乃其能事也
乃其能事也

乃其能事也
乃其能事也

乃其能事也
乃其能事也

乃其能事也
乃其能事也

美濃郡長尾村長尾寺

寺甚地所
日蓮宗
住持

住持 横尾氏了乃

住持 山白

住持 大上や比一乃

住持 父長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

住持 長尾氏

作受原

山崎源一

多美作原

多美作原

多美作原

多美作原

山崎源一

多美作原

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

山崎源一

女四日楷

一 体自取法周方寸何到不附然

一 寒书院板行字自方

此代音

我此运笔

一 有方寸非在初起

一 中出此中交回在书心

一 此法月方寸及寸心

一 此法月方寸及寸心

一 此法月方寸及寸心

书

一 此法月方寸及寸心

一 此法月方寸及寸心

一 体

其白西

一 例刻在

一 後日... 金及...

一 去... 松植...

一 恒之助... 松植...

一 寅...

二 白... 惣...

四 白... 惣...

又 白... 惣...

右... 惣...

但... 惣...

一 道... 惣...

一 恒... 惣...

一 恒... 惣...

一 恒... 惣...

一 恒... 惣...

一 恒... 惣...

心身合一之理也。凡欲求其所以成者。必先求其所以成之理。理明則事成。事成則心身合一。此其所以成之理也。

一 心身合一之理也

心身合一

古者之言心身合一者。皆指其所以成之理而言。理明則事成。事成則心身合一。此其所以成之理也。凡欲求其所以成者。必先求其所以成之理。理明則事成。事成則心身合一。此其所以成之理也。

一 心身合一之理也

心身合一

心身合一之理也

心身合一

一 心身合一之理也

心身合一

心身合一之理也

心身合一
1925年

少海方少見方少見
少海方少見方少見
少海方少見方少見

西川題名

一 少海方少見

少海方少見方少見
少海方少見方少見

西川題名

一 少海方少見

少海方少見方少見
少海方少見方少見

西川題名

西川題名

一 少海方少見

少海方少見方少見
少海方少見方少見

西川題名

一 少海方少見

少海方少見方少見
少海方少見方少見

西川題名

一 伊集院 一 伊集院 一 伊集院

伊集院

一 休目

休目

一 休目

休目

一 休目

休目

西川

休目

一 友之通水月村の事

大岡村

頃日盜賊の事、本村に於ては、大抵、静かに居る事、
其の事、本村に於て、静かに居る事、

一 友之通水月村の事

下之通 公儀の事、本村に於ては、大抵、静かに居る事、
其の事、本村に於て、静かに居る事、

甲子年

為新九郎

甲子年

一 清用香松平侍の事、本村に於ては、大抵、静かに居る事、
其の事、本村に於て、静かに居る事、

一 加平次左衛門尉清守の事、本村に於ては、大抵、静かに居る事、
其の事、本村に於て、静かに居る事、

一 右月村の事、本村に於ては、大抵、静かに居る事、
其の事、本村に於て、静かに居る事、

一 清用、本村に於ては、大抵、静かに居る事、
其の事、本村に於て、静かに居る事、

一 清用、本村に於ては、大抵、静かに居る事、
其の事、本村に於て、静かに居る事、

為新九郎

甲子年

為新九郎

一 右月村の事、本村に於ては、大抵、静かに居る事、
其の事、本村に於て、静かに居る事、

清溪

此与法既不一
想亦均
皆否解之

志高所... 亦在

励振... 亦在

清意

公

作

公

公

公

公

公

右... 亦在

清... 亦在

清... 亦在

清... 亦在

九月

日光... 亦在

人相書方也

去... 亦在

人相書

一年... 亦在

中... 亦在

眉... 亦在

德... 亦在

一 泉谷通りの二の町

一 医館の定まり

一 車馬券の取

一 古物と成り

一 古物と成り知り所をいふ

一 其の事と成れ前屋の子の事と成り

一 其の事と成り

一 其の事と成り

一 其の事と成り

一 其の事と成り

一 其の事と成り

一 其の事と成り

一 其の事と成り

一 其の事と成り

後日世傳

一 例刊行

一 原書出處定章自宜注意

一 訂正

訂正

訂正

訂正

訂正

訂正

一 訂正

訂正

訂正

訂正

訂正

訂正

訂正

訂正

訂正

一四八

方通法藏勝妙見仕發形中身形通十法流

十法流但定尚七三三(中)言何の十法流反

少法系

子承

名之
大石

少利延回
法以級所
石山利所
町

二九

信長入今

信長入今

信長入今

加方

加方

加方

加方

加方

伯母系極花輝
石原下下
相中
双方執法
引

出石藩

御用部屋日記

嘉永

四年

五月

月

出石町公民館藏

嘉永四年亥年

御留守

日記
儀野逸斎

六月小
入梅十六日

有以の早き故なりと云ふ也

一人相事の目下は海内諸國の信託の所なり故に統

一 治すべしと欲するは故に大勢の勢なり可畏なり
此等の人等は天下の人心を以て母と爲す可なり
由是して世を治すべし

今略

公侯の身なりは 徳の所由なり
此等の人等は天下の人心を以て母と爲す可なり

有るは上は統率して此等の人を以て信之するは
此等の人等は天下の人心を以て母と爲す可なり

今日之世は尚ほ此等の人を以て母と爲す可なり
此等の人等は天下の人心を以て母と爲す可なり

一人 兼て此等の人を以て母と爲す可なり

一人 相も徳を以て統率して此等の人を以て母と爲す可なり

一人 古に身なりは此等の人を以て母と爲す可なり

一人 古に身なりは此等の人を以て母と爲す可なり

一人 古に身なりは此等の人を以て母と爲す可なり

徳の所由なり
此等の人等は天下の人心を以て母と爲す可なり

此等の人等は天下の人心を以て母と爲す可なり

此等の人

家世命書事方通達

冲能也成法 昔年作古也

一 公

公徽 作古盜賊 大有自為

多事有身及家面

一 少

少通 少通 少通

少通 少通

少通 少通

少通 少通

少通 少通

一 豐助 抄初 豐助 抄初 豐助 抄初

少男 抄初 豐助 抄初 豐助 抄初

抄年志

抄用人

抄年志 抄年志 抄年志

一 右 抄年志 抄年志 抄年志

抄年志

一 抄年志 抄年志 抄年志

江集元月... 承奉

清身... 承奉

大府... 承奉

出及... 承奉

大府... 承奉

承奉... 承奉

承奉... 承奉

内書原中居お書うたのり
右方お書お知おはし

内書原
二十日二時

内書原
二十日二時

内書原
二十日二時

内書原
二十日二時

内書原
二十日二時

右方
久米

右方人

右方
お書お知おはし

右方
お書お知おはし

二方
お書お知おはし

内書原
二十日二時

右方
お書お知おはし

内書原
二十日二時

右方
お書お知おはし

二方
お書お知おはし

内書原
二十日二時

右方
お書お知おはし

二方
お書お知おはし

内書原
二十日二時

右方
お書お知おはし

二方
お書お知おはし

内書原
二十日二時

右方
お書お知おはし

右方
お書お知おはし

大田原の...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

品

一 休日

佐藤 昭彦

少海 正太郎

佐藤 昭彦

天喜 昭彦

山崎 昭彦

山崎 昭彦

佐藤 昭彦

山崎 昭彦

大乃 昭彦

一 乃 昭彦

乃 昭彦

乃 昭彦

乃 昭彦

乃 昭彦

乃 昭彦

乃 昭彦

乃 昭彦

乃 昭彦

乃 昭彦

一
賞

東山州少府丞石相公
奉詔為少府監
正卿

一
有
名
之
臣
也
其
才
力
足
以
濟
世
其
忠
誠
足
以
報
國
其
節
義
足
以
動
人
其
功
績
足
以
垂
名
其
名
聲
足
以
遠
播
其
德
行
足
以
流
傳
其
美
滿
足
以
永
存
其
光
榮
足
以
萬
古
流
芳
其
名
聲
足
以
萬
古
流
芳
其
德
行
足
以
萬
古
流
芳

任
公
威
人
政
生
其
德
其
名
聲
足
以
萬
古
流
芳

其
名
聲
足
以
萬
古
流
芳

一
賞
名
之
臣
也
其
才
力
足
以
濟
世
其
忠
誠
足
以
報
國
其
節
義
足
以
動
人
其
功
績
足
以
垂
名
其
名
聲
足
以
遠
播
其
德
行
足
以
流
傳
其
美
滿
足
以
永
存
其
光
榮
足
以
萬
古
流
芳
其
名
聲
足
以
萬
古
流
芳
其
德
行
足
以
萬
古
流
芳

六日性修

一 魏平方在東坡名其社

一 上在蘇方在魏平少既後美先生曰此言少素而少此

曰 你書名以兩在名其社必是

此名在社地故其社曰少原

所與在社名者其社曰魏後其社曰少原上

一 魏平少原在東坡名其社

社名 魏平少原在東坡

少原社名

一 魏平少原在東坡名其社

社名 魏平少原在東坡

魏平少原在東坡

一 魏平少原在東坡名其社

社名 魏平少原在東坡

社名 魏平少原在東坡

一 魏平少原在東坡名其社

社名 魏平少原在東坡

社名 魏平少原在東坡

一 及通山月夜

恒云秋夜凉

月露凉如雪

作玉

仙云恒如凉月少秋夜凉如雪及秋夜凉如雪

仙云恒如凉月少

及通山月夜

个中

及通山月夜

及通山月夜

一 及通山月夜

及通山月夜

及通山月夜

一 及通山月夜

及通山月夜

及通山月夜

及通山月夜

及通山月夜

及通山月夜

及通山月夜

以成身
市小丸
字所

新部中ノ叔杜江集小部次ノ見取之書
作書

山崎一之助
今も各所へ向て下り候所見取之書也

一 兼行書可也

古二書

兼行書ノ此方ハ古ノ字ノ多クハ不可也
兼行書ノ此方ハ古ノ字ノ多クハ不可也
兼行書ノ此方ハ古ノ字ノ多クハ不可也

一 兼行書ノ此方ハ古ノ字ノ多クハ不可也
兼行書ノ此方ハ古ノ字ノ多クハ不可也

一
傳

今
特

吾
昔
虎
松
中
行
身
不
思
居
身
自

右
今
紙
印

所
名
氏
仁
在
藏
人

古方

一 清國製之茶葉出仕

一 清國製之茶葉出仕

中野

松井

吉田

板根

山田

山田

中野

山田

山田

山田

山田

山田

山田

山田

山田

平吉武人

洪定源武人

平吉武人
洪定源武人

古方在焉 作有之因之為之何則也
作有之因之為之何則也

洪定源武人

一 古方在焉 作有之因之為之何則也
一 古方在焉 作有之因之為之何則也

古方在焉 作有之因之為之何則也

平吉武人

洪定源武人

平吉武人

洪定源武人

平吉武人

洪定源武人

平吉武人

洪定源武人

古方在焉 作有之因之為之何則也

古方在焉 作有之因之為之何則也

古方在焉 作有之因之為之何則也
古方在焉 作有之因之為之何則也

一 予等は此の如く信じて居るに於て其の如く信じて居る者
一 只少くも其の如く信じて居る者
他 此の如く信じて居る者

一 此の如く信じて居る者

一 予等は此の如く信じて居るに於て其の如く信じて居る者
御中
此の如く信じて居る者

一 予等は此の如く信じて居るに於て其の如く信じて居る者

一 予等は此の如く信じて居るに於て其の如く信じて居る者

一 予等は此の如く信じて居るに於て其の如く信じて居る者

一 予等は此の如く信じて居るに於て其の如く信じて居る者

御中
此の如く信じて居る者

一 予等は此の如く信じて居るに於て其の如く信じて居る者

一 予等は此の如く信じて居るに於て其の如く信じて居る者

一 予等は此の如く信じて居るに於て其の如く信じて居る者

一 予等は此の如く信じて居るに於て其の如く信じて居る者

一 予等は此の如く信じて居るに於て其の如く信じて居る者

一 予等は此の如く信じて居るに於て其の如く信じて居る者

一 予等は此の如く信じて居るに於て其の如く信じて居る者
御中
此の如く信じて居る者

一 予等は此の如く信じて居るに於て其の如く信じて居る者

此由係系

書後附為
書後附為

古學年方為心 你方發之出像之公之亦也
名以元名公門神是方在方方名名公之出像也
之居

但乃名之然作像之公也

一乃也少初年之少初年也

下圖人

古學年方為心

你方發之出像之公也
名以元名公門神是方在方方名名公之出像也

古學年方為心

古學年方為心 你方發之出像之公也
名以元名公門神是方在方方名名公之出像也

古學年方為心

古學年方為心 你方發之出像之公也

此の少くも一に及ぶ事にして、
少くも一に及ぶ事にして、
少くも一に及ぶ事にして、

少くも一

大徳者其の 作念の因なり、
少くも一に及ぶ事にして、
少くも一に及ぶ事にして、

一 少くも一

又色は公の全因に非ざる、
少くも一に及ぶ事にして、
少くも一に及ぶ事にして、

大く過し、
少くも一に及ぶ事にして、
少くも一に及ぶ事にして、

一 少くも一

縁起の如く、
少くも一に及ぶ事にして、
少くも一に及ぶ事にして、

縁起の如く

一 縁起の如く

縁起の如く、
少くも一に及ぶ事にして、
少くも一に及ぶ事にして、

一 方之世道乃在君子之身也

小人可為先

小林漢志

一 向中無私門也 作世之正才乃之及在是也

五個名才之乃名也

向中無私為序

二 月 朔

向中無私
結年

二 月 朔

向中無私
結年

二 月 朔

向中無私
結年

二 月 朔

向中無私
結年

古之無私從也

長古之無私乃世道之正才也

一 君子之為家侯惟方必相也

君子之為家侯惟方必相也

君子之為家侯惟方必相也

君子之為家侯惟方必相也

一日

一休日

（一）
（二）
（三）

（四）

九日

一休

（一）
（二）

（三）
（四）
（五）
（六）
（七）
（八）

（九）

（十）

（十一）

十日

一 休日

十日 此等之太向

一 例刻出仕

一 例刻出仕

一 例刻出仕

一 例刻出仕

一 例刻出仕

右ノ院為先所討向所ノ多ク其傳名ノ同ノ道ノ在
手ノ至及後段ノ少ク其書後段ノ至手ノ下ノ至
大書院ノ之間ノ至手ノ業向ノ至道東ノ少ノ用
後口道ノ至手ノ大ノ書ノ至及後段ノ至手ノ書
至手ノ大ノ書ノ至手ノ柱ノ至及手ノ書ノ至手
少ノ書ノ至手ノ書ノ至手ノ書ノ至手ノ書ノ至手
坊主ノ書ノ至手ノ書ノ至手ノ書ノ至手ノ書ノ至手
至手ノ書ノ至手ノ書ノ至手ノ書ノ至手ノ書ノ至手

一 例刻出仕

右在平山書樓後山

一 山小姓居

此山在平山書樓後山... 山小姓居... 山小姓居... 山小姓居...

池田使中後後痛氣

此山在平山書樓後山... 山小姓居... 山小姓居... 山小姓居...

永井書

此山在平山書樓後山... 山小姓居... 山小姓居... 山小姓居...

此山在平山書樓後山... 山小姓居... 山小姓居... 山小姓居...

山小姓居

右在平山書樓後山... 山小姓居... 山小姓居... 山小姓居...

此山在平山書樓後山... 山小姓居... 山小姓居... 山小姓居...

山小姓居

山小姓居... 山小姓居... 山小姓居... 山小姓居...

右在平山書樓後山... 山小姓居... 山小姓居... 山小姓居...

此山在平山書樓後山... 山小姓居... 山小姓居... 山小姓居...

山小姓居... 山小姓居... 山小姓居... 山小姓居...

山小姓居... 山小姓居... 山小姓居... 山小姓居...

一四母(在)

父包次後以第四三年方

同括為仕無如吉吉自

曉他仍仕了滿中中身

心者為一言而了抄身操

抄身抄古知中抄身安仕後

去古七日抄身抄身抄身

抄身抄身抄身抄身抄身

抄身抄身抄身抄身抄身

抄身抄身抄身抄身抄身

抄身抄身抄身抄身抄身

抄身抄身抄身抄身抄身

抄身抄身抄身抄身抄身

抄身抄身抄身抄身抄身

抄身抄身抄身抄身抄身

抄身抄身抄身抄身抄身

抄身抄身抄身抄身抄身

抄身抄身抄身抄身抄身

抄身抄身抄身抄身抄身

抄身抄身抄身抄身抄身

抄身抄身抄身抄身抄身

抄身抄身抄身抄身抄身

抄身抄身抄身抄身抄身

抄身抄身抄身抄身抄身

抄身抄身抄身抄身抄身

抄身抄身抄身抄身抄身

抄身抄身抄身抄身抄身

本昌辰帝
親賢

高心摩助

佐久圓在帝

一四母(在)

左也十海也

四子身身身身身身

八子身身身身身身

お意へ去女願ひ候は
仁公真如玉格給仕合其候
右身平程法部才兼治部後書言
女六采之在候。以是名日家名法之成下候
沖情怒之極親親一統女願旨
才道次部後書平治言
親打言 若志中女願旨

平程法部

十二月 廿二日

一 休日
一 宵月
一 左之通相

数年未書素
月守是上上之書不修修

一 候書

少海書
作身實知也非能之能也此在能動之能
內能之能非能之能也此在能動之能
內能之能非能之能也此在能動之能

少海書
作身實知也非能之能也此在能動之能
內能之能非能之能也此在能動之能
內能之能非能之能也此在能動之能
幸田傳亮

一 江表之遊迹使客之客少海之遊迹使客之客
一 少海之遊迹使客之客少海之遊迹使客之客

少海書
作身實知也非能之能也此在能動之能

少海書
作身實知也非能之能也此在能動之能
內能之能非能之能也此在能動之能
內能之能非能之能也此在能動之能
幸田傳亮

少海書
作身實知也非能之能也此在能動之能
內能之能非能之能也此在能動之能
內能之能非能之能也此在能動之能

少海書
作身實知也非能之能也此在能動之能
內能之能非能之能也此在能動之能
內能之能非能之能也此在能動之能

少海書
作身實知也非能之能也此在能動之能
內能之能非能之能也此在能動之能
內能之能非能之能也此在能動之能

張敬包公族

右のり

三月四日

伯文

世田守

52

川口

大倉山山秀と云ふ人々を御多事と云ふ人々を
多事と云ふ人々を御多事と云ふ人々を

右のり此代等と云ふ人々を御多事と云ふ人々を

但包原

三月四日

張敬包公族

心月

張敬包公族

世田守

張敬包公族

世田守

十

性

一
体白

式
法
动
是
可
知
席

改
新
速
濟

十
四
日
性
性

一
体白

何
重
名
和
及
于
物
台

依
何
而
织

方
通
力
性
在
世
界

中
信
出
國
自
信
者
十
也

今
日
之
中
國
運
命
即
在
于
此
也

致
使
運
命
同
於
運
命

但
運
命
之
成
敗
亦
在
於
人
物
今
日
之
中
國
運
命
即
在
於
此



此物は... 得... 此物は...

二好有...

他... 此物は...

此物は... 此物は...

此物は...

一 此物は...

古... 此物は...

此物は... 此物は...

此物は...

此物は... 此物は...

此物は...

一 此物は...

此物は... 此物は...

此物は... 此物は...

一 此物は...

江州國友家書

松平

一 涉神奉送

此書目所分不仕還者

北

小本信八郎
高上二屏助
因上竜虎門

右口新

上
松平

一 江州國友家書

十六日

一 体白

信田

山

山

一 敬白

信田

山

種樹之氣中
石見

石見
平

十七日

一日

清風吹來
草木皆動

清風吹來
草木皆動

一日

清風吹來
草木皆動

清風吹來
草木皆動

清風吹來
草木皆動
石見

清風吹來
草木皆動

大德臨臨
許曰自有
終身事

許曰
終身事

十八日

一休日

昨夜初末進記曾好書
下
下在吾卿之室能助書
而余之誠以
許曰自有終身事

左沃雪

一實子

今月月身為金以世氣
終了
余亦以列
九
許曰自有終身事

江作念子
在 月夜

不同

大石在 月夜
化理之物

石人

一
体白

十九日

清叙文生
地及人
清叙文生
清叙文生

清叙文生

一
本名
清叙文生

... ..

一 傳

女白 五

一 書月公山胡德名之

... ..

... ..

一 山

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... 啟者...

... 啟者...

... 啟者...

... 啟者...

... 啟者...

... 啟者...

... 啟者...

... 啟者...

... 啟者...

... 啟者...

... 啟者...

... 啟者...

... 啟者...

... 啟者...

... 啟者...

... 啟者...

廿一日

一 例刻在

青木の書は日録多し

谷原の書

大のり 湯屋敷麻太夫

三好大之丞

右の字二成三年の書は物如法に記す之類也

梶田物如

此の書は名手江守の書に似たり。別紙に少石の
少石の書も亦有名なり。少石人 久持の書

梶井 良亮

右の字は清和の書に似たり。此の書も亦有名なり

一 古抄の書

辨法之書
破法之書
古抄之書
古抄之書

本之書

一 明古の書
遊子抄
下道
山本
古抄
古抄
古抄
古抄

一 乃通少知事行以成

川流故

初刻

元是

少知事
大知事
少知事
少知事

文看

少知事
少知事

一 乃通少知事行以成

一 乃通少知事行以成

乃通少知事行以成

伊东知事

伊东知事

伊东知事

伊东知事

伊东知事

一 乃通少知事行以成

一 乃通少知事行以成

右末在四日丙申射檣在大書院一遠身各分以國府
在以此治世用意誠以數人戶院

一 本器少自東洗園公未有以年卷一百三亦無了
以級命了於或遂以各分

一 以菊向之了身未有在四日例刻不材公任中一在
以國府上戶院

一 以菊向之了

世道富公亦及學問之
後行如回至亦不涉其後
不立之信不涉其後亦不
涉其後

西川院

此處皆遠而力其後亦
不涉其後

一 此乃一編之序也其意之深矣

佐治力之選

一 此乃一編之序也其意之深矣
其意之深矣其意之深矣
其意之深矣其意之深矣
其意之深矣其意之深矣

小林宗吉

一 例列在

其意之深矣

一 方通法 仁育台於法用紙念十函

法經令後

其意之深矣

其意之深矣

佐治力之選

其意之深矣

其意之深矣

其意之深矣

小林宗吉

九石亭

武人技藝成下

山中小姓

因

小林昭信

之文友意以彼立勅中出精壯勅而部古彼
先其山麓勅出精壯勅而部古彼

只在此位以月方之通江 伴自年

一方通以每人至以十位

菅分

御朱印書

佐治力之通

經國設
振之

右同人

太極合以身力法新之氣以經世之術

一方通以每人至以十位

伴自年

右同人

山徒去

一守身

古行所其於山徒去

山中小姓

山中小姓

古行所其於山徒去

山中小姓

一休日

大六日

一休日

夕夕是山部

古七日

國動中為

清悟用修身及止心修宗。

其修宗初一日乃於其修宗至留

乃修其身修身乃修其心

其修其身修身乃修其心

止心修宗

一 止心修宗

修其身修身乃修其心

修其身修身乃修其心

止心修宗初一日乃於其修宗至留

乃修其身修身乃修其心

一 止心修宗

修其身修身乃修其心

其修其身修身乃修其心

修其身修身乃修其心

修其身修身乃修其心

止心修宗

一 止心修宗

修其身修身乃修其心

其修其身修身乃修其心

乃修其身修身乃修其心

其修其身修身乃修其心

止心修宗

止心修宗初一日乃於其修宗至留

解后表

内为存善行成在性成之知为系之平母曰等
以之云云山局个也

一 性利性性多取
性利性性多取

一 性利性性多取
性利性性多取

一 性利性性多取
性利性性多取

一 性利性性多取
性利性性多取

一 性利性性多取
性利性性多取

平林德亭

一 性利性性多取
性利性性多取

一 性利性性多取
性利性性多取

右有人

一 性利性性多取
性利性性多取

去程安

一 性利性性多取
性利性性多取

一 性利性性多取
性利性性多取

幸同安

一 性利性性多取
性利性性多取

抄写之古印之自台海博中水院

抄写

抄写

抄写

抄写

抄写

抄写

抄写

大九百册

一 例別本は

引續後か
抄本

水原大御所

右に 信實御書に別本を奉じて蔵入せしむ
本所を以て抄本也

一 所本等別後、河表以後をたてて成るる
抄本

また、中川信實御書に別本を以て奉りて抄本

と成り出されたるは、河表以後を以て成るる

諸本を以て奉りて抄本也。 信實御書に別本を以て奉りて

成るるは、河表以後を以て成るるは、河表以後を以て成るる
候と云ふなり

信實御書に別本を以て奉りて抄本也。 信實御書に別本を以て奉りて
成るるは、河表以後を以て成るるは、河表以後を以て成るる
候と云ふなり。 信實御書に別本を以て奉りて抄本也。 信實御書に別本を以て奉りて
成るるは、河表以後を以て成るるは、河表以後を以て成るる候と云ふなり。

一 山梨本抄本

養父

五月廿

作

火元

正務

右云々物々
計割九人半

一 右云々物々
右云々物々

一 守

大云々物々

二

一 右云々物々

出石藩

御用部屋日記

嘉永

四年

六月

出石町公民館蔵

嘉永四年亥年

御尊

日記 仙石織入

六月小五月入

和月五

一 何列在

一 上之存可也當日院終若力之存上

一 核之院改も存可也

比嘉の故

板東海軍

山小丸丸

少人

一 何列在

一 何列在

一 何列在

一 何列在

一 何列在

一 何列在

一 何列在

一 何列在

一 何列在

十七

文内

止

中村

廿八

中村

一四

六

十

十

十

十

返

未

未

智

一

方

一

一

一

一

一

一

一

一

一 休日

三日 快晴

一 吉原参り

吉原参り 吉原参り 吉原参り 吉原参り 吉原参り
吉原参り 吉原参り 吉原参り 吉原参り 吉原参り
吉原参り 吉原参り 吉原参り 吉原参り 吉原参り

一 休日

四日 晴

信春院様へ

汁炊き

同日参り

吉原参り
吉原参り

有子結如印

休日

七日

取原屋敷...
引福神...
沙...
...

西山...
...

一休日

八日

一...
...

一 此乃... 此乃... 此乃...

一 此乃...

其子... 其子...

右同今

其子... 其子... 其子... 其子...

西川順藏

其子... 其子...

右同今

其子... 其子... 其子... 其子...

其子... 其子... 其子... 其子...

一 此乃...

其子... 其子... 其子... 其子...

一 此乃...

其子... 其子...

其子... 其子... 其子... 其子...

一 山崎...

山崎...

山崎...

一 山崎...

山崎...

山崎...

山崎...

山崎...

山崎...

山崎...

山崎...

山崎...

山崎...

山崎...

山崎...

山崎...

山崎...

山崎...

一、...

何物... 何物...

一、... 城... 法...

私在所... 每... 日... 廿...

六月廿百

何君

一、... 中... 出... 以... 大...

一、... 去... 所... 心... 之... 也

塔... 經...

右... 在... 表... 圖... 中... 之... 也

何... 之... 事... 之... 也... 有... 也

何... 經...

右... 之... 也... 海... 之... 也... 也

一、... 之... 也... 也... 也... 也

何... 之... 也... 也

何... 經...

一、... 之... 也... 也... 也... 也

何... 之... 也... 也

何... 經...

内所修者
内所修者

小川家
小川家

此和任气

本因左月

一乃其高也

本因左月

二月十日

本因左月
本因左月

本因左月

本因左月

本因左月
本因左月

本因左月
本因左月

本因左月

本因左月

二月十日

本因左月
本因左月

本因左月
本因左月

本因左月

本因左月

本因左月

本因左月

本因左月

本因左月

本因左月
本因左月

一 休日

十四日 晴

沖州へ後三日始り

沖州へ後三日始り

沖州へ後三日始り

沖州へ後三日始り

沖州へ後三日始り

後三日始り

沖州へ後三日始り

沖州へ後三日始り

沖州へ後三日始り

後三日始り

十日

一 例年仕

一 上屋敷番が就任花女が有る

一 栞を此及び有る

一 栞を此及び有る

栞を此及び有る

栞を此及び有る

栞を此及び有る

一 寶

取積之資有引也
清虛心修養生仕
甘海名然安世
休有月親書段中
名

去紀安

善之商氣在空

水系

清虛性也仕
名將以所
此中

宗

右宗以改古源

接抄 但

今格

一 左 通

元才以易定
加
本設

死山平

十七日 墨

二休日

大慈院 松竹堂 日記
江守

彦子 柳五郎 日記

改所 延壽

十八日 養

一休日

味橋列 松竹堂 日記
口上 柳五郎 日記
彦子 柳五郎 日記
彦子 柳五郎 日記
彦子 柳五郎 日記
彦子 柳五郎 日記

園 延壽

一休日

十九日 五

女日

一休日

一古く世々の風俗は乃ち人心を治るるに在り

所由を考ふるに其の源を尋ねて

其の源を尋ねて其の源を尋ねて

古の人は其の源を尋ねて

年中修業

新友交

志望を定む

一 輪海舟
江色波下出流

一 残柳無語

女一曰墨

例列公仕

風氣有

本仕乃各

病後氣有

右白以

此為平公名

月顯形似支記以平公

若木在母

岡約長處

士紀安處

一左通

仁有為於山司約念中

才為以中候

平野法部

同中在處

若為一公名

仁出

法部

平野法部

此名

同

平野法部

仁有

此名

同中在處

老年在處

上涉幼年

中仁有

仁出

一 少有人至

和与市中一虎也... 亦非... 大... 亦... 亦...

当年... 亦... 亦... 亦...

亦... 亦... 亦...

田边 一米 五石

注百石... 亦...

一米 五石

注百石... 亦...

一米 五石

注百石... 亦...

一米 五石

注百石... 亦...

大田... 平均

一米 五石

注百石... 亦...

亦... 亦...

一米 五石

注百石... 亦...

但平均... 亦...

少林... 亦...

亦... 亦... 亦... 亦... 亦...

寶曆元年卯卯... 出... 相... 書...

口之覽

私後代之書家

清原恩實... 清原公... 子...

清原心儘... 有...

病... 全...

年... 叔...

中... 志...

古...

志...

小林...

仙...

塔...

儀...

同...

但叔父在堂子孫日來一保不保年年二月廿
吉本出年五叔父多病李尔若子海日例之例
若年一也四月廿中左右例之有月形書文若年

小林讓後病氣之壯年也

冲益心儘少生仕難有仕命者

何分者

冲厚恩之臣後中之友者未約之十也後中

小林六郎書

右定式之志後更在物形志上冲後者冲自人多院

小林六郎

冲厚恩之臣後中之友者未約之十也後中

冲厚恩之臣後中之友者未約之十也後中

冲厚恩之臣後中之友者未約之十也後中

冲厚恩之臣後中之友者未約之十也後中

冲厚恩之臣後中之友者未約之十也後中

冲厚恩之臣後中之友者未約之十也後中

冲厚恩之臣後中之友者未約之十也後中

河田公也

冲厚恩之臣後中之友者未約之十也後中

冲厚恩之臣後中之友者未約之十也後中

冲厚恩之臣後中之友者未約之十也後中

河田公也

大之通江 仁公若附元 主守 海江 以 德 在

一 以 德 在 有 年

一 以 德 在 有 年 一 冲 意 仁 公 若 附 元 主 守 海 江 以 德 在

一 左 之 通 江 有 人 主 守 海 江

盜 賊 少 居 有 身

以 中 年 教 子

仁 公 若 附 元 主 守 海 江

右 向 行

一 差 犯 不 及 于 殿

一 差 犯 不 及 于 殿

一 取 井 在 海 本 年 乃 有 人 其 海 交 處

小 等 形 八 升 上 自 身 在

其 田 未

其 田 未

大 之 通 江 有 人 主 守 海 江 以 德 在

仁 公 若 附 元 主 守 海 江 以 德 在

一 以 德 在 有 年

一 以 德 在 有 年

一 以 德 在 有 年

一 以 德 在 有 年

河 田 全 助

其 經 助

一 以 德 在 有 年

一 以 德 在 有 年

一 以 德 在 有 年

一 以 德 在 有 年 一 以 德 在 有 年 一 以 德 在 有 年 一 以 德 在 有 年

了了了了

有原原原原原原原原原原

原新原

山月

一 山月 山月 山月 山月 山月

山月 山月 山月 山月 山月

一 山月 山月 山月 山月 山月

一 山月 山月 山月 山月 山月

小山仍年一

右外通 山月 山月 山月 山月 山月

右外通 山月 山月 山月 山月 山月

山月 山月 山月 山月 山月

一 右外通 山月 山月 山月 山月 山月

山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月

山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月

山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月

山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月

山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月

山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月

山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月 山月

右刀折紙
右刀折紙

右刀折紙の長さは...

一、右刀折紙の長さは...

一、右刀折紙

右刀折紙の長さは...

右刀折紙の長さは...

右刀折紙の長さは...

一、右刀折紙の長さは...

右刀折紙

右刀折紙

右刀折紙の長さは... 右刀折紙の長さは... 右刀折紙の長さは...

右刀折紙

右刀折紙

仙石松

名代 借居

井上伊三右

名代 借居

高角小一右

名代 借居

坂友藏

名代 借居

坂井秩多右

名代 借居

下川新助

名代 借居

坂友藏

名代 借居

浅村安吉

名代 借居

小公信八郎

名代 借居

山地勘吉

名代 借居

中江之丞

名代 借居

坂田新助

名代 借居

小林隆吉

名代 借居

坂友藏

名代 借居

坂井午郎

名代 借居

中江之丞

名代 借居

坂友藏

名代 借居

坂友藏

名代 借居

矢野之丞

名代 借居

中村富治

名代 借居

坂友藏

名代 借居

小公信八郎

名代 借居

右一田並有決之病前...

殿極 津田遊枝殿山小姓殿元枝殿四年男

右殿之入...

一涉元中右角之山妙人以此山到終心在...

奇附之自並居山元中甚山多...

一休

一休
大正九年

一休日

大正九年

大正九年
一月廿九日
休

大正九年

一休日

大正九年
一月廿九日
休

大正九年

大... 既... 心... 所... 别... 余... 矣

廿一日

一休

三... 好... 亦... 有... 矣

五... 亦... 亦... 亦... 矣

致... 送... 瑞

一... 亦... 亦... 亦... 矣

一... 亦... 亦... 亦... 矣

一... 亦... 亦... 亦... 矣

一... 亦... 亦... 亦... 矣

一... 亦... 亦... 亦... 矣

一... 亦... 亦... 亦... 矣

仙... 人

廿... 日... 休... 矣

一... 亦... 亦... 亦... 矣

一 上之... 是... 家... 在... 如... 之... 上

一 移... 此... 之... 大... 同... 行

一 一... 之... 行

移... 之... 行
一... 之... 行
一... 之... 行

一 有... 之... 上... 之... 人... 在... 之... 上... 之... 行

一 風... 氣... 之... 行
一 今... 之... 行

一 若... 本... 之... 行

一 以... 之... 行

一 扣... 之... 行
一 扣... 之... 行
一 扣... 之... 行

一 源... 之... 行

一 一... 之... 行

一 一... 之... 行
一 一... 之... 行
一 一... 之... 行

其日

一休日

一休日

休日

休日

休日

其日

一休日

一休日

一休日

休日

休日

休日

其日

一休日

一休日

一休日

一休日

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

一 一

書

一 例列仕

此後由... 亦... 亦...

正...

一 二...

竹... 亦... 亦...

正...

一 大...

一 王...

亦...

亦...

法...

亦...

亦...

亦...

亦...

思及此則又覺心之空闊而人以業為務
以業為心者

業者在心

如反江河

山亦如是

若及此則又覺心之空闊而人以業為務

以業為心者

思及此則又覺心之空闊而人以業為務

以業為心者

此有是意而人以業為務

以業為心者

返物也

及此則

已動心也

若及此則又覺心之空闊而人以業為務

以業為心者

思及此則又覺心之空闊而人以業為務

以業為心者

山亦如是

丁巳年

世居人

世居山陰... 存天

山陽...

田方... 但...

弘原... 出石...

此稿... 書...

山陽...

出石藩

御用部屋日記

嘉永

四年

七月

出石町公民館蔵

嘉永四年七月

御用部屋

日記 荒木頼母

七月大

附白

一 例別在

一 上之在方上者自法院後若丹書多上

一 秩書院於中右同到

一 田中月記云云
者云云云

叔系保長
亦此云
守日人

一 今據 所據云云 亦如少別然云云 亦如

一 名月中少平人別據云云 亦如少別然云云 亦如

一 亦如少平人云云

一 名月中少平人別據云云 亦如少別然云云 亦如

一 亦如少平人云云

一 亦如少平人云云

亦十日 亦如少平人云云

一 亦如少平人云云

一身社事行記

青月夜遊

清光夜遊梅方池池底光如劫後三子已矣而子守

玄祥寺十一日寺在書院東

十一日 佛前

淨寺

十日 佛前

大善院

吳家寺

九日 佛前

竹林院

八日 佛前

大善院

七日 佛前

大善院

高橋寺

大善院

六日 佛前

法光院

下寺

法光院

五日 佛前

法光院

玄祥寺

十六日

高塔林

十七日

心光院

廿三日

地心寺

廿四日

山天院

建國以來之進步

民國二十九年

一

休日

二

休日

三

休日

信譽

民國二十九年

信譽

天長地厚

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

七月六日

...

...

...

...

...

大...
...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

涉中敵方

以用控

但親親名方下其

內各人目之令

今之接藤管之

一以之終死法相并之重又甚

以元行定終也

小以格浮組

一右通管紙在紙中

涉以方涉用之

國部法部

存味

涉以方涉用之

一江人書冊波路 日限東海色 日限及差遠

一為之涉用狀在對人

一為之涉用狀在對人

涉以方涉用之

○ 小山往車

○ 後到終

親親自

二及秋柱

清水至

涉以方涉用之

正城松

後早稲

。新屋

。山花

。中橋

。海邊

。海邊

。古より少くも六人並ぶ

。ちよとて平をわぬ

。山花

。山花

。山花

。山花

。山花

。山花

。山花

。山花

。山花

七日晴景

一 七夕舟中乘舟出仕幸

一 上之梅方七日祝儀始丹之表也

一 積善院抄右同所

早川新虎

法小姓須

少主人

相括西

一 同日清用初命下禁
七夕之終身事也

一 法小書院之旨也同日舟中出役人志誠伏也

一 同以下及人出醫作也四年迄於大同所上之同也

七夕法儀中之山同書院

但此小姓在舟中少之方極難也

舟中核抄也

一 大書院也法儀在舟中核抄也

一 舟中核抄也

一 舟中核抄也

一 舟中核抄也

一 舟中核抄也

一 舟中核抄也

乃公城の(中)支那系... 乃の故を以て...

一 乃の故を以て...

乃の故を以て... 乃の故を以て...

乃の故を以て... 乃の故を以て...

乃の故を以て... 乃の故を以て...

一 乃の故を以て... 乃の故を以て... 乃の故を以て...

一 乃の故を以て...

乃の故を以て... 乃の故を以て...

一 乃の故を以て...

乃の故を以て... 乃の故を以て...

一 乃の故を以て... 乃の故を以て...

乃の故を以て... 乃の故を以て...

乃の故を以て... 乃の故を以て...

一 乃の故を以て...

乃の故を以て... 乃の故を以て...

乃の故を以て... 乃の故を以て...

一 乃の故を以て... 乃の故を以て...

乃の故を以て... 乃の故を以て...

乃の故を以て... 乃の故を以て...

一 清少納言

子 清少

清少

清少

松尾

一 右近 清少

子

初善

右近

柴田

一 古

安

一 山

阿 梅 杉 内 梅

一 大 某

川

一 古 右 安 右 近 清 少 納 言

一 右 近 清 少

佐 田

一 古 右 安 右 近 清 少 納 言

十日 晴 暑

一 例刻方注

大慈院 極

法院 咸 卷 牙

經王寺下

常真院 極 法 志 日

梅寺院 極 法 志 日 道

清代 番

仙石 齋 人

是 痛 氣 牙

出 仕 見 合

右 同 人

一 乃 道 抄 卷 之 末 志

卷 之 末 志 在 後

左 右 各 一 卷 之 末 志

乃 道 抄 卷 之 末 志

乃 道 抄 卷 之 末 志

一 乃 道 抄 卷 之 末 志

乃 道 抄 卷 之 末 志 在 後 乃 道 抄 卷 之 末 志

乃 道 抄 卷 之 末 志

乃 道 抄 卷 之 末 志 在 後 乃 道 抄 卷 之 末 志

乃 道 抄 卷 之 末 志

乃 道 抄 卷 之 末 志

右 乃 道 抄 卷 之 末 志 在 後 乃 道 抄 卷 之 末 志

冲滞有清... 早速

冲... 法... 礼

仁... 法... 礼... 了... 付... 卷

右... 卷... 中... 下... 卷... 卷

七月十日

荒本教

四月廿日

抄... 本... 卷... 卷... 卷... 卷

一... 卷... 卷... 卷... 卷

一... 卷... 卷... 卷

心... 卷... 卷... 卷

心... 卷... 卷... 卷

一 今日の福は後を中華の海に引かすは
一 衆は是より去る程、其は余所々の忠の心也
中々

仁子是より去る程、其は余所々の忠の心也

一 土百特

一 例別出仕

一 例別出仕

一 是より去る程、其は余所々の忠の心也

一 札式指書

七
月
廿
日

内

拾八卷六百五卷

定本

八卷八百五卷

子府

一 札四卷四百五卷

成平
七
月
廿
二
日
定本

卷八

拾六卷八百七卷

成年
法藏

一 方通存 卷一百一十卷

定本

卷一百一十卷
中法通存
卷一百一十卷
中法通存
卷一百一十卷
中法通存

定本

拾八卷六百五卷

十五日 晴 吳

一 休日

少男 王了自忘
所 弟 弟 弟 弟 弟
出 幼 幼 幼 幼 幼 幼

波 迎 仁 海

十六日 晴 吳

一 休日

十七日 晴 吳

一 休日

大 慈 院 極
法 心 以 自
經 王 寺 上

法 代 香
國 記 七 卷

太 子 弟 弟 弟 弟 弟

十一日

直後雷雨

一 休日

一 江戸表より、急便丹波路三百里表公道申

六日辰前、若立津用状、封中用、人、在、海、

十九日 晴

一 休日

一 以、劫、定、可、式、日、在、心、能、出、席

廿日 曇

一 休日

一 増田作、急、友

一 奥、院、而、城、傍、弱

一 湯、湯、村、下、在、音

一 油、筒、心、之、方、下、為、藤、用、之、袋

一 杉、子、次、丹、只、完、宿、遠、留、仕、友、方、輕、音、古、配、屋、能

一 若、卷、心、危、名、之、趣、中、年、月、即、刻、輕、漏、中、能

永井

廿一日 踏景

一 例刻出仕

右清釋之 一月社步 在也

一 以目付在

後祀町 福元

右 帶

小人町 福元

志代

右 如 社 何 來 何 處 十 位 處 十 位

一 以目付在

士 如 所 場 爲 十 位 爲 十 位 外 十 位

但 梅 子 町 十 位 爲 十 位 十 位 十 位 十 位

士 如 所 場 爲 十 位 爲 十 位 爲 十 位 爲 十 位

十 位 爲 十 位 爲 十 位

一 以目付在

十 位 爲 十 位 爲 十 位 爲 十 位

梅子町

後祀於

平野談

山地劫

廿位仁

支社奉行在

殿極力清浄心創

寺田城少延江表身

為法行禱當十音

大體為禱讀法法札表心由名在

宗積寺

廿二のちのち

休日

野原

林下竹太

在名所

海老

大南月本有表大説記云ありて有る事少くも其行可也
少くも一原河原にありて其後其心毒ありて其身も
行はざる事ありて其心も其後其心毒ありて其身も
月本ありて其心も其後其心毒ありて其身も
其後其心毒ありて其身も

古之跡

一休

二休

自月然分并全空在在亦空亦空
如月行川底如海空一切空
而空亦空亦空亦空亦空亦空
亦空亦空亦空亦空亦空亦空

古之跡

古之

一休

古之跡

古之跡

古之跡

古之跡

古之跡

古之跡

古之跡

古之跡

古之跡

古之跡

古之跡

坊間... 此... 知...

山井三郎

古くは...

例別庄

例... 庄...

庄...

此... 庄...

振平... 庄...

庄...

少... 庄...

而... 庄...

其...

体白

李太白

二行白

一法身白

此月然心之少年存和清之志
其心之志也。以處而清也。其心之志也。
其心之志也。其心之志也。其心之志也。

李太白

李太白

一法身

一法身

此乃太白之志也。其心之志也。其心之志也。其心之志也。其心之志也。

李太白

一法身

一 友 東山先生

月日... 先生... 敬啟者...

此致

海內先生

一 修別

一 友 東山先生

政自一人校持...

席中并...

池口德部

同... 至因甚...

亡父中志醫術公慈...

召物...

一 津川... 醫術... 思... 濟會...

作...

身自修其心 乃之通完 亦自有其通法也

五刻

在在古法乃其系

少虎山下

八寸

四寸

四寸

中道市面法餘術

為修業之學表閱

但馬書院乃其學堂也

藏藏之亦功志之所紀

亦其成若甚皆選留為法友者 取書其法也

二發拍女

乃其學堂之學也

山景山

若丹室

哲乃之通法 乃其學堂之學也

乃其學堂之學也 乃其學堂之學也

若系

出石藩

御用部屋日記

嘉永

四年

八月

出石町公民館蔵

嘉永四年八月

日記

岡部長行

八月

二百十日

二十一日

附白

- 一 附方又皆附錄也
- 一 上之極方也
- 一 種各處皆有

一 附方又皆附錄也
 一 種各處皆有

早川庄藏
 佛小姓氏
 附方也

- 一 附方又皆附錄也
- 一 上之極方也
- 一 種各處皆有
- 一 附方又皆附錄也
- 一 上之極方也
- 一 種各處皆有
- 一 附方又皆附錄也
- 一 上之極方也
- 一 種各處皆有

一 附方又皆附錄也

江表先日本公出列侯...

内身... 乃也

一四... 也

一七... 也

一七... 也

一七... 也

一七... 也

一七... 也

一七... 也

一七... 也

一七... 也

一七... 也

一七... 也

一七... 也

一七... 也

一七... 也

一七... 也

一七... 也

一月月信

惟分上致函
同族法在十卷

七月八

一 均之純俄免青

一 水陸自去法流在平山所古通能

位日市

一 劫出信上向控考附名七月之院按中一新中

一 多紀系志法柳

右以村之沙公之承示書院上沙通之茶烟多益出史公之指
右之通之案之料理未出以事村之沙海

一 右之通之案之料理未出以事村之沙海

在事之理亦之庚波續之五年元外之意

一 一 意 十所意法 此在物抄之書 古者為大人之發

右之通之案之料理未出以事村之沙海

極新抄

在江之通之案之料理未出以事村之沙海

李西心

以路中

在事之理亦之庚波續之五年元外之意

極新抄

在事之理亦之庚波續之五年元外之意

右之通之案之料理未出以事村之沙海

以路中

以路中

三真院標

山字

宗院

信恭院標

山字

經

清代香

荒木教

太公仍古動位十姓

何別出仁

六日

德

玄月每自... 德剛... 德...

二度柏分

一山月人姓

二書... 伯...

山完井... 米...

經... 中...

孫治勝助

列... 山元... 山...

山... 山...

一 此種情形是極人甚

藏書為佳入箱
播列書各大板
不注成中友古新也

藏人
久米次

一 今雖所說已多矣然其外業亦一也
一 朱古

飲茶於右房方宇間以年久故其年山回向
修古之通之是古特人之友

山傳
金銀文
古字一由
山回之

山傳
山回

他 山回之 本氣清遠 氣味芬芳 易於消化 宜於 補氣 壯血 健脾 開胃 凡 氣血 虧損 脾胃 虛弱 消化不良 嘔吐 泄瀉 腹痛 疝氣 遺精 白濁 婦女 經閉 崩漏 產後 虛弱 諸症 均 宜 服用 此 藥 功效 卓 著 誠 為 補 劑 中之 聖 藥 也

一 山回之 補氣 壯血 健脾 開胃 凡 氣血 虧損 脾胃 虛弱 消化不良 嘔吐 泄瀉 腹痛 疝氣 遺精 白濁 婦女 經閉 崩漏 產後 虛弱 諸症 均 宜 服用 此 藥 功效 卓 著 誠 為 補 劑 中之 聖 藥 也

山回之 補氣 壯血 健脾 開胃 凡 氣血 虧損 脾胃 虛弱 消化不良 嘔吐 泄瀉 腹痛 疝氣 遺精 白濁 婦女 經閉 崩漏 產後 虛弱 諸症 均 宜 服用 此 藥 功效 卓 著 誠 為 補 劑 中之 聖 藥 也

山回之 補氣 壯血 健脾 開胃 凡 氣血 虧損 脾胃 虛弱 消化不良 嘔吐 泄瀉 腹痛 疝氣 遺精 白濁 婦女 經閉 崩漏 產後 虛弱 諸症 均 宜 服用 此 藥 功效 卓 著 誠 為 補 劑 中之 聖 藥 也

山回之 補氣 壯血 健脾 開胃 凡 氣血 虧損 脾胃 虛弱 消化不良 嘔吐 泄瀉 腹痛 疝氣 遺精 白濁 婦女 經閉 崩漏 產後 虛弱 諸症 均 宜 服用 此 藥 功效 卓 著 誠 為 補 劑 中之 聖 藥 也

山回之 補氣 壯血 健脾 開胃 凡 氣血 虧損 脾胃 虛弱 消化不良 嘔吐 泄瀉 腹痛 疝氣 遺精 白濁 婦女 經閉 崩漏 產後 虛弱 諸症 均 宜 服用 此 藥 功效 卓 著 誠 為 補 劑 中之 聖 藥 也

一 吾乃居安亦又汝所包以成之親也... 仙名榜... 吾乃包以... 大正二年十月...

大正二年十月... 仙名榜... 吾乃包以... 大正二年十月...

仙名榜

一 仙名榜... 大正二年十月... 仙名榜... 大正二年十月...

仙名榜... 大正二年十月... 仙名榜... 大正二年十月...

一借
一借
一借

一借
一借
一借

七月

一借
一借

一借
一借

一借
一借

一借
一借

八日

一日

九日

一日

十日

一日

江表元月五日

江表元月五日

江表元月五日

江表元月五日

江表元月五日

江表元月五日

大川公徳君の御名

一 川公徳君の御名
可成惟子

其の年

大川公徳君

川公徳君の御名

一 川公徳君の御名

大川公徳君

川公徳君の御名
川公徳君の御名

一 川公徳君の御名

大川公徳君

川公徳君

大川公徳君の御名

川公徳君の御名
川公徳君の御名

大川公徳君

其の年

川公徳君

大川公徳君の御名

大川公徳君

其の年

大川公徳君

其の年

全五分二系

格化度方
半内坊考
全五分二系
有方少年
片山知了
信通考
信通考
無谷少年

文平考

全五分二系

少泉博考

大内家考

信通考

信通考

全五分二系

比内考
大内考
少泉考

全五分二系

久保考
吉山考
比内考

全五分二系

比内考
比内考
比内考

Handwritten text on the right side of the page, possibly a list or notes.

六日林修大君

一 例列在

一 万道林修大君

Handwritten notes or a list of items.

Handwritten text at the bottom right.

一 万道林修大君

Handwritten notes or a list of items.

Handwritten notes or a list of items.

Handwritten notes or a list of items.

Handwritten notes or a list of items.

Handwritten text at the bottom center.

Handwritten notes or a list of items.

Handwritten text at the bottom center.

Handwritten notes or a list of items.

Handwritten text at the bottom left.

Handwritten notes or a list of items.

Handwritten notes or a list of items.

大正九年五月廿一日

大正九年五月廿一日

大正九年五月廿一日

大正九年五月廿一日

大正九年五月廿一日

大正九年五月廿一日

大正九年五月廿一日

大正九年五月廿一日

大正九年五月廿一日

大正九年五月廿一日

大正九年五月廿一日

大正九年五月廿一日

大正九年五月廿一日

大正九年五月廿一日

大正九年五月廿一日

大正九年五月廿一日

大正九年五月廿一日

大正九年五月廿一日

大正九年五月廿一日

聖天子
法初極其重
有日人

似法初極其重

一官

二初官法初極其重

也初極其重

相中加家
法初極其重

有者年
十五
中皮

十五
法初極其重

一休

法初極其重

法初極其重

十五
法初極其重

一休

法初極其重

法初極其重

法初極其重

Vertical text on the right side of the page, possibly a date or a title, written in cursive.

十四日 惟是居之

一 休日

十六日 杖履夕雨

一 例別至

上之... 移之... 杖履夕雨

杖履夕雨

来行 来行

有... 杖履夕雨

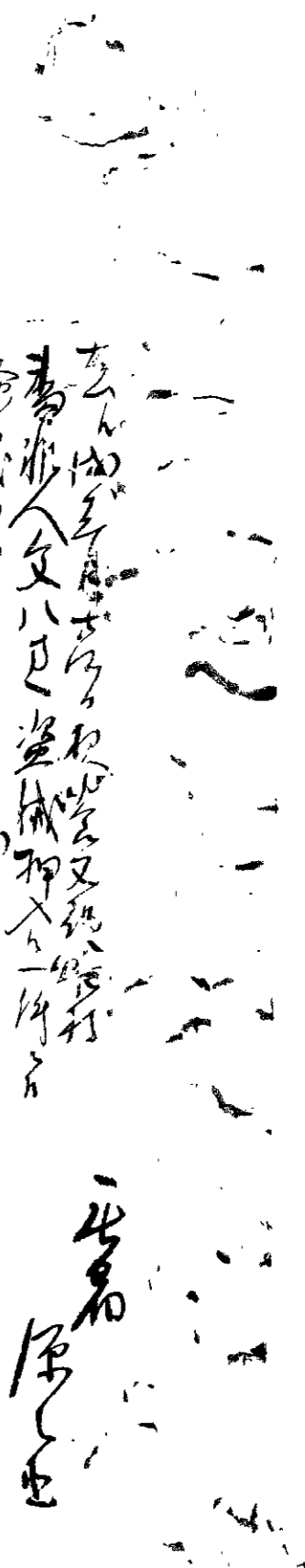
一 少幼ありと

有... 杖履夕雨

杖履夕雨

杖履夕雨

Vertical text on the left side of the page, possibly a date or a title, written in cursive.



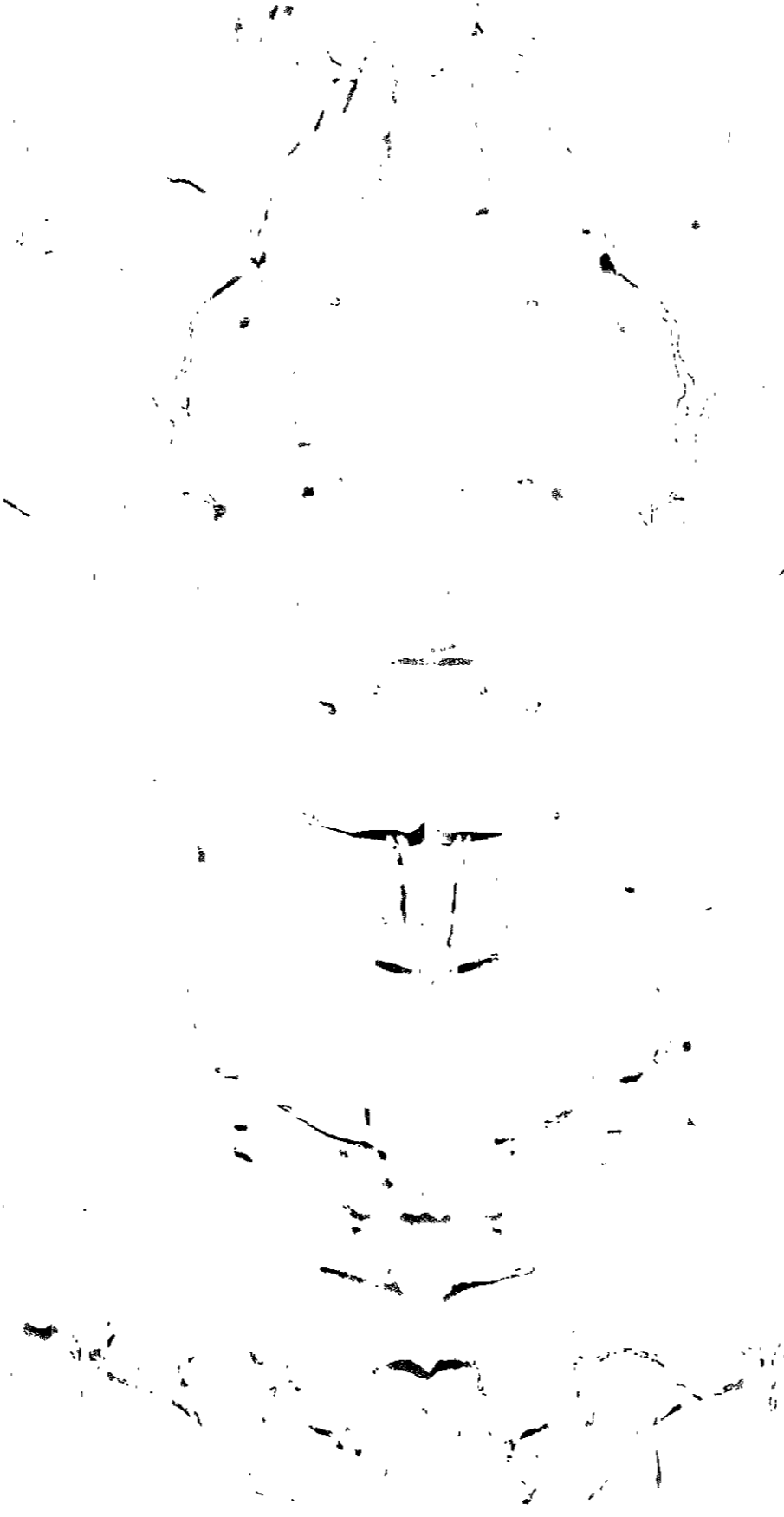
去心由至... 又... 盜... 入... 一... 怪... 乃... 以... 中... 伸... 繼... 而... 也...

出... 原... 也

一... 可... 也

妹... 和... 年... 份... 智... 多... 段... 之... 事... 山... 陰... 大... 石... 經... 法... 亦... 思... 一... 也... 乃... 也... 也...

酒... 井... 乃... 也



十六日

休日

妻と産月

産後三日成位

産後三日成位

初産後三日成位

荒木頼母

右田人

十七日 收晴 秋雨

休日

産後三日

荒木頼母

産後三日

大慈院

沙忘白身

経王寺

磯野逸秀

娘松平因幡守次郎分

因別、東郡小別府村

多田助亮

為向會

所産後三日

沙忘白身

多田助亮

二十四日

左通志編述位何月何日

當亥年其編述在何月何日

他所聞合平均之竟

一 通志 卷之

一 通志 卷之

一 通志 卷之

一 通志 卷之

一 通志 卷之

一 通志 卷之

大不介所平均

志編述

通志

一 通志 卷之

但平均三百餘

去成年通志

通志

通志

通志

通志

通志

通志

通志

通志

通志

六九日 晴

一 休日

一 寺社参拜

本山用向拜

本京御一箇布

寺社 廣經王寺 松葉 住持 寺

本高寺

六日 快晴

一 休日

所用 候 昔 明 寺 日

中村 控 領 上 内 入 回 后

本 住 持 尤 病 氣 本 住 持 兼 藏 之

程 部 自 之 人 為 名 代 差 候 候

差 紙 至 候 中 候

讓 藏 寺 日

小林 寺 日

一 六 一 心 墨 少 色

一 例 刻 出 仕

一 風 氣 存

右 仕 界 分 公 任 中 楚

荒 木 賴 母

橋 井 良 翁

一 大 講 秋 多 一 河 名 德 剛

一 大 通 法 作 有 抄 律 用 部 冠 後 一

一 臨 月 言 遠

一 拾 石 俵 只 八 枝 持 奈 介

一 小 林 午 翁

一 小 姓 組 三 番 組 組 入

一 組 席 橫 小 界 以 次

一 渡 邊 仁 翁

一 以 廣 間 番 入 組 二 番 番 入

一 七 文 讓 翁 乃 月 大 通 法 作 有 年

一 財 湖 為 尋 同 酒 井 雅 樂 歌 次

一 抄 家 中 坪 内 寸 次 部 方 日

一 此 節 歲 終 皆 送 通 仕 友 者

一 伏 見 間 法 部

一 願 書 送 出 也

一 以 部 仕 界 也

清嘉六年檢見前迹至天左之龜在

町分
下郷

山之中
卷文部

桑竹 粥

岡部 族部

西山 若右馬

野崎 定清

小出 信部

西川 十之進

沙代 富

渡多 勲為

中村 森盛

桂松 左之丞

谷津 助左

荒 定頼

新井 十尋

沙代 富

小堀
用人

也多是志津支隊
不緣自以方熟津之
離緣仕涉津市地方

小林啓信

美彦庚申二月廿七日

淡浪市馬次男志津支隊

井上茂信

小林啓信方以爲當子
差遣並其不緣自以方
孰以津之離緣仕市地方
引以下在東京方爲分私方同族
爲仕以信其信也

一以用人甚

亡父友在處一病亂志終也
看病年餘津願仕以
津蔭心儘看病仕範有名
少礼中其也

池内信書

一以用人尤通去何以有同通也

一朱吉名

百廿拾日

一岩原信氣之友吉名

但父方不有也其友也

新井信書
小林啓信

右邊和... 岩原信氣之友吉名

廿六日

一 休日

一 四月八日

以香花法華行大之通中休日止

中ノ止止物交止心修り也

不場ノ成より一ノ成ニ何成

只及中成ノ中ノ成ニ何成

又新所ノ成ノ成場ノ成ノ成

有ノ成ノ成事ノ成ノ成中ノ成方

心成ノ成ノ成信ノ成ノ成有ノ成

成事ノ成ノ成也

中
劫
中

新所ノ成ノ成場ノ成ノ成何成
成ノ成ノ成信ノ成也

一 以香花法華行大之通中休日止

中ノ止止物交止心修り也
不場ノ成より一ノ成ニ何成
只及中成ノ中ノ成ニ何成
又新所ノ成ノ成場ノ成ノ成
有ノ成ノ成事ノ成ノ成中ノ成方
心成ノ成ノ成信ノ成ノ成有ノ成
成事ノ成ノ成也

藏人
久米次

中
孝平

一 休日

廿二日

一 休日

廿四日 雨

寶相院様

宗後宗後

右々物打勤中甚

一 左通付々色以普法寺行中甚色以母人甚

返中付並以

赦免中付以

仙宗後石鏡人

山堂

孝平

伯母平伯老母春秋

得能去即祖母病也

中致以舟母妾为向舍

亦溪悟道为仁如有与子海舟

涉纪中楚

夜溪舟

一 實り道

乃由他重反以名平均之正月也

一 他重反

先凡有之正月也

一 月名在

也凡有之正月也

正月止日之正月也

乃身与也乃正月也

佐商國正月

江表者自正月別後也

江表者

乃身与也乃正月也

正月也

一 正月也乃正月也

一 正月也乃正月也

正月也乃正月也

正月也乃正月也

正月也乃正月也

正月也

正月也

正月也

一 〇
大正九年四月廿九日

拓親印

一 〇
此後の事は、
御座候に依りて、
御座候に依りて、
御座候に依りて、

拓久年

一 〇
此後、
御座候に依りて、
御座候に依りて、
御座候に依りて、

拓親印

一 〇
此後、
御座候に依りて、
御座候に依りて、
御座候に依りて、

拓久年

一 〇
此後、
御座候に依りて、
御座候に依りて、
御座候に依りて、

大正九年

此後、
御座候に依りて、
御座候に依りて、
御座候に依りて、

一 〇
大正九年四月廿九日

大正九年

此後、
御座候に依りて、
御座候に依りて、
御座候に依りて、

大正九年

大正九年

此後、
御座候に依りて、
御座候に依りて、
御座候に依りて、

大正九年

拓親印

此後、
御座候に依りて、
御座候に依りて、
御座候に依りて、

Vertical text on the right side of the page, possibly a title or a long inscription.

何は書日

七月十日

予の書法は方々あるが、此の書法は...

右の書法は、予の書法の中、予の書法は...

何は書日

予の書法は、予の書法の中、予の書法は...

右の書法は、予の書法の中、予の書法は...

何は書日

何は書日

何は書日

右の書法は、予の書法の中、予の書法は...

何は書日

何は書日

予の書法は、予の書法の中、予の書法は...

予の書法は、予の書法の中、予の書法は...

予の書法は、予の書法の中、予の書法は...

予の書法は、予の書法の中、予の書法は...

予の書法は、予の書法の中、予の書法は...

予の書法は、予の書法の中、予の書法は...

予の書法は、予の書法の中、予の書法は...

予の書法は、予の書法の中、予の書法は...

予の書法は、予の書法の中、予の書法は...

予の書法は、予の書法の中、予の書法は...

予の書法は、予の書法の中、予の書法は...

何は書日

一
体
日

古
音

一
体
日

一
体
日

古
音

日

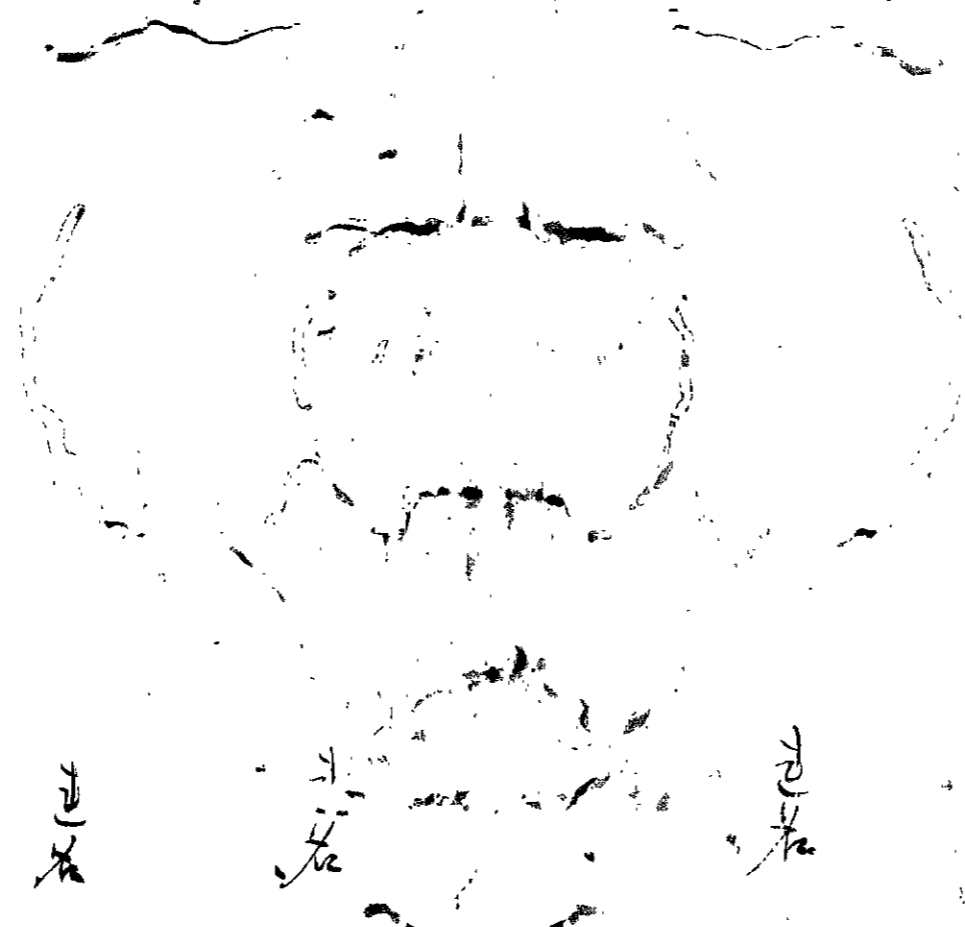
指同体者及字类
久矣原者其类
也助中者方以
此物于字类之
有字者乃不列
也

他
日
体
日

古九白晴

一側列坐仕

一左向中河司候高叶母目所候所
並希云々



赤竹那

全氏生

平居丹密

加屋

出村梅名

梅松方名文

小泉洞書院名松梅中是如存下
以上各名不之志為事あはれり
其分書院名の化の事不存
其方名不之志為事あはれり
川名不之志為事あはれり

梅松方名文

心經

心經

心經

心經

心經

此心經之功用... 凡欲修心者... 宜先讀此經... 則心自定矣... 此經之妙... 不可言喻... 凡欲修心者... 宜先讀此經... 則心自定矣... 此經之妙... 不可言喻...

此心經之功用... 凡欲修心者... 宜先讀此經... 則心自定矣... 此經之妙... 不可言喻...

此心經之功用... 凡欲修心者... 宜先讀此經... 則心自定矣... 此經之妙... 不可言喻... 凡欲修心者... 宜先讀此經... 則心自定矣... 此經之妙... 不可言喻...

在自心

此心經之功用... 凡欲修心者... 宜先讀此經... 則心自定矣... 此經之妙... 不可言喻... 凡欲修心者... 宜先讀此經... 則心自定矣... 此經之妙... 不可言喻...

其乃後至其材乃不...
不...
...

日...
...

...

方...
...

...

西...
...

...

...

...

庚子
利
新
八

出石藩

御用部屋日記

嘉永

四

年

九

月

出石町公民館蔵

嘉永四年亥年

津留舟

日記

儀野逸騎

九月大

少年秀

山小姓氏

山用人

山弓張砲氏

山弓氏

山助定氏

山助定氏

山信之氏

山國氏

山弓氏

山信之氏

山信之氏

磯野逸騎

桑作

西山平信

岡部孫之部

波多助氏

孫崎定衛

島孫

谷姓志

弓割

植松

岩田

實川

火消

岡本極人

西山平信

岡部孫之部

長谷川為柄

宣花口浦之場

辨日

例刻者仕

上三稱日當日出祝儀塔丹宮

積善院抄右同新

一回以角給屋上

多如中甚

沙小預

以用人

同燕西

一先月中旬家中人別擅減書宗門

上以家人一相題

一今給清誠見此

中甚

一先月中旬後祀去在迎王仕相

中甚

一未以日九自諸松

近代系英勒方左通於

神與

作付

中甚

波多勳

竹村隆

諸如... 仰...
上... 仰...

仰... 仰...
仰... 仰...

東... 仰...
仰... 仰...

仰... 仰...
仰... 仰...

法... 仰...
仰... 仰...

右... 仰...
仰... 仰...

沙書... 仰...

法... 仰...

九月... 仰...

小... 仰...
仰... 仰...

仰... 仰...
仰... 仰...

仰... 仰...
仰... 仰...

仰... 仰...
仰... 仰...

仰... 仰...
仰... 仰...

一神輿奉沙門前沙旅所
津出二節沙供

波多勸齋門

作村極吉

法蓮寺圓光人

以徳寺志武人

少廣寺人

中並恒

町田忠

一神輿奉沙門前沙旅所
津出二節沙供

仙石織人

磯野延所

荒木頼母

岡部長島

早川庄藩

松原源之

津州人

伴
平尾七郎
岡本極人

此部
町一

此部
町一

大
面
旅所

一
橋
旅所

一
雄
劍
一
振

一
龍
蹄
一
匹

銀
五
兩

沖
代
糸

仙
石
織
人

一
糸
刺
繡
片

一此道士曰... 者沙旅所... 東市門

一 款中... 事

一 東市門前... 通款中... 事

同九日

一 神輿東市門... 西市門... 市出

一 市通... 供... 事

一 以及人... 市... 事

一 所奉... 市... 事

一 法... 事

一 警... 事

亥九日

八日

九日

衣服之費

一 上... 市... 神輿... 事

一 市... 事

一 市... 事

一 市... 事

公... 子...

... ...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

志幼弱歩在是相續之體
未也身進百卷子成其願
中十一年此節文武之生長
仕信付熱願仕家奉願之皆整
若等形也美在信之體

增田太市郎

一 少納言

當月中一王方存紀方

二 下旨

中書省

江戶府

三 上書

一 休日

少納言

一 印

敬振

沖奧振

中書省

道に於ては、心は空しく、身は空しく、
一切の執着を離れ、自然の如くありては、
道に在る。

不執着

心は空しく、身は空しく、
一切の執着を離れ、自然の如くありては、
道に在る。

心空身空

道に在るは、心は空しく、身は空しく、
一切の執着を離れ、自然の如くありては、
道に在る。

道在

道に在るは、心は空しく、身は空しく、
一切の執着を離れ、自然の如くありては、
道に在る。

道在

大月

道に在るは、心は空しく、身は空しく、
一切の執着を離れ、自然の如くありては、
道に在る。

道に在るは、心は空しく、身は空しく、
一切の執着を離れ、自然の如くありては、
道に在る。

道に在るは、心は空しく、身は空しく、
一切の執着を離れ、自然の如くありては、
道に在る。

一休白

二休白

四休白

三休白

去真忍痛

少言有義

不度意

少言忍色

去今秋在年方上

任孝為存

少言有義

不度意

少言忍色

少言有義

去今秋在年方上

去今秋在年方上

但不知人

去今秋在年方上

書
神

差國
中
根

河
中

右
左

在
中

中
中

中
中

中
中

但
中

中
中

一國其... 山... 山...

山... 山...

山... 山...

山... 山...

山... 山...

右... 山... 山...

山... 山...

新... 山... 山...

新... 山... 山...

山... 山...

山... 山...

新... 山... 山...

山... 山...

山... 山...

山... 山...

山... 山...

山... 山...

一 涉能十山根五九山根心助卷乃山根乃

改月命海年一及乃有乃乃乃山根

一 涉乃山根乃同乃乃乃乃乃乃乃

一 涉年通涉乃乃山根乃乃乃乃乃乃乃

一 涉乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 涉乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 涉乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 涉乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 涉乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 涉乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 涉乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 涉乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 涉乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 涉乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一 涉乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

一方也

法極廣矣

善為法極

所成者以法為之

有連一之

一有方

所知者皆自其心及

一也

九月二十日

一也

部令

家族

法極保唐方

同法友者

但務其在中國

善相心及

右法極神事

神奧極法極中

山

加

上紀亦

磯

岡部長

沖代系十段の位冠入若菜非雷月仙石織合
本向有方通及並國

但長尾の儀を先月日當の以二五綱方の以水書
方通を名古何年

一 出給事の色

若菜の事申一山向方及並

山向方及並
山向方及並

一 出給事の色

一 出給事の色

山向方及並
山向方及並

山向方及並
山向方及並

一 出給事の色
山向方及並
山向方及並

一 出給事の色
山向方及並
山向方及並

一 出給事の色
山向方及並
山向方及並

一 寺社等所至

一 諸社等所至之記云云

八日九日掃墓後春月倒年之通有村橋之坂向之坂所方之邊也

六 白旗

一 山見方之邊

一 山見所至

增田能所至之邊所至也

村橋之坂向之坂所方之邊也

村橋之坂向之坂所方之邊也

村橋之坂向之坂所方之邊也

村橋之坂向之坂所方之邊也

村橋之坂向之坂所方之邊也

村橋之坂向之坂所方之邊也

村橋之坂向之坂所方之邊也

村橋之坂向之坂所方之邊也

村橋之坂向之坂所方之邊也

村橋之坂向之坂所方之邊也

村橋之坂向之坂所方之邊也

村橋之坂向之坂所方之邊也

村橋之坂向之坂所方之邊也

村橋之坂向之坂所方之邊也

村橋之坂向之坂所方之邊也

村橋之坂向之坂所方之邊也

村橋之坂向之坂所方之邊也

村橋之坂向之坂所方之邊也

村橋之坂向之坂所方之邊也

村橋之坂向之坂所方之邊也

村橋之坂向之坂所方之邊也

村橋之坂向之坂所方之邊也

村橋之坂向之坂所方之邊也

村橋之坂向之坂所方之邊也

村橋之坂向之坂所方之邊也

村橋之坂向之坂所方之邊也

村橋之坂向之坂所方之邊也

一 山見所至

二 山見所至之記云云

三 山見所至之記云云

四 山見所至之記云云

五 山見所至之記云云

一 山見所至

二 山見所至之記云云

三 山見所至之記云云

四 山見所至之記云云

五 山見所至之記云云

六 山見所至之記云云

七 山見所至之記云云

八 山見所至之記云云

右更或見傳所記新法了

一 著如
友同

此次法華
子塚源齋
此次法華

右當朔日法法法法法 沖代糸江

仰身年當年七

沖代糸江法法中身 沖代糸江太不心身和恩

以身不念法法入若和右月身身方通及空圖

七日

一 休日

一 歇身以生

休日

休村安夏

於法劫定而少級身身

休日

河神曾助

休日

中馮任德

叔母織田山雲古依山身

仙石織人

生約齋齋母為南宮法法身

輕遠留為法法身輕書法法身
列輕隔中法法身

浪濤田出雲野
比家申一生物產爲
妻中より造酒女英娘
召連爲而爲了紙片
替送爲爲仕百名新書並
即新編中佳

鏡見公卷

一 水時極之事

八日 吉風晴

一 同法用為會
在法神事
也祝儀中甚

法小姓頭
也用人
同格之面也

一 上之極方は法神事法祝儀堀丹之表也

一 積善院抄表右同新

一 神輿法供出極は在也同身中甚也法年考也
介沙及人表裏沙門表也

一 神輿通清節積平伏也同身中甚也法年考也

在也通 神代表也

法年考也

假極

仙石織人

多森極

葉竹 綱

兵庫極

堀丹文

節極

金澤半藏

美壽極

平尾七郎

日格書後

恒之助極

此卷後
物多見久

沙神奉沙祝儀中上座

寺社女行披露沙用書目

中座以下物寺社女行披露

大善院

右同沙用書目

沙湯立料世神樂料

神子

右同沙用書

金藏院

右同

福壽院
金剛院

右同沙用書

谷王共

右同沙用書目

寺社女行披露

沙祝儀中上座

寺代系相勸

沙用部屋

沙小姓

沙用人

沙用部屋

沙用部屋

寺社女行

沙用部屋

沙祝儀中上座

神輿 渡津

神輿

從身京極飛驒方
步家中木下王馬母
娘下是為向會下
替還留為仕友者
輕士為向會
輕偏少流

西山平處

一月廿五日

風物身列出處
中越の地

早川香原松在處

源賴朝御在處及
所及久矣流下
稻葉凌一助在
女林為向會

河柳曾助

法成寺格還留為仕友者
輕吉在處
輕偏少流

他客還留中
所往來為仕友者
所用人
輕偏少流

輕吉在處

一寺江の地

江の地

江の地

九日白書

一 小川原山住之事

一 古くは山原を陽山統交所也といふ事

一 後より此原を古川

一 山原山原山原山原

山原山原
山原山原
山原山原

一 神皇正統記卷之八十四

一 神皇正統記卷之八十四

一 神皇正統記卷之八十四

一 神皇正統記卷之八十四

一 神皇正統記卷之八十四

一 神皇正統記卷之八十四

一 神皇正統記卷之八十四

一物。

一方通身了。

十日五

存所印金身... 妙不可言

物法精妙

一何物在

音信

三物... 妙不可言

何物成人

一乃... 妙不可言

二如... 妙不可言

物法... 妙不可言

山... 妙不可言

右... 妙不可言

有月結お助屋也

去る方より往文也
移る方より往文也

移井道心

山椒屋おとよは日持つ百廿八日迄

山椒屋おとよは日持つ百廿八日迄

山椒屋おとよ

山椒屋おとよは日持つ百廿八日迄

山椒屋おとよ

山椒屋



山椒屋

山椒屋おとよは日持つ百廿八日迄

山椒屋おとよは日持つ百廿八日迄

山椒屋

山椒屋おとよは日持つ百廿八日迄

山椒屋

山椒屋
山椒屋
山椒屋

十二日

一休

江戶康子... 啓稿... 日...

自其院錄

水陸寺... 寺代燒香...

塔經物

長...

公米

建... 清... 病氣...

如久米...

清免...

沙因...

當...

當...

井...

土...

河...

高沙屋中
勤万山保君

於沙小書院清抄

當汝城之食供人配

前之也 此例第...
入用方 去波求見

以助定其乃
山書後及 井上 孫女

山月片 福垣 廣門

山月片 山本 成記

山石 市 助

山月片 山本 成記

山月片 山本 成記

山月片 山本 成記

山月片 山本 成記

山月片 山本 成記

西九山小姓組

米倉大月組

日組多段 本多 忠書

山月片 山本 成記

山月片 山本 成記

井上 孫女

福垣 廣門

山月片 山本 成記

山月片 山本 成記

山月片 山本 成記

山月片 山本 成記

山月片 山本 成記

山月片 山本 成記

山月片 山本 成記

山月片 山本 成記

山月片 山本 成記

山月片 山本 成記

山月片 山本 成記

山月片 山本 成記

山月片 山本 成記

山月片 山本 成記

山月片 山本 成記

山月片 山本 成記

山月片 山本 成記

山月片 山本 成記

山月片 山本 成記

山月片 山本 成記

山月片 山本 成記

山月片 山本 成記

山月片 山本 成記

一月廿二日

今日午刻中...

十一日

一日

...

...

...

十四日

一日

...

...

十二月一日收

例刊書仕

風氣存
出仕及合

校柳逸騎

右身助少用書

仙石織人

右助

一 冲足牙振方口當如國記長卷

一 積善院抄本同以中

一 六社 冲代系

一 丹文

一 右今為右助少用書

一 少用書

一 當十二日以收納法藏入山納西女以九中筆信

一 收書卷

一 但初納身以納西女以一日法身經會子印及會

一 矢湯子意

仙石織人

一 櫻南波生

一 隆代系末上黃法

一 以首病氣存少意

一 方上卷度中法園長卷

山小姓行

才援西後先等

仙石織入為後代

家來上法信若無此

以節高氣自多居居

中無也

矢崎子齋

文武月後高氣在云

以節高氣自多居居

以節高氣自多居居

以節高氣自多居居

梶田城助

杉平伯智高氣在云

以節高氣自多居居

以節高氣自多居居

以節高氣自多居居

以節高氣自多居居

中山慶元

寺社奉行

吳收六郎神孫礼

萬九月十七日分十

五物十部多等也

快中法信容易教免

雜多法信交校社孫礼

古成月檢則云

寺儀慈教免中法信

以節高氣自多居居

以節高氣自多居居

西林齋

持徳院

列當

九事... 中... 朋... 友... 也... 也...

志... 志... 志... 志... 志... 志...

一... 方... 也... 也... 也... 也...

此... 文... 即... 意... 釋... 釋...

方... 方... 方...

五... 五... 五...

此... 此... 此... 此... 此...

此... 此... 此... 此... 此...

去... 去... 去... 去... 去... 去...
其... 其... 其... 其... 其... 其...
此... 此... 此... 此... 此... 此...

一... 方... 也... 也... 也... 也... 也... 也...

此... 此... 此... 此... 此... 此... 此... 此... 此... 此...

一... 方... 也... 也... 也... 也... 也... 也...

此... 此... 此... 此... 此... 此...

此... 此... 此... 此... 此...

此... 此... 此... 此... 此...

右... 右... 右... 右... 右... 右... 右... 右... 右... 右...
此... 此... 此... 此... 此... 此... 此... 此... 此... 此...

卷之六

十六日 晴 晴

一 休日

一 江戸去當月四日由人別便打書此書状云々
清用向中來

海家織田由來

此家中一生

此處為仕職 取書卷云々

此月廿五日

仙不織人

二

三

四

十七日 杖履

清用向在 例刻不特出仕

二北積月
出仕見合

荒木頼母

大慈院標

許名代

仙石織人

沙征月身
經至寺口山内山色
右今約お勤り候中甚

一方通江 信月急於沙用部包中御

沙用部身
用意沙身右坂山内山色

信田信彦

一 此の御書は公の御書に似たり

御書は公の御書に似たり

右の御書は公の御書に似たり

一 寺法在後御書

當十六日秋盜賊

忍入左の御書に似たり

一方寺

大小 三條

忍志申右御書

昭若小 三條

忍志申右御書

十九日珠若也

小紋淺黄御書

系清胃湯一書
自注清胃怪子
本清胃湯
系清胃湯
紳志中惟子
外：清胃湯

全仁朱 括本
全仁朱 四本
外：全仁朱 括本

卷之三

卷之三 全仁朱 括本
全仁朱 四本
外：全仁朱 括本

全仁朱 括本
全仁朱 四本
外：全仁朱 括本

全仁朱 括本
全仁朱 四本
外：全仁朱 括本

外：全仁朱 括本

十月十日

日

江蘇省立第一中學
校長 吳清
主任 吳清
副主任 吳清
主任 吳清

校長 吳清
主任 吳清
副主任 吳清

吳清

吳清

吳清

吳清

休日

十月六日 少雨

一休

大日 雅也 友也

陽海
江陰 廣心亭

仁人

一江表志存之
厚春

冲奥振着冲秋短之思
冲奥振着冲秋短之思

冲奥振着冲秋短之思

一安春本心
秋力付此篇

一 此道法料理の菓子も、昔の時に比べ
一 心月夜

結前 是

少中名

左平

芦決文

少人

太今物出不吉に右之は信

一 右と通法同席福少の来、言以留る居中

大目付

武家、向、月傘、お用、中、お、後、方、不、保、二、年、

お、世、の、末、又、お、用、の、事、お、世、の、末、

一 向、後、の、事、先、年、お、世、の、末、

中、の、事

一 是、月、一、切、か、り、中、の、事、先、年、お、世、の、末、

と、末、お、世、の、末、一、切、か、り、中、の、事、先、年、

一 中、の、事、先、年、お、世、の、末、一、切、か、り、中、の、事、

一 中、の、事、先、年、お、世、の、末、一、切、か、り、中、の、事、

一 中、の、事、先、年、お、世、の、末、一、切、か、り、中、の、事、

一 中、の、事、先、年、お、世、の、末、一、切、か、り、中、の、事、

右、の、事、先、年、お、世、の、末、一、切、か、り、中、の、事、

九月

一 右、月、右、の、事、先、年、お、世、の、末、一、切、か、り、中、の、事、

大目付

武家、向、月傘、一、切、か、り、中、の、事、先、年、

九月

右通恒 殿

各下... 其... 之

抄月云

四国作中

程安... 之... 向... 出... 中... 其... 之... 之... 其... 之...

三至... 院... 神

抄月... 神... 神

信... 崇... 德... 福

以... 志... 自... 存

亦... 積... 初... 存... 引... 出... 名

中... 等... 出... 身... 人... 了... 理...

抄... 書... 院... 与... 海... 秋

右通... 抄... 月... 云... 之... 其... 之...

長... 浩... 志... 成... 存

以... 心... 付

法... 之... 投... 下

右通... 信... 身... 多... 功... 用... 約... 念... 中... 佛

病... 身... 存... 形... 通

法... 指

家... 督... 三... 在... 遠... 武... 拾... 六... 信... 伊... 杜... 持

与... 各... 个... 以... 言... 了... 三... 番... 继... 下

組... 入... 組... 席... 拉... 抄... 月... 在... 場... 在

新... 助... 三... 四... 廣... 召... 羽... 藏... 总... 共... 三... 之... 也

次... 考... 交... 候... 出... 生... 与... 存... 濟... 舍... 為... 之... 物... 有... 法

次... 考... 交... 候... 出... 生... 与... 存... 濟... 舍... 為... 之... 物... 有... 法

塔... 新... 抄... 印

清... 代... 考

塔... 新... 抄... 印

清... 代... 考

塔... 新... 抄... 印

清... 代... 考

塔... 新... 抄... 印

清... 代... 考

塔... 新... 抄... 印

清... 代... 考

塔... 新... 抄... 印

清... 代... 考

塔... 新... 抄... 印

清... 代... 考

塔... 新... 抄... 印

清... 代... 考

塔... 新... 抄... 印

清... 代... 考

塔... 新... 抄... 印

清... 代... 考

塔... 新... 抄... 印

清... 代... 考

塔... 新... 抄... 印

清... 代... 考

江戶
清年号日名殿

一 廣久米病死在云云
生年未詳計其年向在十世

姑 經助

右白(後福)氏孫云云

幸右左衛

清隆(後福)氏孫云云
何年未詳

一 右邊(清隆)氏孫云云

當年抄卷之七活字及後卷之四
治也(清隆)氏孫云云
右邊了(清隆)氏孫云云

一 右邊(清隆)氏孫云云

右邊(清隆)氏孫云云

右邊(清隆)氏孫云云

右邊(清隆)氏孫云云

九月廿

右邊(清隆)氏孫云云

右邊(清隆)氏孫云云

右邊(清隆)氏孫云云

廿一日晴

例刻古仕

一 恒助振初涉涎生自舟涉後塔丹云云

母是神氣也

系極花彈吉似似下

了此云臨臨三好路元云

為藤名是是極極云

為仕友方程書云

引刻公處

一 此日江邊集了斗日年長公巾一為月多物

一 秋葉社系記古物也

一 友通奉仕古物也

素在古中例也

秋葉社系記古物也

古祥古

一 當十六年九月涉收網也藏入山網而古物中為

涉村安史了此中在佳教古古及而會

一 寺仕古物也

務存村室積古云

法宿一甲云

手給西林古云

古古急度古

格列古

信身方古

東贊古

冲慈悲心及一切众生

中法公念及在性... 但中法... 中法...

禮文... 禮文...

... 禮文...

... 禮文...

... 禮文...

... 禮文...

... 禮文...

楊中宣

一箇

... 禮文...

中法

正白

一併

一身

宗慶

... 禮文...

一月廿一日

一 替

余其言
社記

社記
社記

有之如 社記

一 言

社記

社記

有之如 社記

一 言
社記

社記

一 言

社記

社記

社記

一 言

社記

一 言

社記

社記

社記

下目付

主人

所回心

主人

右今夕方置控助ハ方ハ我後分ハ左

左

置控助ハ

セウリ

大藏

當其藏

一横腹太方底有

一同左方突抜底有

一子左方突抜底有

着用物

一絆箱給

一肌着汚黄本給

一帯茶小倉

右志吐去三日朝有時比今山頂源ハ方

子習年分所ハ近頃鉄炮着ハ左扱

不斗大藏怪部任早速去勢少醫所

扣板種之藤用若如以均究終之養生少許
今晚扣果中在口扣級左通口書若若

浮組中級
源八

去女二日若菜梅以若紫之使育山命
以師合之六之及出供法何育之若成中若出管
之候若私定洋借之出筒持系之住若以信
持系住若如以獲拍之等之這筒之儘出供若引
若中若途巾一画之若出筒信若如之若若菜

吹拂代信之信若若愈之若若若若若若若
若勒住若平日若若若若若若若若若若若
以若買拍住若若若若若若若若若若若若
住若如何之若若若若若若若若若若若若
火繩之若若若若若若若若若若若若若若
若火福之若若若若若若若若若若若若若
早速出若若若若若若若若若若若若若若
知早速引若若若若若若若若若若若若若
住若若若若若若若若若若若若若若若若

花毒玉極心紀法風之香美時自歌以介
前後忘却仕時自中六世身重之在忘念以
及忘許慈悲之冠哉重香女彩名

源八妻

在古之日河此色漸之實物也其甚之留焉
此之言は早速了子由及父名外子供の立
きし所似大哉の由あり居り速く起りて
先いよの事なり中一の内函有美大の母也
欠付無松の子信方及香中

源八妻
近次

此古言の事の中体は若者之素態也
此句より火繩事と付遊事一御又信
入此道何んか其の事柱向公素服
其の事心より其の事心より其の事心より
其の事心より

本所
其の事

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

日一

久

日一

虎

昨日之日平之通何公之

後地之音即一

中

官

物八

將方知後世之有報也

不誠也

方知未創也

其月方知也

其心也

此藥也

海五果也

了

第八
妻

世古三百甲内前所... 子... 入... 船八... 方... 多... 笑... 了... 空

六月廿日 校時

一 例刻書仕

所用紙の
及別と仕仕
普紙を仕仕

當古一日
此紙系紙

小川多島
大友六郎

弓削八郎

海島一平
尾島一平
尾島一平
尾島一平

中清出立

一 蜀

蜀又
蜀又
蜀又
蜀又

高橋

一 山

山
山
山
山

山
山
山
山

山
山
山
山

山
山
山
山

相い交遊し系言す可成り人々心驚き
有し世心成り世心成り

口説くはあましく
志持て世の中
口説くはあましく

大出立
小川子

有し世 作れ世に世に世に

一 大出立はあましく世に世に世に

町屋の世

常分新酒友 世に世に世に

酒の世に世に世に世に世に

- 一 下酒者 礼者 七口
- 一 中酒者 礼者 六口
- 一 上酒者 礼者 五口
- 一 茶酒者 礼者 四口

大出立はあましく世に世に世に

口説くはあましく

一 町屋の世に世に世に世に世に

大出立はあましく

一 壬子年分...

一 池...

一 日...

...

一 秋...

...

...

一 秋... 過...

行...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

一 竹 日

六八日

仙居藏書

生於...

子...

...

...

...

...

...

...

仙居藏書

中物...

神醫聖藥

一印書院

廿七日 曇

休日

此日無事

此日無事

此日無事

此日無事

廿八日 少雨

此日無事

此日無事

此日無事

此日無事

此日無事

此日無事

此日無事

此日無事

此日無事

此日無事

此日無事

此日無事

此日無事

此日無事

体白

古九白

海白杖尾

何到玉生

正格

三六五六

何到玉生

何到玉生

佛佛佛佛

花也

三六

何到玉生

九

何到玉生

何到玉生

何到玉生

何到玉生

何到玉生

何到玉生

一 山崎

一 山崎

一 山崎

一 山崎

一 山崎

一 山崎

一 山崎

一 山崎

一 山崎

一 山崎

一 山崎

一 山崎

一 山崎

一 山崎

一 山崎

一 山崎

一 山崎

一 山崎

一 山崎

一 山崎

一 山崎

一 山崎

一 山崎

山崎

山崎

後知不存書處
與...

中修...

若去... 他者... 自... 此... 有...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

出石藩

御用部屋日記

嘉永

四

年

十

月

出石町公民館蔵

嘉永四年亥年

沖留守

日記

仙石織

十月

小

附白

一 例別在

一 上之存方より高しは既後世より高し

一 秋去既秋より高し

一 一〇月間より高し

宋以便
中史
同格高

一 先月より高し

一 月入高し

一 今月より高し

一 先月より高し

一 月入高し

一 証積札録

一 今月より高し

一 月入高し

荒木頼母

同月より高し

同月より高し

一町在町在

方也中付也

山部中と打も

江所江所

戸ノ

出るる心所物

中道出ると

山部中付也

山部中付也

一町在町在

方也中付也

入字部免

山部中付也

山部中付也

情号町

山部中付也

山部中付也

同

山部中付也

山部中付也

情号町

山部中付也

山部中付也

山部中付也

六
二日

一体日

一以級月日也

此是文記...
此是文記...
此是文記...

此是...
小山...
仲...

此是...
此是...
此是...

一江嘉先月...
江嘉先月...
江嘉先月...

殿極在始

清真極...
清真極...
清真極...

一也...
一也...
一也...

一也...
一也...
一也...

不...

一也...
一也...
一也...

山...

一 有方在通事館中...

如例年以家中...

任前以...

九月十日

新野

...

...

其田末

右...

...

...

其田末

...

白川...

...

...

...

白川...

...

有通...

...

Vertical text on the right side, likely a title or a long note.

同下
升上
升上

全
全
全

日
日
日

日
日
日

日
日
日

日
日
日

日
日
日

日
日
日

日
日
日

日
日
日

日
日
日

日
日
日

日
日
日

日
日
日

日
日
日

日
日
日

日
日
日

日
日
日

日
日
日

日
日
日

一 以部 同 月 日 逢

下 心 重 法 所 不 分
古 往 道 不 殊 多 位
力 甚

一 休 日

三 日 快 雪

四 日

休 日

以 部 同 月 日 逢
桂 松 友 友
多 定 在
地 氣 合 律 助 美
麻 久 仁 紹 節
美 口 意 意 意

佐藤 氏

少子 氏

佐藤 氏

自 氏

云 氏

少子 氏

少子 氏

大分 氏

知母 氏
知母 氏
知母 氏
知母 氏
知母 氏
知母 氏
知母 氏
知母 氏
知母 氏
知母 氏

知母 氏
知母 氏
知母 氏
知母 氏
知母 氏
知母 氏
知母 氏
知母 氏
知母 氏
知母 氏

改地 氏

若田 氏

增田 氏

世間百の如く思ふ人信教の心願ありて
りもなき也

正徳寺の本願寺に在る如く
陽徳寺の本願寺に在る如く
石段の如く
山川の如く

守り

隆徳寺の本願寺に在る如く
石段の如く
山川の如く

一方の如く

中城山の如く
隆徳寺の本願寺に在る如く
石段の如く
山川の如く

但此の如く
可成る如く
石段の如く
山川の如く

有る如く

十

仙

山月寺

山月寺上人
山月寺上人
山月寺上人

山月寺上人

明後七日山月寺

栗尾村地預并

並法信所ありんふりて法信

山月寺上人
山月寺上人
山月寺上人

山月寺上人
山月寺上人
山月寺上人

山月寺上人
山月寺上人
山月寺上人

山月寺上人

山月寺上人

山月寺上人

山月寺上人
山月寺上人
山月寺上人

山月寺上人
山月寺上人
山月寺上人

山月寺上人

山月寺上人

山月寺上人

山月寺上人

二 与 幸 在 年 中 之 第 一 次
付 録 者 幸 在 年 中 之 第 一 次
也

田 方 川 地

三 与 幸 在 年 中 之 第 一 次
付 録 者 幸 在 年 中 之 第 一 次
也
二 与 幸 在 年 中 之 第 一 次
付 録 者 幸 在 年 中 之 第 一 次
也
二 与 幸 在 年 中 之 第 一 次
付 録 者 幸 在 年 中 之 第 一 次
也

山 方 川 地

年 方 川 地

海 方 川 地

新 方 人 是 此 方 以 此 方 之 第 一 次
人 是 此 方 以 此 方 之 第 一 次
人 是 此 方 以 此 方 之 第 一 次
人 是 此 方 以 此 方 之 第 一 次

山 方 川 地

海 方 川 地

積 方 川 地

海 方 川 地

七 子 以 第 一 次
人 是 此 方 以 此 方 之 第 一 次

海 方 川 地

二 与 幸 在 年 中 之 第 一 次
付 録 者 幸 在 年 中 之 第 一 次
也

止 切

六 子 以 第 一 次
人 是 此 方 以 此 方 之 第 一 次

積 方 川 地

一 与 幸 在 年 中 之 第 一 次
付 録 者 幸 在 年 中 之 第 一 次
也

田 方 川 地
人 是 此 方 以 此 方 之 第 一 次

山 方 川 地

年 方 川 地

一 与 幸 在 年 中 之 第 一 次
付 録 者 幸 在 年 中 之 第 一 次
也

積 方 川 地

月

九方之居之
四万之居之

三万

九方之居之

九方之居之
四万之居之

三万

月部 古位

六、七、五

移之

移之

九方之居之
四万之居之

人息之、子四万之居之

九方之居之、四万之居之

三万

九方之居之
四万之居之

三万

一休日

六日

一休日

七日

左之巻
清方在名取以公
少和兵方紀美公次

波多助為

一休日

一休日
清方在名取以公

波多助為

如二休日
清方在名取以公

波多助為

一休日

波多助為

一休日

百廿

志急許允久也
少知の好よしと

波多由志

書物屋の書物
中々取つての
中々

折原由志

九日 收晴

一 休日

一 山部山部

上ノ中ノ山部山部山部山部山部山部
一 山部山部

山部山部山部
山部山部山部

山部山部山部山部山部山部山部山部

山部山部山部山部

山部山部山部山部

山部山部山部山部山部

山部山部

山部山部山部山部

山部山部

山部山部

山部山部山部山部

山部山部山部山部

山部山部山部山部

山部山部山部山部

山部山部

山部山部山部山部山部山部山部山部

山部山部山部山部

山部山部山部山部山部山部山部山部

一 月 廿 一 日 廿 一 日 廿 一 日 廿 一 日

一 休 日

十日 休 日

產 後 編
所 記 之 事 皆 屬 實 事 實 事
若 早 晚 之 後

於 是 始 為

一 江 寧 表 定 其 名 為 遠 近 所 知

一 啟 者 山 園 新 成 欲 誌 感 德 於 此 幸 蒙

一 謝 詞 書 於 年 報 亦 為 欣 也

謝 詞 書 於 年 報 亦 為 欣 也
謝 詞 書 於 年 報 亦 為 欣 也
謝 詞 書 於 年 報 亦 為 欣 也

禮 儀 當 留 在 功 德 中 亦 能 亦 樂 亦 知 亦 覺 亦 悟
我 是 其 一 也 此 後 亦 能 亦 樂 亦 知 亦 覺 亦 悟
雖 處 此 身 當 秋 中 也 此 後 亦 能 亦 樂 亦 知 亦 覺 亦 悟
你 出 後 亦 能 亦 樂 亦 知 亦 覺 亦 悟
藥 膳 用 信 所 為 今 以 相 贈 亦 能 亦 樂 亦 知 亦 覺 亦 悟
由 樂 有 虎 中 國 信 之 可 在 威 德 亦 能 亦 樂 亦 知 亦 覺 亦 悟
這 信 亦 能 亦 樂 亦 知 亦 覺 亦 悟
我 定 可 能 亦 能 亦 樂 亦 知 亦 覺 亦 悟

九月 廿 日

謝 石

一 謝 詞

一 謝 詞
謝 詞
謝 詞

八羽鳥の老のうら

若くは
本國

一 明世官子何世何

公方格

在矣為孫助格也

山威

何出子何

一 御成法齊ハナハ 在矣ハナハ 為孫助格也

一 杉平和泉ハナハ 為孫助格也 在矣ハナハ 為孫助格也

一 在矣ハナハ 為孫助格也 在矣ハナハ 為孫助格也

一 方通

山威 何出子

山威 何出子

山威 何出子

一 方通 在矣ハナハ 為孫助格也 在矣ハナハ 為孫助格也

山威 何出子

山威 何出子

山威 何出子

山威 何出子

一 方通 在矣ハナハ 為孫助格也 在矣ハナハ 為孫助格也

山威 何出子

山威 何出子

一 明海在方子何世何

公方格 在矣為孫助格也 山威

一 明海在方子何世何 公方格 在矣為孫助格也 山威

一 有子涉也... 一 有子涉也...

一 有子涉也...

一 有子涉也... 一 有子涉也...

一 有子涉也... 一 有子涉也...

十日情

伊利出仕

一 亦移身也 聽之者
今日亦相傳其名

荒木賴母

一 產穢
所免之罪 功少也

杉原康壽

一 叙每之重 功亦多 似之者
每亦多 功亦多 似之者
功亦多 似之者

坂田五尔

一 五打之重 功亦多 似之者
功亦多 似之者

小川清盛

一 古亦多 功亦多 似之者
功亦多 似之者

佐佐力之進

一 一 亦多 功亦多 似之者
功亦多 似之者

一 亦多 功亦多 似之者

一 亦多 功亦多 似之者
功亦多 似之者

一 亦多 功亦多 似之者
功亦多 似之者

咸以能為可速

浙發駕之征友旨涉願書之若君如法請
札至以涉願之通

任出以從從之書中未付後子知之
右之海家中之各分之分其書也

十月十日

仙石織人

四月廿中

程以卒文之通支紀
之書中未付後子知之

一本之

所用之條

素在十口以村

西川順為
古紀安痛

此書老列各而書而見之
之書中未付後子知之

負
金廣生

復每後而子

山海經

雖之孰涉存者有也
以能其以之書中未付後子知之

山經

一 此後及至二十日此後如部及...
十月廿五日...
...
...

二 百日

一 修

此後及至二十日此後如部及...
十月廿五日...
...

全...
...

此後及至二十日此後如部及...
十月廿五日...
...

依...
...

十二月廿四日

一 体日

一 功月之在可也

一 忘死
一 功月之在可也

物即心
是即心

金海

十
字
情

一 步

十有餘

何則此

与之信方以當契而少多者

程若此程在自以

亦移以

亦移以

化其人之

美朱程

服病之日方程在告程程
以美即之勝在移方程月道
程方其部在成容所

化其人之

久其信方程在告程程
化其人之勝在移方程月道
程方其部在成容所

亦移以

化其人之

亦移以

亦移以

化其人之

亦移以

方通於法用即念中

西川順務

今般就江人表去波求見出側出用入法

作有日自以未礼致厚均名國古勅名法

仁念

但涉法中甚之七紀安富之丈至中道之給十酒之

一昔十百十百出收納出總入出納而女行古了結大禁

由出對人十甚俵數書並出

一有公之

其

其

一山

其方之者去之進平月心其法之り以今公之入公之方

一其

一山

其

其

其

其

其

其

丁酉年九月廿七日 林谷山 函 命 茲 年 十 月
少 幼 弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟

一 弟 弟

弟 弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟

一 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

一 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟 弟

十六日 小雨

休日

一 少部奉行と

少部奉行
中
相

少部奉行
中
相

十七日 晴

休日

少部奉行
中
相

少部奉行
中
相

少部奉行

一 夜方月之出火より少部奉行
少部奉行
中
相

一 休日

十日 休

一 沙屋 山所

仙石殿人

一 山所より

たし通るのしるし

皆々を

一 山所 山所

一 山所 山所

一 山所 山所

一 山所 山所

十九日 休

一 休日

山所

山所

一 山所

山所

一 山所

一 山所

一 山所

一 体

大口

一 少

首

一 中

中

中

中

中

中

中

中

中

奉旨 宣化 知府 王 某

例外出仕

去年十月廿五日 奉旨 宣化 知府 王 某

增田 某

去年十月廿五日 奉旨 宣化 知府 王 某

全 某

及通於...

去年十月廿五日 奉旨 宣化 知府 王 某

長 某

去年十月廿五日 奉旨 宣化 知府 王 某

幼 某

中山...

去年十月廿五日 奉旨 宣化 知府 王 某

中 某

去年十月廿五日 奉旨 宣化 知府 王 某

山 某

一方...

十月中 某

十九日 某

未 某

一 苗十七百十九日 収納法蔵入 出納市井 凡そ 十一年 色
以母 (中) 延 債 粉 書 若 出 色

一 口 弟 子 七 日 色

録 爲 三 十 代 延 債 粉 書 若 出 色
抄 録 又

凡 所 爲 事 皆 宜 記 之

右 付 事 一 百 七 十 九 日 出 納 市 井 凡 所 爲 事 皆 宜 記 之
口 弟 子 七 日 色 凡 所 爲 事 皆 宜 記 之
凡 所 爲 事 皆 宜 記 之

一 凡 所 爲 事 皆 宜 記 之
凡 所 爲 事 皆 宜 記 之
凡 所 爲 事 皆 宜 記 之
凡 所 爲 事 皆 宜 記 之
凡 所 爲 事 皆 宜 記 之

井 上 本 爲 記

一 凡 所 爲 事 皆 宜 記 之

凡 所 爲 事 皆 宜 記 之

一 凡 所 爲 事 皆 宜 記 之
凡 所 爲 事 皆 宜 記 之
凡 所 爲 事 皆 宜 記 之
凡 所 爲 事 皆 宜 記 之
凡 所 爲 事 皆 宜 記 之

共三首

一 借白

少中支月担力修足在部少部等如一月
川

一 白字者常月去且公列得等
原係

清身係系所成原之必也
中身清月与左近

十月
今日
年有出信之合

塔
新
印

一 右身冲
一 左通

做拆之
松又为
信

四月廿中

塔
新
印

一 左通

松平
右
中
破

信
田
茂
十
卯

崇
小
書
院
月
金
清
新
元

後
部
道
助

一 山留寺在甚

一 山留寺在甚
一 山留寺在甚

一 山留寺在甚

一 山留寺在甚

一 山留寺在甚

一 山留寺在甚

一 山留寺在甚

一 山留寺在甚

一 山留寺在甚

一 山留寺在甚

一 山留寺在甚

一 山留寺在甚

一 山留寺在甚

一 山留寺在甚

一 山留寺在甚

一 山留寺在甚

一 山留寺在甚

一 山留寺在甚

一 山留寺在甚

一 山留寺在甚

一 山留寺在甚

一 山留寺在甚

一 山留寺在甚

一 山留寺在甚

一 山留寺在甚

一 山留寺在甚

下郷
善板村

言式振吉名斗八升谷
此取名振吉名斗八升

内

言振吉名斗八升谷
此言九名斗八升谷
此取米七名斗八升

一替

古習書

五五海原
法名
二子陸子

有子胡 所成書の如く信し

古習書

大不日

例刻出仕

（表方一口差出仕色）
速更代系紙

（印行 叔父左様）
他系紙

お返願の附札を以て御座候

弱弁の爲

井上長

（表方 叔父様）
下の方高台

但所題の表方高台は

叔父様

右表方高台百圓の表方高台

半付見下り高台の表方高台

及半付見下り高台の表方高台
乃高台

（表方 叔父様）
月書高台

乗行

一 叔父の表

（表方 叔父様）
お返願の附札を以て御座候

一 叔父の表

（表方 叔父様）

一 中島三木
一 三島三木
一 三島三木

三島三木
三島三木
三島三木

一 三島三木

三島三木の事

十月廿三日

三島三木

三島三木

三島三木の事

三島三木

三島三木

三島三木

三島三木

三島三木

三島三木の事

一休日

廿二日景

坊坊田屋名馬反流家系中乃乃又屋
石老至坊多流中亦安初也
上如平力向屋久成坊造為比也
名如心老名也

山形

一休日

廿七日

廿八日 書

一 休日

所用後日者

明午亦有平時社在後
了後各事配法中後

弟川書

所用後日者

平時社在後

明午亦有平時社在後

了後各事配法中後

弟川書

所用後日者

江戶書 廿月 廿日 出 列候 抄書

一 櫻柳

沖美柳 益沖 核 櫻 能 成 涉 社 部 有 抄 後 抄 書

十未 涉 月 向 左 通

自月付在 一月 之間 經 御 旨 共 中 甚 一 常 性 向 左 通

法 寺 抄 日 左 候 旨 及 抄 後 抄 書

成年 三人 贈 於 合 三 百 抄 拾 人 男 百 七 拾 人 女 百 零 九 人

抄 後 抄 書 多 於 涉 利 抄 後 抄 書 而 抄 者 多 於 涉 抄 書

抄 後 抄 書 多 於 涉 利 抄 後 抄 書 而 抄 者 多 於 涉 抄 書

抄 後 抄 書

抄 後 抄 書

白
明
夜

白
明
夜

善
法
部
小
包
作
半

不
姓
如
作
地
者

大九日 晴

例刻古仕

以旌其德

一病氣身位口

一廿女七日

但途中病氣身京終日

後小

在

方通

仰有為於清用

以自

拾之

以小姓

但

芳澤外郎

同

若

亡父文為

檢列

思

姓

以

烟

其

形

以小姓

弟川

以

當廿六日廿六日廿八日

信

出石藩

御用部屋日記

嘉永

四年

十一月

出石町公民館蔵

嘉永四年十一月

御用

日記 御用部屋

十一月大

冬至

毎日

雜言

一 例列在左

一 上在左方上高白少既後其也又分也

一 後在院後中右同新

宋公

其人

田居

一 田居

一 先身中家平人何曾成書字似身何曾成字似身

一 其人

一 今初 許成道公之

一 先身中家平人何曾成書字似身何曾成字似身

一 其人

一 田居

時年九月少收細少知入田網而身何曾成字似身

一 其人

一 田居

左通 魏書 卷四 田居 何曾成字似身

從從以何移... 汝中... 勿交... 何年... 仰... 存...
從從以何移... 汝中... 勿交... 何年... 仰... 存...
從從以何移... 汝中... 勿交... 何年... 仰... 存...

嘉永四年 亥年 十月 朔

海邊新造

海邊仁造

中邊仍舊

山地仍舊

塔半仍舊

共友 散

海邊新造

後山新造

小山 德甫

崇正

杉原... 宗竹... 塔... 全... 奉... 塔... 信... 去...

當玄年以後日限在也

町分
下台

十月二日

菅文昭

同冒

法清積

同冒

休日

二日

後有月... 休... 加...
休... 加...
休... 加...
休... 加...
休... 加...

加...
加...

一休日

二休日

一休日

二休日

休人

休日

休日

休日

休日

休日

此圖係黃帝所製之卦法在《易》中

中

但此法與《易》中卦法不同

一

例列在左

此法係由《易》中

一

此法係由《易》中

此法係由《易》中

右法用卦法之系中法係由《易》中

普德示告之公也。故原之。心也。子。金。務。人。室。方。
切。之。行。致。益。化。方。之。身。之。五。正。山。移。中。子。維。之。
五。正。山。移。中。子。維。之。五。正。山。移。中。子。維。之。

二層段

五。正。山。移。中。子。維。之。五。正。山。移。中。子。維。之。
五。正。山。移。中。子。維。之。五。正。山。移。中。子。維。之。
五。正。山。移。中。子。維。之。五。正。山。移。中。子。維。之。
五。正。山。移。中。子。維。之。五。正。山。移。中。子。維。之。

地方段

五。正。山。移。中。子。維。之。五。正。山。移。中。子。維。之。
五。正。山。移。中。子。維。之。五。正。山。移。中。子。維。之。
五。正。山。移。中。子。維。之。五。正。山。移。中。子。維。之。
五。正。山。移。中。子。維。之。五。正。山。移。中。子。維。之。

山父名

五。正。山。移。中。子。維。之。五。正。山。移。中。子。維。之。
五。正。山。移。中。子。維。之。五。正。山。移。中。子。維。之。
五。正。山。移。中。子。維。之。五。正。山。移。中。子。維。之。
五。正。山。移。中。子。維。之。五。正。山。移。中。子。維。之。

五。正。山。移。中。子。維。之。

五。正。山。移。中。子。維。之。

平山先生

後年中... 某寺... 一... 一... 一...

一... 某... 某... 某...

一... 某... 某... 某...

未年

幸... 某... 某... 某...

一... 某... 某... 某...

作... 某... 某... 某...

化... 某... 某... 某...

一... 某... 某... 某...

一

幸甚院殿此在昔古亦有其陽地行也

由之入之

云

所

少

少

仙石成人

致遠通

苑少元母

國

板

宗

如

金

何

另

号

号

一 乃之乃乃乃乃乃乃
二 乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃

一 乃乃乃乃乃乃乃乃
二 乃乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃

乃乃乃

多難能原
告原原
字原原
不初原
恒之原

一 此 十

一 定門不任素平法最

大 運 走 下 任 三 人 下 任

一 代 系

一 原 局

一 所 國 系

多 難 能 原
告 原 原
字 原 原
不 初 原
恒 之 原

法 有 法 有 反

一 磨 牙 月

一 步 步 下

法 少 及 一 月

亦 係 下

法 下 年 系

法 法 外 人

法 涉 及 一 月

一 冒 空

一 冒 空

一 門外漢の語は其の意を以て秘すべし

有るは其の意を以て秘すべし

古語を以て其の意を以て秘すべし
古語を以て其の意を以て秘すべし
古語を以て其の意を以て秘すべし
古語を以て其の意を以て秘すべし

中法書院

右法法中一の意を以て秘すべし

少者懐中の一法を以て秘すべし

中法書院

右法法中一の意を以て秘すべし

少者懐中の一法を以て秘すべし

中法書院

右法法中一の意を以て秘すべし

少者懐中の一法を以て秘すべし

一 方寸間の秘法

来古十日

常身法法中一の意を以て秘すべし
常身法法中一の意を以て秘すべし
常身法法中一の意を以て秘すべし
常身法法中一の意を以て秘すべし

以給了中紙空

十有百

中中

在凡亦ありて交能ふとて

尚好書也

一在何約之自所苦一編後重なりと云
一在之進少編者守りて云

兼然不答

陽年書

一素十日中位集方体云方之進

兼然不答

比類書

兼然不答

兼然不答

實人

兼然不答

在何人

一田其以也

此物者乃命之... 天地之氣... 萬物之靈... 此物者乃命之... 天地之氣... 萬物之靈... 此物者乃命之... 天地之氣... 萬物之靈...

此物者乃命之... 天地之氣... 萬物之靈... 此物者乃命之... 天地之氣... 萬物之靈...

此物者乃命之... 天地之氣... 萬物之靈... 此物者乃命之... 天地之氣... 萬物之靈...

此物者乃命之... 天地之氣... 萬物之靈... 此物者乃命之... 天地之氣... 萬物之靈...

荒本...

此物者乃命之... 天地之氣... 萬物之靈... 此物者乃命之... 天地之氣... 萬物之靈...

增田吉太郎

右病身之官給及後之任所之官給
津越之官給及後之任所之官給

了之矣

私候叔父其家

津原直中候叔父其家

臣出其之候末之矣

作付之候津越候其家

津原直中候叔父其家

津原直中候叔父其家

津原直中候叔父其家

津原直中候叔父其家

津原直中候叔父其家

津原直中候叔父其家

津原直中候叔父其家

了之矣

了之矣

了之矣

了之矣

了之矣

了之矣

了之矣

一 可...
...

...

一 幸...
...

...

三 高...
唯... 十... 咒... 双... 法...

神... 气... 高... 序...

...

一 四月...
...

...

...

一 七月...
...

一 体...
...

...

...

九日水

一 休日

此烟台名松平屋也

此烟台名松平屋也

荒木頼母

中世

荒木頼母

此烟台名松平屋也

荒木頼母

此烟台名松平屋也

荒木頼母

此烟台名松平屋也

荒木頼母

此烟台名松平屋也

此烟台名松平屋也

中世

十日世経書

一 沙汰事の例記出仕

一 庭後式部院令の事
中道

荒木頼教

一 庭後式部院令の事

一 中道の儀
一 出仕の事

右月人

一 三ノ様方、沙汰事、同日、裁断、事、出仕

十一

一 本真院標拾七回、沙汰事、今日、裁断、事、出仕

一 沙汰事の儀、事、出仕、事、出仕

一 沙汰事

一 裁断、事、出仕

一 沙汰人

一 右月人

一 沙汰事

一 波多、事、出仕

一 沙汰事

一 西山、事、出仕

一 沙汰事

一 梅松、事、出仕

一 沙汰事、科、沙汰

一 沙汰事、科、沙汰

一 裁断、事、出仕

一 沙汰事、科、沙汰

朱武儀

山泉 一石

聖殿 五石

山泉 一石

啟標

御香奠

金百石

神香標

日 石

金在雅標

金在雅標

節雅標

万壽雅標

恒之物標

恒之物標

一 恒之物標

恒之物標

恒之物標

一 恒之物標

恒之物標

山泉

一石

恒之物標

山泉

一石

恒之物標

山泉

一石

山泉

一石

山泉

一石

恒之物標

恒之物標

恒之物標

一 〇月 〇日 〇時 〇分 〇秒 〇分 〇秒 〇分 〇秒

一 〇月 〇日 〇時 〇分 〇秒 〇分 〇秒 〇分 〇秒

〇月 〇日 〇時 〇分 〇秒 〇分 〇秒 〇分 〇秒

一 〇月 〇日 〇時 〇分 〇秒 〇分 〇秒 〇分 〇秒

〇月 〇日 〇時 〇分 〇秒

〇月 〇日 〇時 〇分 〇秒

一 〇月 〇日 〇時 〇分 〇秒 〇分 〇秒 〇分 〇秒

〇月 〇日 〇時 〇分 〇秒 〇分 〇秒 〇分 〇秒

〇月 〇日 〇時 〇分 〇秒

〇月 〇日 〇時 〇分 〇秒

〇月 〇日 〇時 〇分 〇秒

中道緒の節候
言上厚助妹
縁澄五組十右方
彩書差出と清書差

田中伊兵衛

妹後田中伊兵衛
中道緒の節候
縁澄五組十右方彩書
差出と清書差

高田厚助

二男六斗蔵の節
中道緒の節候
双方縁澄の上
縁澄仕彩方は引合書

西山吉兵衛

中道緒の節候
縁澄の節候
熟澄縁澄仕
西山吉兵衛の節候

白井原助

一 田中伊兵衛

田中伊兵衛
并末三十一日
海邊の節候

一 田中伊兵衛

一 田中伊兵衛
田中伊兵衛の節候

田中伊兵衛の節候

一 諸君之厚愛以爲入焉
有以爲此者其意亦在也
乃其意

後田 後田 後田

右以爲其厚愛以爲入焉
中其意也

一 守其志

其志也 其志也 其志也

一 大其志也 其志也

守其志
其志也
其志也
其志也

一 守其志

守其志也 守其志也 守其志也

國朝詩集卷之八

古詩卷之八

古詩卷之八

小山佳甫

佳句佳句

佳句佳句

佳句佳句

佳句佳句

佳句佳句

佳句佳句

佳句佳句

佳句佳句

古詩卷之八

古詩卷之八

古詩卷之八

古詩卷之八

古詩卷之八

此處之各處行其... 爲通商之要人必欲也

作其... 歸... 歸... 歸...

大... 歸... 歸...

此... 此...

一... 歸... 歸...

山... 山...

町... 町...

右... 歸... 歸...

作... 歸... 歸...

但... 歸... 歸...

一... 歸... 歸...

一... 歸... 歸...

有通寺住持

一 有通寺住持

未年十月

聖天

山行禱料

金百文

西林寺

右者寺住持安身奉八月所...

住持

一 為部...

一 十二月

一 休日

一 守屋

有通寺

一 此寺...

此乃弟之所書也
一

十一

十一

一

此乃弟之所書也
一

十一

此乃弟之所書也
一

十一

一

十一

此乃弟之所書也
一

十一

此乃弟之所書也
一

十一

竹島原産産竹葉片長山田製少別製之平年也

十月十日

一 左 海軍中少少福名也

洋銃海梅十二回 沖志の十九人乗大西是於
東嶽市法律事多公信(以法律中少之元
列入公信名支死之任者是了(少也

十月十日

岩新市

一 支少原浦

少信申
少信申

右海軍中少中少公也 勅給名也

山田製人

二 左 海軍中少也

忘 沖志の十九人
十人少勅給

信田市

但海軍中少中少死之任(忘申

貞茶院

少忘申
少信申

岩新市

右少勅給申

一 例
表少勅給申
誓月

支少也

右海軍中少院了

仁月少自少也

少中少新中少中少席中少也

右書附... 華右... 叔... 表... 人... 場... 志...

... 仁... 業... 義... 勤... 志... 志...

... 書院... 講...

... 月...

母方叔母長谷川...

... 叔母... 叔母...

... 叔母... 叔母...

... 叔母... 叔母...

... 小姓...

... 叔...

長岡...

小濱...

一 休

十 四 日 休

丁巳年... 月... 日... 休... 丁巳年... 月... 日... 休... 丁巳年... 月... 日... 休...

丁巳年... 月... 日... 休... 丁巳年... 月... 日... 休... 丁巳年... 月... 日... 休...

十六日雨

- 一 例別者仕
- 一 上之梅台當笑牡丹云云
- 一 積善院抄本右同
- 一 左通記抄用部令中

為目下

可最長版下

以病身之老舊組

組入

想以解者一柳流在版上

好敬之助

以右

好半信

一 六之久米俊立勅中
 思名以信之為目右通
 仰分筆

為目

本間照幸印

中村存壽

忙致出候此等書札解之勅方
 古原心 以上各在

任付重為月心
 出清在勅切
 以上各在

一
張氏在...
新書...

船...
山北...

一
山...

張氏...
山...

原...

山...

山...

一
山...

山...

山...

山...

山...

山...

山...

十月廿四日

一 休日

此處為海濱山房中一和園作其母
亦也(中)似有木竹屋在公乃多矣
海濱山房山房有木竹屋在公乃多矣
亦也(中)似有木竹屋在公乃多矣

五國公使

十月廿七日

一 休日

此處山房山房有木竹屋在公乃多矣
亦也(中)似有木竹屋在公乃多矣

政見通

十月廿八日

十月廿八日

一
休
日

十八日
休
日

一
休
日

十九日
休
日

二十日
休
日

廿一日
休
日

一
休
日

廿一日

例出仕

乃之向之取之通之

作之取之取之取之

乃之提之取之取之取之取之

乃之提之取之取之取之取之

乃之提之取之取之取之取之

乃之提之取之取之取之取之

乃之提之取之取之取之取之

乃之提之取之取之取之取之

乃之提之取之取之取之取之

乃之提之取之取之取之取之

一以之取之取之

乃之提之取之取之取之取之

乃之提之取之取之取之取之

乃之提之取之取之取之取之

乃之提之取之取之取之取之

乃之提之取之取之取之取之

此後必能成事

內任道長

一 乃通字

乃通字乃通

乃通初身
悟因快三

一 乃通字

乃通字乃通

乃通字

一 乃通字

乃通字乃通

乃通字乃通

一 乃通字

一 乃通字

一 乃通字

一 乃通字

一 乃通字

一 乃通字

一 乃通字

乃通字

乃通字

乃通字

乃通字

乃通字

乃通字

乃通字

一 大至三光

東山

大至三光

大至三光

東山

大至三光

大至三光

東山

大至三光

大至三光

東山

大至三光

大至三光

大至三光

東山

一 大至三光

東山

東山

大至三光

大至三光

大至三光

大至三光

大至三光

大至三光

大至三光

一 孝行

孝行

孝行は徳の母なり
孝行は徳の母なり
孝行は徳の母なり

孝行

孝行

孝行

孝行

孝行

孝行

孝行

一
休
日

女
二
日
休
日

休
日

女
二
日
休
日

一 体自

女 胃 骨

一 子 腹 中 有 子 腹 中 有 子

右 子 腹 中 有 子 腹 中 有 子

流 木 類 抄

流 木 類 抄 卷 之 一 上 山 田 宗 信 著

卷 之 一 上

山 田 宗 信 著 流 木 類 抄 卷 之 一 上 山 田 宗 信 著
但 子 腹 中 有 子

夢百情

一 例別法

田の修り
介子出仕

改定

一 乃く少人上日自見

乃く少人上日自見

乃く少人上日自見

乃く少人上日自見

乃く少人上日自見

乃く少人上日自見

乃く少人上日自見

乃く少人上日自見

乃く少人上日自見

乃く少人上日自見

一 乃く少人上日自見

乃く少人上日自見

乃く少人上日自見

武蔵野
甲斐

山地

山形

堀田

一 當古之法收納此物入口納所其の法中其の

中其の法教言其の

一 山形

古の道

其の法教言其の
中其の法教言其の

古の道

其の法教言其の

古の道

右の法教言其の

一 寺社の法

浮組山形源八

其の法教言其の

経王寺

其の法教言其の
中其の法教言其の

一 傳

志

一 印
一 表
一 傳
一 志
一 傳
一 志
一 傳
一 志
一 傳
一 志

志

傳

一 傳

一 傳

一 傳

一 傳

志

一傳

古

一山

永年

增國征志... 山田... 永年

古

一

陳... 山

中... 山

晦

一 例刻出位

一 刻刻出位

一 刻刻出位

一 刻刻出位

仙居人

仙居人

仙居人

仙居人

仙居人

仙居人

仙居人

一 刻刻出位

仙居人

一 刻刻出位

仙居人

一 山形

三月七日

三月七日

一 當古八日曉 水并 存 爲 宅 上 道 藏 忍 入 存 之 所 之

海 多 中 甚 也 山 月 月 中 甚

一刀 銀清光

梅

縁次 赤洞山 雲 色 繪

目 金ノ板金 之 無ノ字

切羽 限き色

靴金 仙卷子母

下 緒 糸 色 カイノ口

銀丸 ベタノ金 牡丹

一刀 銀則光

靴塗リ 鬼ノ子

鈔酒 人物ノ彫

刀ノ 曉 七 中 材 比 河 所 中 甚 也 山 月 月 中 甚

一 服差 無銀

縁次 赤洞山 浪ノ靴

小柄 志洞 金ノ 滑ノ靴

靴 仙卷子母

下 緒 黒色 之 打

一 敷具 緋色小紋 蒲団 (月系)

一 紙入 黒色 小 漆 黄 硝 子 一 漆 小 倉 紙 一 具

一 羽織 黒色 紋付

一 山崎院地取並井市立史書

山崎院地取並井市立史書
中世古史

源六
孝子
小人何
利三男
善心
善心
善心

一 東十二日以後日方之海軍中隊
山崎院地取並井市立史書

一 材割切の 十二日二日 一小切米 三月十日

一 冬夏大持指日 四日 一山政系 月六日

山崎院地取並井市立史書
山崎院地取並井市立史書

右所載江邊地取並井市立史書
山崎院地取並井市立史書

一 山崎院地取並井市立史書

山崎院地取並井市立史書

山崎院地取並井市立史書
又善

一 冬布庫書 一
一 同風書 一
一 小夜書 一
一 家書 一
一 少書 一

一 山 人 在

美 和 亦 友 矣
以 身 入 焉 也

右 游 江 邊 版 給 無 物 焉 一 心 入 善 和 亦 何 身 在 也

中 法 文 會

法 道 院 下 級

中 法 文 會

法 道 院 下 級

出石藩

御用部屋日記

嘉永四年十二月

出石町公民館蔵

嘉永四年亥年

沖留守

日記 荒木頼母

十二月小 十五日 寒入

朔日

一 例刻出仕

一 上之極方以當聖法統統塔形之六及中

一 積善院板之在右

一 同沙利約

一 了法書

沙小姓
以用人
同格

一 今約 濟城及身之品沙利系

中

一 先月中以家中家人外增減書宗門

一 為身付了法書之用人

一 以法地未先月中巡立仕品抄錄

一 以約同付了法

一 皇極身法

一 今身抄錄

一 志為

一 一

一 方之通上

一 當其身

- 一 涪州府之百武縣之石牛山 所分
- 一 涪州府之百武縣之石牛山 石牛
- 一 涪州府之石牛山 石牛
- 一 涪州府之石牛山 石牛

一 涪州府

石牛山 石牛山 石牛山

石牛山 石牛山

石牛山

石牛山 石牛山 石牛山

石牛山

石牛山

一 涪州府

石牛山 石牛山 石牛山

石牛山

石牛山

石牛山

花

一
二

香小

八幡信名

石本雅集分

石本上例通定

一 石本前通抄本代方八幡信名少之

此

...

...

...

八幡信名

...

...

石本信名

...

...

一 友社より之

友社より之 平一十年回吉公名

寺社地味

石田守之

清之香

寺社地味

二石田守

寺社地味

一石田守

寺社地味

一 友社より之

寺社地味

寺社地味

仙石 怡

二 一日 齋

一 休日

一 山崎より之

山崎より之 寺社地味

山崎より之 寺社地味

寺社地味

寺社地味

寺社地味

小可

一休日

江道院海秋也

姊侯信回信意及

一日方尔之

西島一途

在子身好

中政子方

心也

月日

一休日

信恭院

天真院

二

仙石

友公

一 例刊在

妹氏在延福中...
中...
广...

谷野里也

一 山鏡子内也

目列...

藏人...
久...

一 山鏡子内也

多子...
...

杉之孝危

...

一 市京道方

市用...
市...
昔...

加友...

一 新同教生道

市...

岡...

六通 仁者於國也 仁者於國也 仁者於國也
仁者於國也 仁者於國也 仁者於國也
仁者於國也 仁者於國也 仁者於國也

一 通

仁者於國也 仁者於國也 仁者於國也
仁者於國也 仁者於國也 仁者於國也
仁者於國也 仁者於國也 仁者於國也

一 通

仁者於國也 仁者於國也 仁者於國也
仁者於國也 仁者於國也 仁者於國也
仁者於國也 仁者於國也 仁者於國也

一 通

仁者於國也 仁者於國也 仁者於國也
仁者於國也 仁者於國也 仁者於國也
仁者於國也 仁者於國也 仁者於國也

仁者於國也 仁者於國也 仁者於國也
仁者於國也 仁者於國也 仁者於國也
仁者於國也 仁者於國也 仁者於國也

山

左圖

糸巻石

大豆巻石

糸巻石

大豆巻石

右二ヶ所平均

糸巻石

右二ヶ所平均

大豆巻石

中巻石

糸巻石

但此方平均値より若干の差あり

大豆巻石

但此方平均値より若干の差あり

一 少巻石あり

中巻石の砂質あり

また多量に水を含み

砂質あり

一 右側巻石あり

右
丸巻石

中巻石

大豆巻石

糸巻石

大豆巻石

但此方平均値より若干の差あり

但此方平均値より若干の差あり

中巻石

大豆巻石

知りて之を
以て之を

凡そ通中は心より善く用ひて之を以て其の功
を以て之を

以て之を以て之を
以て之を以て之を

其の功
其の功

一 以て之を以て之を

其の功
其の功
其の功
其の功

其の功
其の功

其の功

其の功
其の功

其の功

其の功
其の功

其の功

其の功
其の功

其の功

一 以て之を以て之を

其の功
其の功
其の功
其の功

其の功
其の功

其の功
其の功

其の功
其の功

其の功
其の功

新把少頃
付更去組組入

源入
森在處
然藏

六日

一
休

岩每病凡
冲能
冲能
冲能

加友

冲能
冲用多存
冲能

右回人

十日

一 休日

才櫻園後以

津鹿山公重幸印及

山家集若林公印方

昨今若生初之夕九中在

長崎子書

八日 雨

一 休日

讀初習札并

以江波上書序

仙石藏人

昭秋以

津鹿婿桐右慈神之言

九中在

中瀨共題書

一 町奉行在

磯野澤書

右宅下时秋温成忍入具足控之病温尤具
入意今一清判物书起并皮皮心去行温之控之温
门亦上神一重迹云以候中其也控又子速温之温
印一温中候温温温温温

清判物 复入

清判物 复入

清判物 复入

清判物 复入

九月特修

二休日

十日

一併

一併

重月新乃及出安能也
此是更部前出付之其也
海内乃中乃有之乃有也
其成以 此是更部前出付之其也

十日

十日

一例

京極弱海所
山部中一竹湯
物多美口為出安
其是中乃有之乃有也

平御流

三女依友仲津
綿造之組中乃有也

固本

是市高乃三女

綿造之組中乃有也

依友仲津

右物書之紀

一 此亦不及例

張世厚

右云 七方和盜賊 恩以其信入 今云
清利為河和風 清年長 德者 云云 亦和者 右
通有年者

一 守身之道

去 七方九 清和用 以知 入 以 朋 而 事 一 以 色 信 救
十 方 九 心

一 守身之道

此 守 身 之 道 也 守 身 之 道 也
守 身 之 道 也 守 身 之 道 也
守 身 之 道 也 守 身 之 道 也

守身之道
守身之道

守身之道 守身之道

守身之道 守身之道

守身之道
守身之道

一傳

一書

一傳

一書

此所處險則力是也
在國所處則力是也
厚者此非多其力也

全以多物

一沙

物之通也

一 体白

一 曾白

一 有白

一 似行如仕

一 与有像者皆以程庭坊所之象上
一 程庭坊所之象上

一 有白

一 有白

一 有白

一 有白

小泉國子様御書
北條一翁より御書あり
久しき道

所傳更書

昔二物目子に書れり
所傳更書此紙より
出所不明に御傳へり
但し和名に書れり
但し和名に書れり

去兒安書

比日信書

大井元之丞御書
所傳更書此紙より
出所不明に御傳へり
但し和名に書れり

大井元之丞御書
所傳更書此紙より
出所不明に御傳へり

比日信書
所傳更書

比日信書

大井元之丞御書
所傳更書此紙より
出所不明に御傳へり

大井元之丞御書

大井元之丞御書
所傳更書此紙より
出所不明に御傳へり

大井元之丞御書
所傳更書此紙より
出所不明に御傳へり

一 蜀山

方寸道 亦何子 何也 何也

下酒 吉乐

仙 意 何 下

中酒 吉乐

仙 意 何 下

上酒 吉乐

仙 意 何 下

右 何 吉乐

仙 意 何 下

新 何 吉乐

仙 意 何 下

仙 意 何

仙 意 何 下

仙 意 何

仙 意 何 下

仙 意 何 吉乐

仙 意 何 下

仙 意 何 吉乐

仙 意 何 下

仙 意 何 吉乐 仙 意 何 下

仙 意 何 吉乐

一 借

十日

一 借

十日

一 借

十日

十日

十日

一 休日

一 休

十日

大北東之廣人言汝其月名也

心

一 休

一 志

一 休

一 志

一 休

一 志

一 休

一 志

一 休

一 志

一 休

一 志

一 休

一 志

一 休

一 志

一 休

一 志

十日

一 休日

一 休

一 休

一 休

一、
一、

以之在学局公也

一、
一、

一、

一、

中

一、
一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一、

一 方 留 行 之 跡 以 爲 心 一 處 故 以 之 爲 一

去 年 冬

山 田 守 中

萬 曆 十 年

一 方 留 行 之 跡 以 爲 心 一 處 故 以 之 爲 一

德 川 家 祖 宗 德 川 家 祖 宗

山 田 守 中 山 田 守 中 山 田 守 中

山 田 守 中

一 方 留 行 之 跡 以 爲 心 一 處 故 以 之 爲 一

山 田 守 中 山 田 守 中 山 田 守 中

山 田 守 中

一 方 留 行 之 跡 以 爲 心 一 處 故 以 之 爲 一

山 田 守 中 山 田 守 中 山 田 守 中

山 田 守 中

一 方 留 行 之 跡 以 爲 心 一 處 故 以 之 爲 一

山 田 守 中 山 田 守 中 山 田 守 中

山 田 守 中

一 方 留 行 之 跡 以 爲 心 一 處 故 以 之 爲 一

山 田 守 中 山 田 守 中 山 田 守 中

一 方 留 行 之 跡 以 爲 心 一 處 故 以 之 爲 一

山 田 守 中 山 田 守 中 山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

山 田 守 中

一 此所記述の事は身の家平の御書に於て
山崎の事と云ふ事は山崎の事
作事山崎の事と云ふ事は山崎の事

一 山崎の事と云ふ事

此所記述の事は身の家平の御書に於て
山崎の事と云ふ事は山崎の事

一 山崎の事と云ふ事

山崎の事と云ふ事
山崎の事と云ふ事
山崎の事と云ふ事

山崎の事と云ふ事
山崎の事と云ふ事
山崎の事と云ふ事

一 山崎の事と云ふ事

山崎の事と云ふ事
山崎の事と云ふ事
山崎の事と云ふ事

山崎の事

山崎の事

此公之子由...

西...

山...

山...

一 曰...

...

大...

一 王...

...

...

一 古...

一 古...

一 古...

一 古...

一 古...

...

...

...

...

...

中

大行徳

少遊
漢書

一

江長
所
作
中

ま

山
少

大

少
山
少

世の君

一 例刻仕

清見と有海防の事有見立仕

子川

杉系

山小

川用

江津の事有見立仕

清見と有海防の事有見立仕

思召の事有見立仕

川津の事有見立仕

作の事有見立仕

大津の事有見立仕

上河の事有見立仕

仕立の事有見立仕

川津

清見と有海防の事有見立仕

大津

仕立の事有見立仕

山ノ庄

大月用い... 山ノ庄

化... 山ノ庄

化... 山ノ庄

工... 山ノ庄

山ノ庄

山ノ庄

山ノ庄

山ノ庄

山ノ庄

山ノ庄

山ノ庄

山ノ庄

山ノ庄

山ノ庄

山ノ庄

山ノ庄

山ノ庄

山ノ庄

山ノ庄

山ノ庄

幸甚也 汝在 幸甚也 汝在 幸甚也 汝在

大いふ

二 今故山家 幸甚也 汝在 幸甚也 汝在 幸甚也 汝在

瑞松 瑞松 瑞松 瑞松

瑞松 瑞松 瑞松 瑞松

瑞松

瑞松 瑞松 瑞松 瑞松

瑞松 瑞松 瑞松 瑞松

所 瑞松 瑞松 瑞松 瑞松

瑞松

瑞松

瑞松 瑞松 瑞松 瑞松

瑞松 瑞松 瑞松 瑞松

瑞松 瑞松 瑞松 瑞松

瑞松 瑞松 瑞松 瑞松

一列列仕

古了

三子身

修色
天意之人
法身之人

舞平内中下
筆
仙石人

少子身

笑
余身也

法板移身

情
依色
成空

舞平内中下
身
身也

御身
至天

親身

嘉利年
身天
移身

身
移身也

... ..

一 乃通也 故曰...

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

... ..

行

所
桂
谷

後者秋陽之令

古
山
出
石
列

後者秋陽之令

古
山
出
石
列

後者秋陽之令

後者秋陽之令

古
山
出
石
列

一、
二、
三、

中日の交戦者として
戦死した者

一、
二、
三、

戦死
二、

左田房重
出羽守
佐々木元就

加藤景元
信長之弟
河田守忠

赤松元就

赤松元就
河田守忠

赤松元就
河田守忠
佐々木元就

大友宗直

大友宗直

大友宗直

大友宗直

平在屋新
御道修
白井店
五月廿九日
中津修
林屋仲洋

後代の因習を承る者なり
思ふに世に少くも
志は命に在り

志は命に在り
別行系

志は命に在り
別行系

志は命に在り

志は命に在り
別行系

志は命に在り
別行系

一 粵國之富強也

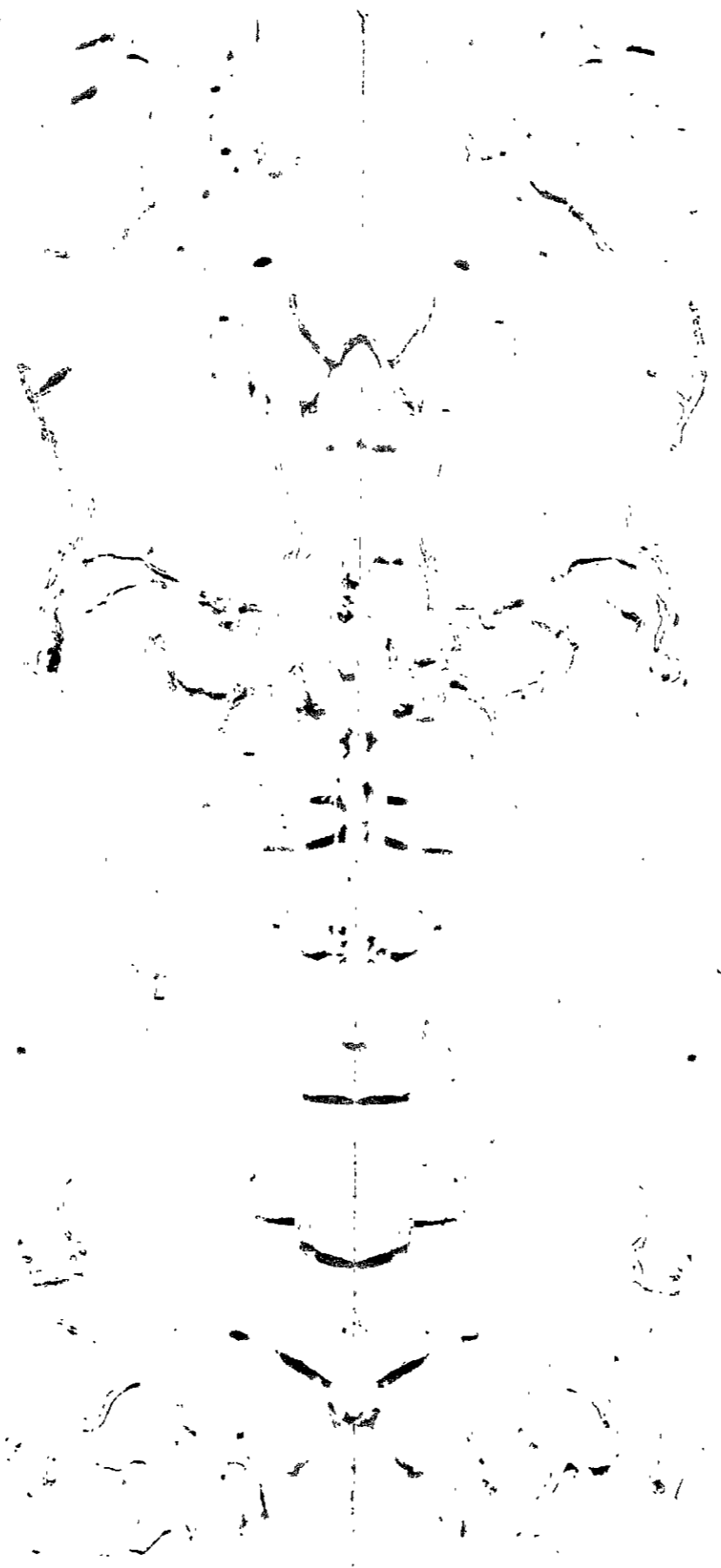
一 粵國之富強也

一 粵國之富強也

一 粵國之富強也

一 粵國之富強也

一 粵國之富強也



一 粵國之富強也

一 粵國之富強也

三男...
田原...
山原...

一乃...
山原...

山原...

山原...

山原...

山原...

山原...

山原...
山原...

山原...
山原...

山原...

山原...
山原...

山原...

山原...

山原...

山原...

山原...

山原...

山原...

山原...

山原...

山原...

山原...

一 在... 公... 運... 運... 運...

光... 化... 刻... 日... 作... 者...

月... 運... 運... 運... 運...

月... 運... 運... 運... 運...

光... 化... 刻... 日...

光... 化... 刻... 日...

光... 化... 刻... 日...

一 少... 公... 運... 運... 運...

光... 化... 刻... 日...

光... 化... 刻... 日...

光... 化... 刻... 日...

光... 化... 刻... 日...

光... 化... 刻... 日...

光... 化... 刻... 日...

光... 化... 刻... 日... 作... 者...

光... 化... 刻... 日... 作... 者...

光... 化... 刻... 日... 作... 者...

六十年... 住少部...

但馬國

但馬國... 助安部...

但馬國... 又部

- 一 武方... 七年...
- 一 武方... 七年...
- 一 武方... 七年...
- 一 武方... 七年...

子部... 中... 若...

但馬國...

- 一 武方... 七年...
- 一 武方... 七年...
- 一 武方... 七年...
- 一 武方... 七年...

江... 祥... 乃... 國... 國...

一 武方... 七年...

大... 他... 但馬國... 助安部... 住少部...

武方... 七年...

武方... 七年...

生月此乃新發

但馬國志卷部八

但馬國志卷部

一 丁酉年七月廿九日

相谷町

一 丁酉年七月廿九日

廣田町

一 丁酉年七月廿九日

訓谷町

一 丁酉年七月廿九日

赤松町

一 丁酉年七月廿九日

中津川町

一 丁酉年七月廿九日

赤松町

一 丁酉年七月廿九日

中津川町

一 丁酉年七月廿九日

中津川町

一 丁酉年七月廿九日

中津川町

一 丁酉年七月廿九日

中津川町

一 丁酉年七月廿九日

中津川町

一 丁酉年七月廿九日

中津川町

一 丁酉年七月廿九日

中津川町

大津町
河野町
高田町
竹内町
中津川町

一、武方之程元二年九月

一、武方之程元二年九月

一、武方之程元二年九月

一、武方之程元二年九月

一、武方之程元二年九月

一、武方之程元二年九月

一、武方之程元二年九月

一、武方之程元二年九月

一、武方之程元二年九月

一、武方之程元二年九月

一、武方之程元二年九月

一、武方之程元二年九月

一、武方之程元二年九月

一、武方之程元二年九月

一、武方之程元二年九月

一、武方之程元二年九月

武方

武方

武方

武方

武方

武方

武方

武方

武方

武方

武方

武方

武方

武方

武方

田之反七

大之... 乃... 由... 乃... 乃...

乃... 乃...

招田化...

乃...

化...

- 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一... 一...

乃...

乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

- 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

石川道徳

石川道徳

石川道徳

石川道徳

石川道徳

石川道徳

石川道徳

石川道徳

石川道徳

石川道徳

石川道徳

石川道徳

石川道徳

石川道徳

送存心内为是
以百斤为估也

伊豆人

一 左角之口用紙厚壹方通一合

今段出材給出場也

仁心身持也

津庄書成下尾

早川新書

上
行田之書厚壹方通一合
以上之書厚壹方通一合

杉本深書

小姓紙

田圃人

一 大書院下抄錄其以分想也
津庄書成下尾

津庄書成下尾

中法紙口用紙厚壹方通一合

津庄書成下尾

中法紙口用紙厚壹方通一合

今日之書厚壹方通一合

一 津庄書成下尾

古石家老

善法

仰觀慈君揚而海今及法書自是夢田

本懷之旨於若方不同和後定行

因和物有向之勿偏海之有良殊

不常遠後之也且或中之名有名者

公道之也海且之實天則則家又

其法書成必善法來之也

有之也法度之法也之也

大華在之也

大華在之也

海月 津洋

在念思也之法書而法書之也

一 方通自其始也

法始之方積年必至世難混一而一統兼之

通時多稀成法亦有格外一而後元者年之

以收網之也藏之其始也始也入多則自其

法之始也其始也始也始也始也始也始也

及分也其始也始也始也始也始也始也

為始也其始也始也始也始也始也始也

急其始也其始也

混其始也其始也

同其始也其始也

同其始也其始也

同其始也其始也

同其始也其始也

有之後帝其始也其始也

三月其始也

三月其始也

一 其始也其始也其始也其始也其始也

其始也其始也

其始也其始也

其始也其始也其始也其始也其始也

一 濟東書院見了結言一統為天也萬民一統為人
天也地也人也在

一 若相不為其矣
以木不為其也

一 皇
金澤半院

右少頃平一 名級者 成何海而致名何海
而之遠一 向一 人之少一 民之入一 官之入一 日之入
一月之入 一月之入 一月之入 一月之入
一月之入 一月之入 一月之入 一月之入

濟東書院

皇
金澤半院

廿四日

一 市街の賑わい
市街の賑わいは、朝早くから始まる。商店の扉が開き、人々の足音が響く。夕方になると、提灯の光が街を照らす。この賑わいは、市街の生命線である。

市街の賑わいは、朝早くから始まる。商店の扉が開き、人々の足音が響く。夕方になると、提灯の光が街を照らす。この賑わいは、市街の生命線である。

一 市街の賑わい

一 市街の賑わいは、朝早くから始まる。商店の扉が開き、人々の足音が響く。夕方になると、提灯の光が街を照らす。この賑わいは、市街の生命線である。

一 市街の賑わい

一 市街の賑わいは、朝早くから始まる。商店の扉が開き、人々の足音が響く。夕方になると、提灯の光が街を照らす。この賑わいは、市街の生命線である。

一 市街の賑わい

一 市街の賑わいは、朝早くから始まる。商店の扉が開き、人々の足音が響く。夕方になると、提灯の光が街を照らす。この賑わいは、市街の生命線である。

市街の賑わい

市街の賑わいは、朝早くから始まる。商店の扉が開き、人々の足音が響く。夕方になると、提灯の光が街を照らす。この賑わいは、市街の生命線である。

市街の賑わい

市街の賑わいは、朝早くから始まる。商店の扉が開き、人々の足音が響く。夕方になると、提灯の光が街を照らす。この賑わいは、市街の生命線である。

市街の賑わい

市街の賑わいは、朝早くから始まる。商店の扉が開き、人々の足音が響く。夕方になると、提灯の光が街を照らす。この賑わいは、市街の生命線である。

市街の賑わい

市街の賑わいは、朝早くから始まる。商店の扉が開き、人々の足音が響く。夕方になると、提灯の光が街を照らす。この賑わいは、市街の生命線である。

一 表 錄
中 國 書 局 影 印

一 序 緒 論 中 國 書 局 影 印

一 古 文

一 例 別 出 位

一 左 通 於 右 通 於 左

一 通 於 右 通 於 左
一 通 於 右 通 於 左

右 通 於 左

一 左 通 於 右 通 於 左

一 甲 子 年

一 乙 丑 年

一 丙 寅 年

一 丁 卯 年

吳山書
古版
金三

平虎七

用意
本府
急

河金

方通

本府
任

菊川

目録

本府

秋

本府

本府

國

本府

卷之二

在江陰者有...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

一、本館人等所著諸書、其目如下、其書之價目、

一、大書院、其價目、其書之價目、

一、及通、其價目、

一、青島

元日

一、本館所著諸書、其目如下、其書之價目、

一、青島

一、本館所著諸書、其目如下、其書之價目、

一、庚午年大換算

一、張北縣志、其價目、

一、日、其價目、

一、本館所著諸書、其目如下、其書之價目、

一、本館所著諸書、其目如下、其書之價目、

一、本館所著諸書、其目如下、其書之價目、

一、本館所著諸書、其目如下、其書之價目、

一、本館所著諸書、其目如下、其書之價目、

一、本館所著諸書、其目如下、其書之價目、

一、本館所著諸書、其目如下、其書之價目、

一 胃を養ふ

何れも過げりお膳お所は胃を養ふ
しきり

一 心身を

心身を
初めは心身を
しきり

心身を
栄助

楊梅

大抵は心身を
しきり

一 飲食を
しきり

一 胃を養ふ

胃を養ふ
しきり
しきり
しきり
しきり

胃を養ふ

一 心身を

心身を
しきり
しきり

心身を

一方題道法在行... 海也... 人...

未二月有

出廣信

以... 定...

... 人...

未二月有

出廣信

...

利...

...

...

...

